

修士論文 2023 年度

「日韓間の『記憶の政治』における世代交代効果
- 『靖国問題』を事例として -」

The Process of the Yasukuni becoming Controversy:
A Case Study of a Construction of Historical Recognition Issue

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

氏名 鈴木 莉乃

修士論文 2023 年度

「日韓間の『記憶の政治』における世代交代効果
- 『靖国問題』を事例として -」

論文要旨

本研究では靖国神社がどのようにして象徴化された「靖国問題」へと発展したのかを、「記憶の政治」と世代交代という2つの観点から検証する。日韓間の歴史認識問題において、戦争を経験していない「ポスト当事者世代」への世代交代が影響していることは、すでに先行研究が示唆している。本研究では「ポスト当事者世代」の年代区分を定義し、「靖国」が2000年代に「記憶の政治」における象徴化した問題となったことを日韓両国の新聞報道の内容分析から明らかにし、これと日韓における主要政治家の世代交代の因果関係を観測することを目的として、「ポスト当事者世代」で靖国神社を参拝している議員の言説を分析した。一連の調査から、「ポスト当事者世代」の政治家による靖国神社への言及が抽象化していること、これが政治家の世代交代によって「靖国問題」の象徴化に影響していることが示唆された。

キーワード

1. 靖国問題、
2. 記憶の政治、
3. ポスト当事者世代、
4. 歴史認識問題、
5. 自民党

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科
鈴木莉乃

Abstract of Master's Thesis Academic Year 2023

The Process of the Yasukuni becoming Controversy:
A Case Study of a Construction of Historical Recognition Issue

Summary

In this study, I examine how Yasukuni Shrine came to be symbolized as the "Yasukuni Issue" and its development from two perspectives: "politics of memory" and generational shifts. In the context of the historical recognition issue between Japan and South Korea, prior research has already suggested that the generational shift to the "Post-war generation" – those who have not experienced war – has an influence. In this study, I define the age grouping of the "Post-war generation" and reveal through a content analysis of newspaper articles from both Japan and South Korea how Yasukuni Shrine became a symbolic issue in the "Politics of memory" during the 2000s. My objective is to observe the causal relationship between this development and the generational shift among major politicians in Japan and South Korea, analyzing the discourse of politicians from the "Post-war generation" who have visited Yasukuni Shrine. The findings from my research suggest that the references made by politicians from the "Post-war generation" to Yasukuni Shrine are abstract, and this abstraction has an impact on the symbolization of the "Yasukuni Issue" due to generational shifts among politicians.

Keywords

1. Yasukuni Issue, 2. Politics of Memory, 3. Post-war Generation, 4. Historical Recognition Issue, 5. LDP

Keio University
Graduate School of Media and Governance

Rino Suzuki

目次

第1章 序章.....	- 5 -
第1節 研究の背景と目的.....	- 5 -
1-1 問題の所在.....	- 5 -
1-2 研究の目的・意義.....	- 7 -
第2節 リサーチデザイン.....	- 8 -
2-1 研究状況.....	- 8 -
2-2 先行研究.....	- 8 -
2-3 研究概要.....	- 14 -
2-4 研究手法.....	- 14 -
第2章 靖国神社の「靖国問題」化.....	- 16 -
第1節 日本における新聞分析.....	- 16 -
1-1 読売新聞.....	- 16 -
1-2 朝日新聞.....	- 20 -
第2節 韓国における新聞分析.....	- 24 -
2-1 朝鮮日報.....	- 24 -
2-2 ハンギョレ新聞.....	- 27 -
第3節 新聞分析の結果.....	- 29 -
第3章 政治家の世代交代.....	- 30 -
第1節 日本国会議員.....	- 30 -
第2節 韓国国会議員.....	- 31 -
第3節 日韓の比較.....	- 32 -
第4章 ポスト当事者世代の靖国.....	- 33 -
第1節 ポスト当事者世代の国会議員.....	- 33 -
第2節 抽象化された靖国.....	- 35 -
2-1 「英霊」と「平和」という言葉.....	- 35 -
2-2 ポスト当事者世代の議員が靖国参拝する理由.....	- 36 -
第5章 終章.....	- 38 -
1 研究成果のまとめ.....	- 38 -
2 今後の課題.....	- 38 -
謝辞.....	- 39 -
参考文献.....	- 40 -

第1章 序章

第1節 研究の背景と目的

1-1 問題の所在

靖国神社は戦後78年経つ現在、個々の戦死者の固有名を想起させるような存在ではなくなった。それはその場所自体が、「靖国問題」と呼称されるような、日韓両国の国民感情や歴史認識を象徴する場となっている。

ベネディクト・アンダーソン Benedict Anderson は、その著作『想像の共同体 *Imagined Communities*』において、「無名戦士の墓と碑、これほど近代文化としてのナショナリズムを見事に表象するものはない」(Anderson1983=2020,32)と述べた。固有名を失った戦死者が祀られる靖国神社は、今や日韓両国において、ナショナリズムを表象する存在となっている。

かつて戦争を体験した世代にとって、靖国神社とは、戦死した親族や戦友の固有名と結びついているものであった。彼らが靖国神社を訪れることは、そのような固有名の記憶と不可分であった。いまや、そのような戦争当事者世代は減少し、戦争を経験していない政治家が多数派となった。それでは、その場所に参拝するという行為は、どのような動機で行われているのか。そして、そのような世代交代は、靖国神社が「靖国問題」として国内で語られるようになる過程に、どのような影響を与えたのだろうか。

本研究は、二つの問いを設定している。第一は、靖国神社がいつどのようにナショナリズムを表象する象徴的存在となったのかである。第二は、その過程に世代交代がどう影響していたのかである。本稿の主題は、靖国神社に関する内政や外交における政治過程ではなく、戦争を経験していない「ポスト当事者世代」における「記憶の政治」である。本校で行われるのは、政治過程分析ではなく、日韓両国の言説の表象分析でありそれと世代交代の相関の実証的調査である。

記憶は「社会的」また「集合的」なものでありそれらは社会との再帰性の中で生じる。近代においては科学により知識を批判的に社会へフィードバックすることでシステムの抽象度を高めた。再帰性とは社会的実践が、当の実践に伴い発生する情報をフィードバックしながら絶えず吟味、修正されて結果その実践の性質を根本的に変えていくことを指している(Giddens1990=2021)。靖国神社はどのような「集合的記憶」を保有し社会とのフィードバックの中で靖国に参拝するという体系化を行ったのだろうか。

このようにナショナリズムの表象の象徴化がなされた靖国神社において、いつ、どのようにして靖国問題が体系化したのかを明らかにする。記憶が当初の問題の本質を失い政治化していく過程の「記憶の政治化」と、記憶の政治の事例である旭日旗問題が「ポスト当事者世代」に世代交代したことで出現したという先行研究を参考にし、「ポスト当事者世代」に焦点を当て明らかにする。ポスト当事者世代とは木村(2019)が定義した、戦争を

経験していない世代を指す言葉であり、本研究ではその「ポスト当事者世代」の年代を定義して使用する。

研究背景

靖国神社とは、明治天皇の勅令により明治2年1869年に建てられた、東京都千代田区九段北にある神社で、戊辰戦争・明治維新後から多くの天皇を頂点とした国家体制のために殉じた軍人、または軍属等戦没者を「英霊」として祀っている。その柱数（神を数える単位）は約247万柱に及ぶ。

靖国神社は戦争後、1970年代まではいわゆる「靖国法案」をめぐる現実政治の対象であった。靖国神社の宗教性をなくし、国家で管理をすると言う「靖国法案」の提案が自民党によりくりかえし行われていたが、それは実現しなかった。並行して靖国神社が日本の国内問題となったのは、「英霊」として祀られる合祀に遺族の同意のないものがあったことであり、1968年には遺族であるキリスト教牧師による合祀取り下げの請求が行われた(田中 2003,89-96)。

さらに1978年、A級戦犯が靖国神社に合祀された。この合祀により1979年ごろから、日本社会全体に靖国神社が政治的問題として知られるようになったのである(田中 2003, 147-157)。さらに1985年に中曽根康弘首相が終戦の日である8月15日に靖国神社へ公式参拝を行ったことで、日本国内外、特に中国や韓国から批判や議論がなされるようになった(高橋 2005,21-26)。

しかし本稿が後述するように、靖国神社が「靖国問題」として知られる現在の形態で周知されるようになったのは、2001年に小泉純一郎首相が公式参拝を行ったことによる。これによって国外からの議論が急増し、再注目され、現在ある「靖国問題」になったのである(田中 2003,167-172)。これらの経緯を明らかにするとともに、こうした経緯から成立した「靖国問題」に世代交代がどのように関わっているのかを明らかにすることが、本稿の主題である。

1-2 研究の目的・意義

本研究を行うことは、靖国問題を解決する一歩を生み出し、またそれは日韓関係を改善させる一歩となり得る。日韓関係が関係改善することは経済、安全保障の面でも重要となる。昨今 2023 年に入り岸田・尹政権間では 12 年ぶりのシャトル外交が再開され、また歴史認識問題の解決に向けた動きがあるなど、関係は良好なように見える。しかしこれまでの韓国における政権交代による談話や合意の無効化の動きや、政治上では解決しても市民レベルの解決につながらない可能性もある。お互いの認識について知らない無関心な世代が増える中で、今一度どのような認識をお互いが持ち、対話ができる環境を生むことは重要だ。

「靖国問題」をはじめとする歴史認識問題に対する関心が薄れている中で、一部の層が具体性を失い問題は発展させている、またはさせていく可能性がある。「靖国問題」を解決していくためにも、「靖国問題」がどのように現在の形態になり、「問題化」してきたのかを検証することで、問題の所在を明確化することは重要である。

第2節 リサーチデザイン

2-1 研究状況

本節では、靖国神社についての研究を概観する。

靖国問題に関する研究はすでに多く行われているが、既存の研究は、日本においては靖国神社や靖国問題そのものに対する研究として、(田中 2006)のようにGHQの神道司令から小泉参拝に至るまで、戦後日本が政教分離や戦争責任にどう向き合ってきたかを振り返り、国家による死者の管理に言及しているものなどがある。さらには(高橋 2005)のように哲学論理の視点からの靖国問題研究も存在し、「遺族の感情」という視点から靖国問題を分析した研究など、歴史学者、宗教学者、哲学者などが「靖国」の意味を問うものが存在する。新聞紙における研究に関しては、(福田 2014)のように、新聞社説の靖国問題に関する役割を量的分析しているものなど存在するが、靖国問題における変遷を新聞紙の言説から分析し、靖国問題を記憶の政治として捉え、また世代交代に着目したものは見当たらない。韓国においても、靖国問題に関する研究は多数行われている。Nam (2015)は、1985年の中曽根首相公式参拝から韓日外交懸案となっている靖国問題を4つの観点、韓国人無断合祀、首相参拝、新しい国立追悼施設、歴史認識をめぐる問題の歴史的経緯と現況、争点、研究成果から現代の靖国問題を検討し、課題を提示した。¹日本における研究同様、記憶の政治としての靖国問題と世代交代に着目をし、検討した研究は見当たらない。

2-2 先行研究

本研究では主に三つの先行研究を取り上げる。第一は「記憶の政治」に関する研究、および象徴秩序と言説分析に関する社会学理論である。第二は、日韓の歴史認識問題に関する世代交代の影響を示唆した研究である。第三は、世代交代が戦争の記憶と同関連しているかの実証研究である。

記憶の政治学

記憶が国民国家のアイデンティティ形成に重要な役割を果たし、国家が集合的記憶を形成する上で重要な役割を果たしていることについては、すでに多くの研究がある。一例としてMalinova (2021)は、博物館や記念碑、記念館といった場所からジャーナリズムや消費文化を含むテキスト形式まで記憶と記念の場について検討している。彼女が対象としたのは、ワ

¹ 最も核心となるのは靖国神社と日本政府が侵略戦争の歴史をどのように記憶しているかに関する問題といえと示唆。合祀が可能だったのも、被害者ではなく侵略戦争を正当化する日本国家の論理を前面に出したため可能だった。靖国神社の歴史認識問題を批判するためには、植民地支配と侵略戦争の実態を明らかにすることが必要。そして靖国神社問題は「第2の加害」という視点から眺める必要がある。植民地清算と遺族の人権という観点から問題を検討することが必要であるとの示唆

シントン DC の第二次世界大戦記念碑やベトナム帰還兵記念碑、2001年9月11日の同時多発テロ事件の犠牲者が作成したウェブサイトなどであり、それぞれの文脈においてこれらの場所が国家のアイデンティティに大きな影響を与えるトラウマ的過去をどのように解釈し、再解釈してきたのかを検証している。このように「記憶の政治」は、モニュメントなどの象徴的な「場」を中核として形成されることが多い。

特定の場所が「記憶の政治」の象徴となった事例を研究したものとしては、(橋本 2016)が挙げられる。2007年4月にエストニアの首都タリンで「ブロンズの夜」と呼ばれる事件が起きた。これは第二次世界大戦の際にエストニア領内で亡くなったソ連赤軍戦没兵士の追悼・顕彰の像「ブロンズの兵士」を政府が国立図書館前の広場か郊外の軍人墓地に移転することを決めたことをきっかけに、一部のロシア語話者住民と警察の間に暴力的衝突が発生し、多数の住民が拘束された事件である。その背景には、エストニアのソ連邦編入をナチからの「解放」と見るかソ連による「占領」と見るかの歴史観の対立があった。当時のバルト諸国はEUおよびNATOへの加盟前に歴史認識をめぐる国際機関から厳しい要求を突きつけられ、国内的にはフラストレーションが溜まっていたことからエストニア各地で記念碑や像をめぐる諍いが相次ぎ、民族主義派からソ連時代の記念碑の撤去が公然と求められたと指摘している。そして当時の政権が人気取りのためこのような対立を利用し像の移転を決定すると、ロシア政府はエストニアを「ナチ親衛隊国家」と批判し、「ブロンズの兵士」はロシアとエストニアのナショナリズムが対立する場となり、国際的にも政治化することになったのである。

「記憶の政治学」を研究する方法論としては、Confino (1997)によりレトリック分析、談話分析、テキスト分析がさまざまな記憶の現場に持ち込まれる可能性があることが示唆されている。記憶の「場」の構成がどのように行われるかについては、モニュメントなどの場所だけでなく、ジャーナリズム、消費文化、ニューメディアを調査対象として挙げるができる。ワシントンモルに建てられた第二次世界大戦記念館や映画「プライベートライアン」など第二次世界大戦を象徴するいくつかのテキストを考察した中で Biesecker (2002)は、このようなテキストは過去について知識を教えているのではなく、記念する出来事を超越し、国家的危機に直面している集団にアイデンティティを再確認する機会を提供していると位置付けている。

また「記憶の政治」においては、記憶の構築においてヘゲモニーを持つ側の分析がなされている。権力を行使する有力な個人や、組織によって承認された「公式な」記憶とそこから発せられる支配的な言説を分析することがそれにあたる。これに対し、相対的に無力な側から発せられる「慣習的」な記憶や「大衆的」な記憶と、それらと「公式な」記憶の間に生じる緊張についても考察がなされている。例えば Armada (1998)はテネシー州メンフィスにある国立公民権博物館と、元ロレイン・モーテルの住人であり公民権運動の講義者であったジャクリーン・スミスが作り上げた対抗記念館は、彼女の批判に同意するか否かに関わらず「記憶」の構築をより生産的なものにしたことが示唆されている。 Balthrop, Blair, Michel

(2010) は過剰な象徴主義として着目されたワシントンのナショナルモールの第二次世界大戦記念碑が、訪問者に対する感情的共鳴が欠如していることを批判しながらも、アメリカの帝国主義的なアジェンダを推進するツールとなっていると主張している。

このようにヘゲモニーを持つ側、すなわち政府機関や有力な個人などは、「記憶の政治」の研究において重視すべき対象である。さらに「記憶の政治」においては、アンダーソンが「無名戦士の墓」を例に論じたように、固有名など具体的な記憶を忘却し、象徴化された集合的な記憶となる過程が存在することが指摘されている。Carlson (2006) は「想像された共同体」の一形態として、ジャーナリズムは「より大きな文化的枠組みの中でそれを位置付ける共通の規範的観念と共有された歴史によって結ばれた象徴的集合的」な作用だとみなすことができることを主張している。このように「記憶の政治」において、ヘゲモニーを持つ側であるジャーナリズムや有力な個人、政府機関などは、本質的に力関係を維持する作用を持ち、文化の概念であった記憶を政治的なものにしていく (Confino1997)。「象徴化された記憶の場所」は権力を握る個人/機関によって認可された「公式」な記憶、およびそれらから発せられる主流の論調である (Maurantonio 2014)。以上の検討から、「記憶の政治」の研究においては、以下の諸点が重要となる。①記憶の「場」がいつどのように構築されたかを調査すること、②その構築においてヘゲモニーを持つ側を重視すること、③固有名を持つ具体的な記憶から集合的かつ象徴的な記憶への変化に注目すべきこと、である。①はメディアなどの内容分析をはじめとした方法論が有効であることを示唆しており、②は有力政治家などに焦点を当てること、③については、「象徴化」についての理論的な検討を、社会学の蓄積から補う必要がある。

「記憶の政治」における「象徴化」

「象徴」が集合的な秩序を形成する上で重要な役割を担っていることは、社会学において理論的な蓄積がある。日常的秩序を形成する上での象徴の機能については、ハーバート・ブルーマー Herbert George Blumer が提唱したシンボリック相互作用論 Symbolic Interactionism が知られるが、国民国家との関連を論じたものとしてアンソニー・ギデンズ Anthony Giddens の構造化理論 Structuration Theory が知られている。以下、(Giddens1990=2021,129)に依拠して記述する。

ギデンズによれば、近代化は「脱埋め込み Disembedding」と「構造化 Structuration」の遂行として説明される。「脱埋め込み」とは、「社会関係を相互行為の局所的な脈絡から引き離し、時空間の無限定の広がりの中に再構築すること」である。通信手段や交通手段の進歩、市場経済の浸透などは、個々人を局所的な相互行為の脈絡から切り離す。しかしそれだけでは、人間は無秩序に投げ込まれるだけである。そこで新たな文脈のもとで関係が再構築され、その秩序が構造化される。新たな文脈とは、無限の空間的な広がりを持つ市場経済や、無限の過去まで遡る歴史を持つとされる国民国家という、近代に欠かせない存在に支えられた状態に他ならない。

こうして新たな文脈のもとに置き直された人間は、日々の実践 Practice を「象徴秩序 Symbolic order」に沿って行う。市場経済を支える貨幣、国民国家を支える歴史などは、こうした象徴秩序における重要な要素である。こうした象徴秩序の安定、例えば貨幣や歴史の安定なしには、人間は無限の空間と時間の広がりの中で無秩序に陥る他ない。このように、安定した象徴秩序の中での実践が可能になることで、「存在論的安心 Ontological security」が与えられる。このような安定なしには、無限の時空間の広がりの中で自由に意思決定をするとされる「近代的個人」は成立しえない。そのため近代的個人・近代的市場・近代国民国家は、一連の象徴秩序として構築される。

この象徴秩序においては、歴史は前近代にそうであったように、過去の尊重を条件として書かれるわけではない。近代における歴史は、近代的個人や近代国民国家が未来を志向するために、過去に関する知識を再編集して利用することを目的として共有される (Giddens1990=2021:129)。

アンダーソンが論じた「無名戦士の墓」の事例が示すように、国民国家の形成と、それが進むべき未来を示すものとして、歴史は共有されることになる。それが集合的に共有されるためには、固有名を失った無名戦士として祀られ、象徴秩序の一部にならなければならない。固有名や具体性を持ったままでは、象徴秩序の一部になることはできない。

以上の検討から、本稿の対象である靖国神社においては、以下のような形で調査しうる。戦死者の固有名や、政教分離や A 級戦犯合祀などの具体的問題ではなく、国民国家を単位とした象徴秩序の問題として「靖国」が語られていれば、それは象徴化とみなしうる。国民国家を単位とした象徴秩序の問題として「靖国」が語られるとは、国内政治や国際政治の問題として「靖国」が語られると言うことに他ならない。そこでは、戦死者の固有名や、政教分離や A 級戦犯合祀といった問題に関わる神社として「靖国」が語られるのではなく、「靖国」それ自体が象徴となり、そこに政治家が参拝したか否かが問題となる。こうした象徴化は、戦争に関する固有名かつ具体的な記憶を持たない世代が増加すれば、と国へゲモニーを持つ有力者の間で増加すれば、発生しやすいことが予測しうる。

このような言説が観測できるならば、本稿でいう「象徴化」を観測し得たと見なすことができる。本稿では、このような「象徴化」がいつどのように生じたのか、そしてそこに世代交代が関係していたのかを調査する。本稿が主題としているのは、靖国神社公式参拝問題の政治過程の分析ではなく、こうした「記憶の政治」における「象徴化」に世代交代がどのように影響したのかの分析である。

韓国におけるポスト当事者世代のイデオロギーの変化

日韓における象徴化した問題として旭日旗問題が挙げられる。その旭日旗問題について (木村 2019) が「旭日旗問題に見る韓国ナショナリズムの新側面」という研究を行っている。2018 年後半における日韓関係の悪化を垣間見るケースとして勃発した旭日旗問題がなぜ 2010 年代に急速に浮上したのかを新聞の記事データベースから読み取っている。

木村は旭日旗問題について歴史認識問題と安全保障に関わる問題を架橋するひとつであること、また慰安婦問題や徴用工問題のように具体的な当事者が存在しないこと、その当事者不在が運動の焦点を不明確にすること、また2010年以降に象徴化した新たな問題であることを指摘している。まず旭日旗問題の全体を把握するために韓国で最も多くの発行部数を持つ朝鮮日報の記事データベースを通じて、各々の時期において「旭日旗」やそれに関わる語句を表題に含む記事がどの程度存在するのかを整理している。

初めて旭日旗が検出されたのは1991年5月7日であったが、90年代初頭は旭日旗に否定的な認識はあるものの、大きな問題としては表象されていない。また他新聞紙のデータベースも使用し、2000年代に入るまでの時期においては日章旗や旭日旗に関わる内容が軍国主義と共に議論されることは割合としては低く、その傾向が2010年代に入り韓国紙の言説における軍国主義を象徴する旗としての役割が日章旗から旭日旗に移っていったことを示唆している。韓国において旭日旗が軍国主義の象徴として社会に浸透した後、旭日旗やそれを連想させる意匠の追放を求める「旭日旗狩り」とも言われる事態が出現し、韓国内外の多くの人やものがその対象となった。

この旭日旗をめぐる状況をイデオロギー的対立の観点から検討しており、進歩派が旭日旗の言説を利用して日本に批判的な世論を喚起しようとしている意見であるが、実際には進歩派と保守派のメディアにおいて旭日旗問題に関して活発に報じているのは保守派メディアなため、棄却される。他には日本側の政治的要因から、2012年12月に成立した第二次安倍政権の発足は日本の軍国主義復活への懸念を促進し象徴として旭日旗に注目が集まったことからの「第二次安倍政権仮説」、当時日本国内で活発化していた一部民族主義団体によるヘイトスピーチを重視したものである。一部民族主義団体による在日韓国・朝鮮人、さらには北朝鮮や韓国の人々に対して向けられたため関連している可能性を含み、またこれらの団体は旭日旗を好んで用いたためその印象が旭日旗の議論の活性化に寄与した「ヘイトスピーチ仮説」を指摘している。また韓国において植民地支配に関わる日韓間の歴史認識問題への関心の高まりから「植民地問題仮説」やサッカーの試合における両国の応援のあり方が議論されることから「スポーツナショナリズム仮説」にも着目している。

これらの仮説のもと、実際に日章旗や旭日旗問題に関わる記事において各々の語がどの程度の割合で含まれているかを調査している。結果、これらの仮説による具体的な日韓関係に関わる 이슈を介してではなく、直接的に日本の「軍国主義」と結びつけて議論されていることが判明した。戦争や植民地支配の当事者が姿を消し、直接的な記憶が失われる中、過去に伴う問題と強い不信感が残り続けている。次第に具体性を失い、象徴的なものとなりそれがただ拡大を続けることになる。旭日旗問題はこの具体性を失い象徴化した「ポスト当事者」の時代の日韓間の新たな歴史認識問題のあり方を象徴的に示していることを示唆している。

当研究におけるポスト当事者世代の定義

牧田(2000)の調査「文献世論調査ファイル：先の戦争と世代ギャップ」では戦争観につい

での個人面接法を用いた世論調査を行い、世代ごとに戦時中の事象の日時や戦争観について尋ねている。世代の分類としては戦後の新しい教育制度のもとに初めて小学校に入学した人々は1939年に生まれているため、1938年以前に生まれた人々を戦中・戦前世代と定義している。そして戦後30年目に青春(16歳)に到達した人々が生まれたのが1959年であるため、1939年から1958年までに生まれた人々を戦後世代、1959年以降に生まれた人々を戦無世代と設定している。まず初めに戦争に関する知識を確認する質問として、「最も長く戦った相手国」「同盟関係にあった国」「真珠湾攻撃を行った日」「終戦を迎えた日」を質問した。するとどの事項でも戦無世代<戦後世代<戦中・戦前世代の順で正解率が高くなっている。戦無世代は特に知識が低く真珠湾攻撃を行った日が12月8日であると正しく答えた人は22%しかいない。4項目とも正解だった人は戦中・戦前世代27%、戦後世代が17%、戦無世代が10%であった。また先の戦争についての認識を「アジア近隣諸国に対する日本の侵略戦争だったか否か」という質問には侵略戦争だったと認識している人は51%、侵略ではないという人は15%、昔のことだから自分に関係ないという人は7%、わからない・無回答が28%であった。世代別の結果で特徴的だったのは戦後世代でわからないという人が相対的に少なく、侵略戦争と明確に答えている人が多いことである。「資源が少ない日本が生きるためのやむをえないものだったか」と認識する人は30%、そうではないとする人は35%、関係ない人が4%、わからない・無回答が31%であった。戦無世代がやむをえないものではなかったという戦争に対する批判的な意見に大きく傾いているのに対し、戦中・戦前世代は肯定的な意見が多数を占めている。このように本調査では生まれ年1939年を境に戦争に具体的な知識が無くなり、価値判断が強くなる傾向にあることを明らかにした。

表1 ポスト当事者世代の定義

世代	生まれ年	背景	結果
戦中・ 戦前世代	1938年以前に 生まれた人々	戦後の新しい 教育制度のも とに初めて小 学校に入学し た人々は 1939年に生 まれている	戦争に関して直接的で、具体的な知識が多い。 (事象の年数を答えられる)
戦後世代	1939年～1958 年までに生ま れた人々	戦後30年目 に青春(16 歳)に到達し た人々が生ま れたのが	戦争に関しての具体的な知識が少ない。 価値判断が強くなる傾向にある。

		1959年（中等教育が保守化した時期）	
戦無世代	1959年以降に生まれた人々		

2-3 研究概要

これらの先行研究から、仮説を「2000年代に突入し世代がポスト当事者世代に変わること、価値判断が強くなった。そして価値判断の強い世代が抽象的な戦争観や靖国感を持つようになり、政治の中枢に上がることで靖国神社がナショナリズム的に象徴化し靖国問題が体系化、記憶の政治化が進んだ」と設定する。

以上の仮説をもとに、三段階に分け検証を行う。まず第一段階に（木村 2019）の韓国の旭日旗問題に対するイデオロギーの変化に関する研究をもとに新聞内容分析を行い、そこで靖国問題の象徴化の発展した時期を検証する。靖国問題が「首相参拝」問題に移行し、それには自民党内政治が起因していることを読み取った。その自民党内政治色が色濃く現れている 2000年代初頭を中心に、第二段階で年代分析を行う。ポスト当事者世代に移行する時期を検証するため、まず（木村 2019）では行われていないポスト当事者世代の年代の定義を（牧田 2000）の先行研究を用いて戦後世代と戦無世代である 1939 年生まれ以降を「ポスト当事者世代」と定義する。そして日韓の政治家においていつ頃、世代が当事者世代からポスト当事者世代に移行したのかを検討する。それらの検証をもとに、靖国問題の象徴化が起きた時期と世代が戦争を経験している当事者世代から、戦争を経験していない「ポスト当事者世代」に移行した時期が判明した。その関連性を見るために、第三段階である「ポスト当事者世代」の言説分析を行い、ポスト当事者世代がどのような理由で靖国に参拝するのかを読み取る。

2-4 研究手法

第一段階は新聞の内容分析である。日韓 4 社の新聞紙の表題から、靖国参拝に関するテキストマイニング、共起ネットワーク分析を行い靖国問題が象徴化した時期、また靖国参拝がどのように報道されているかを分析する。

対象については日本は読売新聞と朝日新聞を、韓国は朝鮮日報とハンギョレを対象とする。これらの新聞紙を対象にした理由としては、読売新聞は首相による靖国参拝について比較的肯定的であり、朝日新聞は否定的なためである（福田 2014）。韓国の新聞紙については言説のイデオロギー的差異を回避するために代表的な保守紙である朝鮮日報と進歩派的であるハンギョレ新聞を使用する。時期は 1945 年から 2021 年までを分析する。靖国問題

は戦後形成されてきたため 1945 年を開始とし、他の歴史認識問題である慰安婦、徴用工問題などが大きく注目された 2021 年までを対象とする。ハンギョレ新聞は 1988 年に創刊されたため、1988 年以降を対象とする。全社においてインターネット上で公開されているデータベースを使用する。データベース上にて「靖国」「靖国参拝」といった語句を表題検索にかける。分析には KH Coder(樋口, 2001/2013)を使用する。共起ネットワークでは Jaccard 係数を 0.2 と設定をし、表題における靖国との共起性の高いワードを抛出する。

第二段階は年代分析である。日本と韓国における閣僚の生まれ年を政権ごとに追う。そしていつ頃から世代がポスト当事者世代に移行したのかを検証する。対象期間は、第一段階の新聞内容分析で検討した靖国問題が「首相参拝」として着目をされ始めた 1985 年から 2006 年までの間である。そのため、日本においては 1985 年の第一次中曽根内閣、1996 年の第一次橋本内閣、第二次橋本内閣、1998 年小渕内閣、2000 年森内閣、2001 年小泉内閣、2003 年第二次小泉内閣、2005 年第第三次小泉内閣、2006 年第一次安倍内閣である。韓国においては、1998 年盧泰愚政権、1993 年金泳三政権、1998 年金大中政権、2003 年・2004 年盧武鉉政権を対象とする。対象を閣僚に設定している理由としては、新聞報道でも靖国参拝に関する報道がされるのは閣僚レベルの国会議員がほとんどのためである。

第三段階はポスト当事者世代の価値観分析である。これは第一段階と第二段階において、靖国問題が象徴化した靖国問題に変遷した時期と、1939 年生まれ移行であるポスト当事者世代に移行した時期が重なるため、その 2 つの間に連関性があるかを検証するために行う。分析内容は靖国に参拝するポスト当事者世代の議員の言説分析である。対象の国会議員 3 名のブログからどのような理由で靖国に参拝を言っているのかを明らかにする。対象は古屋圭司氏、井上信治氏、木原誠二氏である。その参拝理由が抽象化されているのか否かを判断するために、当事者世代の国会議員の発言と比較を行う。

第2章 靖国神社の「靖国問題」化

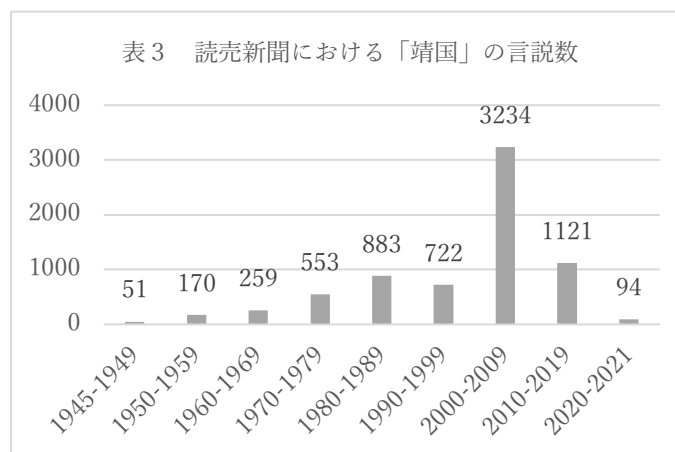
第1節 日本における新聞分析

1-1 読売新聞

読売新聞のデータベース「ヨミダス」にて1985年までは記事の紙面画像、1986年以降はテキストデータで「靖国」を検索した。見出しと本文検索の中で「靖国」でヒットする表題をKHコーダーにてテキストマイニングを行うと、表2、3のような結果となった。その中で靖国参拝が首相公式参拝として着目された1985年周辺である1984年1月1日から1986年12月31日と2000年代初頭である2000年1月1日から2002年12月31日までの「靖国」でヒットした記事全ての表題合計381件(1985年)と801件(2000年)である。これらを共起ネットワークにかけ読売新聞における靖国問題の象徴化の関連性を読み取った。

表2 読売新聞における靖国の言説数

	靖国
1945-1949	51
1950-1959	170
1960-1969	259
1970-1979	553
1980-1989	883
1990-1999	722
2000-2009	3234
2010-2019	1121
2020-2021	94



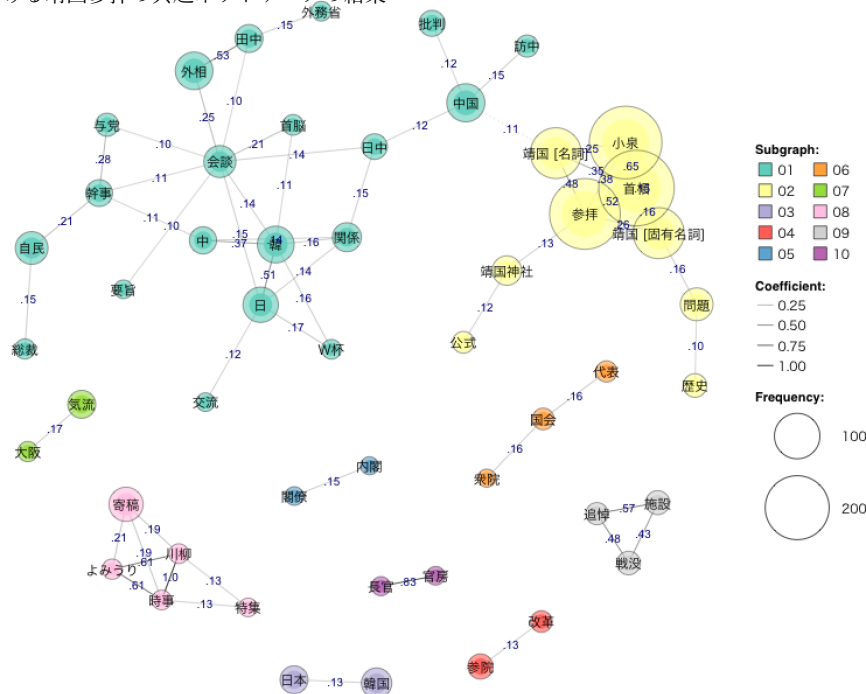
戦後20年ほどは靖国神社に対する報道記事は少なく、報道は靖国神社にて御霊祭などの「お祭りが開催された」(読売新聞1947)という報道や、「靖国おばあさん」というドイツ人で毎日靖国神社を掃除している方についての報道がされている(読売新聞1955,1960)。このように物珍しい事が起きたら報道がされている。靖国神社に対する表現としては肯定的でも批判的でもなく、そもそも神社であり、戦死した英霊が祀られている、他の神社よりも少し特別な神社という位置づけである(読売新聞1959)。

1965年から1970年においては、日本国内において社会的に初めて靖国神社に対しての問題が勃発した期間である。この問題というのは戊辰戦争から第2次世界大戦において戦死された方々を神として合祀している事である。例えば他の宗教を信仰しており、靖国神社での合祀を遺族が望んでいない場合においてもその合祀を取り消すことができないためである。また、本問題の浮上には他国からの批判、台湾/韓国植民地時代に「日本人」として出兵し戦死し合祀された方々の遺族から合祀取り下げの要請、訴訟などが問題として取り上げられている(田中2006)。しかし読売新聞では戦地から帰ってきた参拝者の様子の報

しかし、2001年から2003年にかけては問題が悪化する。中曽根政権後、他国や国内との衝突を避けるために控えていた公式参拝を、小泉首相が行うことになったためである。国外からは韓国からの批判も激増し、中国からの批判や、中韓が共同で声明を発表するようになった。大きな外交問題へと発展したのである。また、「気流」という読者からの投稿の変化が見えた。それまでは首相公式参拝に対して肯定的なものが多くあったが、否定的な内容が取り上げられるようになったのである(読売新聞 2002)。中国や韓国との関係のために働きかけるよう訴える声が多く紹介され、世論が注目しているかが表されている(読売新聞 2002)。

2000年から2002年の「靖国」のキーワード検索でヒットした表題を共起ネットワークにかけた結果では「首相」という語句が中心に存在し、そこには「小泉」(0.65)や「参拝」(0.52)、「靖国」(0.35)という語句が大きく付随しており、また「靖国」から関連性のある「中国」(0.11)という群では「会談」が中心となり「外相」(0.25)や「韓国」(0.16)また「関係」(0.15)らに割合が高く出現している。またそこから「幹事」(0.11)、「自民」(0.21)や「総裁」(0.15)といった自民党に関係した報道が大きくされた。2001年は自民党の総裁選が行われ、小泉純一郎は橋本龍太郎と対立していた中で参拝であり注目されていたことが読み取れる。

図2 読売新聞における靖国参拝の共起ネットワークの結果



また2005年は小泉首相が再度参拝をした年であり任期を迎える前に参拝を行なった。2006年は小泉政権が終焉し自民党の総裁選が行われた年である。この総裁選において対立

候補であった安倍氏と谷垣氏の靖国参拝に対する意思を読売新聞では取り上げた(読売新聞 2005)。肯定派の安倍氏に対して、自民党内では多くの議員が支持を示した。この支持層は小泉首相公式参拝に賛同していた層であった。参拝否定派の谷垣氏に対しては、小泉首相公式参拝を反対していた層がついた。結果は安倍氏の勝利となり、この総裁選において靖国公式参拝が重要視されていたことが報道よりわかる(読売新聞 2006)。

2013年から2015年においては第二次安倍内閣において、2013年12月の安倍首相の公式参拝により再度国内、外からの批判が殺到したのである(読売新聞 2013)。その抗議内容は2006年から2007年以降ある程度形式化したものが定型分として「中国『厳正に抗議』」や「非常に遺憾」といった表題で報道されている(読売新聞 2013)。それ以外の目立つ点としては韓国籍の男による靖国神社内での爆破事件なども勃発しその問題についても連日報道されている(読売新聞 2015)。このように珍しい事柄についての報道が目立つようになる。

その後は平行線のまま、閣僚や国会議員の参拝、首相の公式参拝の検討などがあつた際に国内、外からの形式的な講義がされている。また、2014年あたりからは徴用工や慰安婦問題についても着目されるようになり、3点または2点ともに報道されるようになっていく(読売新聞 2014)。ナショナリズム的な問題が分岐し、靖国問題だけがフィーチャーされるのではなくなくなったこと、国内外からの批判は形式化していることがわかる。

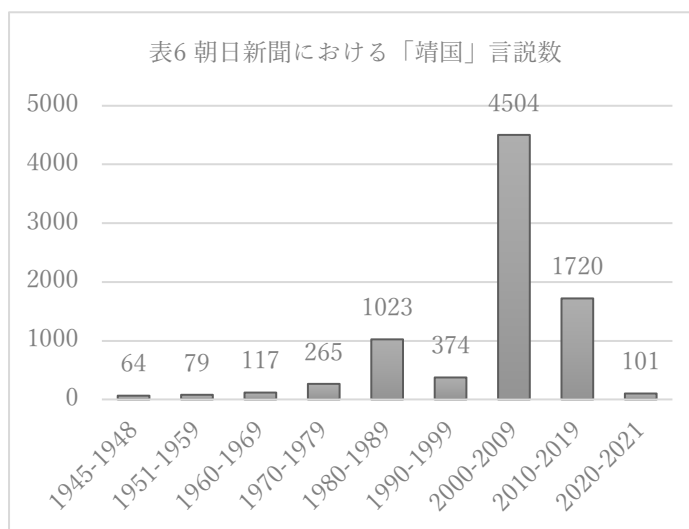
以上の結果から、首相による公式参拝は1985年に行われ、当時も日本国内と主に中国からの注目を浴びていたことがわかるが、2001年の小泉首相による参拝の際には自民党総裁選などとの関連性から自民党内の政治が大きく関わっていることが読み取れた。

1-2 朝日新聞

朝日新聞において、靖国問題の動向を見るためにデータベース「朝日新聞クロスサーチ」を利用する。1945年から1984年までは記事の縮小版、1985年からはテキストデータで検索をかけた。見出しと本文の中で「靖国」でヒットする表題をKHコーダーにてテキストマイニングを行うと、表5、6のような結果となった。その中で靖国参拝が首相公式参拝として着目され報道数が増えた1985年から1986年と2000年から2002年までの表題755件(1985年)、459件(2000年)を共起ネットワークにかけ朝日新聞における靖国問題の象徴化の関連性を読み取った。

表5 朝日新聞における靖国の言説数

	靖国
1945-1949	64
1950-1959	79
1960-1969	117
1970-1979	265
1980-1989	1023
1990-1999	374
2000-2009	4504
2010-2019	1720
2020-2021	101



朝日新聞において戦後直後は靖国神社例大祭やみたままつりの開催（朝日新聞 1948）、米国青年が参拝しているということ（朝日新聞 1951）やドイツ人のおばさんが境内を掃除している（朝日新聞 1954）といった一般的な内容を報道している。また陛下が参拝する際には報道がされている（朝日新聞 1957）。

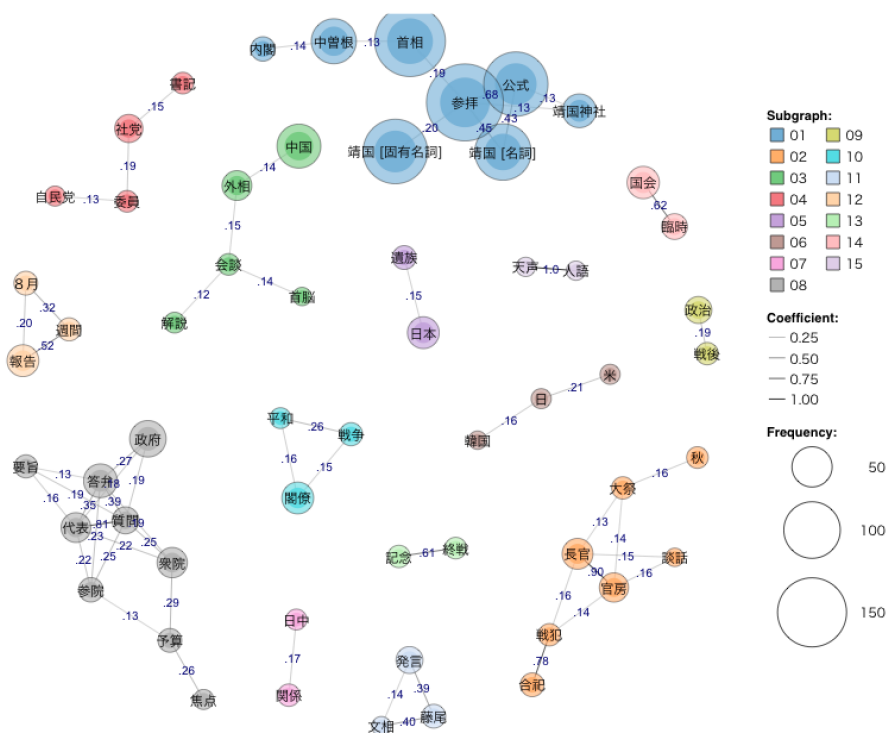
しかし1966年には自民党が靖国神社の国家護持を検討し始めるとそのような政治的な事象と関連づいた報道がされ始めた（朝日新聞 1966）。そこから1980年ごろまでは靖国法案に関する報道が連日され、自民党の動きや野党の追及について言及している。また他には宗教界から靖国法案に反対する議論についても報道されている（朝日新聞 1974）。1981年ごろからは首相による靖国参拝への公式参拝に関する議論が開始された（朝日新聞 1981）。地方における玉串料の監査請求が行われた事例（朝日新聞 1982）や公式参拝の遺族会などによる推進派と市民団体等の反対派の意見両者の視点を報道している（朝日新聞 1983）。

1985年の中曽根康弘首相の公式参拝への動向については、他宗教団体や中国、モスクワ放送など国外からの批判を紹介している（朝日新聞 1985）。社説としては「過去を直視し未来へ生かそう」といった公式参拝に対して反対の意見を出している（朝日新聞 1985）。8月15日の公式参拝が行われると、報道数も増え国内で高まる「違憲だ」といった反対意見も

紹介している(朝日新聞 1986)。また中国における反日デモなど市民レベルの意見も報道している(朝日新聞 1988)。しかし日本政府側はそのようなデモは内政には関係しないと発言を行うような強硬な姿勢を読み取ることができる(朝日新聞 1988)。

1985年から1986年の「靖国」のキーワード検索でヒットした表題を共起ネットワークにかけた結果、「参拝」が中心となり「公式」(0.68)と「靖国」(0.45)が強くまた「首相」(0.19)には「中曽根」(0.13)という群が中心に存在する。そこから独立した形で「中国」、「外相」(0.14)、「会談」(0.15)と言った群や「遺族」と「日本」(0.15)という群が存在する。また他には「平和」からの「戦争」(0.26)、「閣僚」(0.16)と言った群、「長官」からは「官房」(0.9)「戦犯」(0.16)「合祀」(0.78)と言った群が存在し、戦争に対する具体的な内容で報道されていることがわかる。

図3 朝日新聞における靖国参拝の共起ネットワークの結果



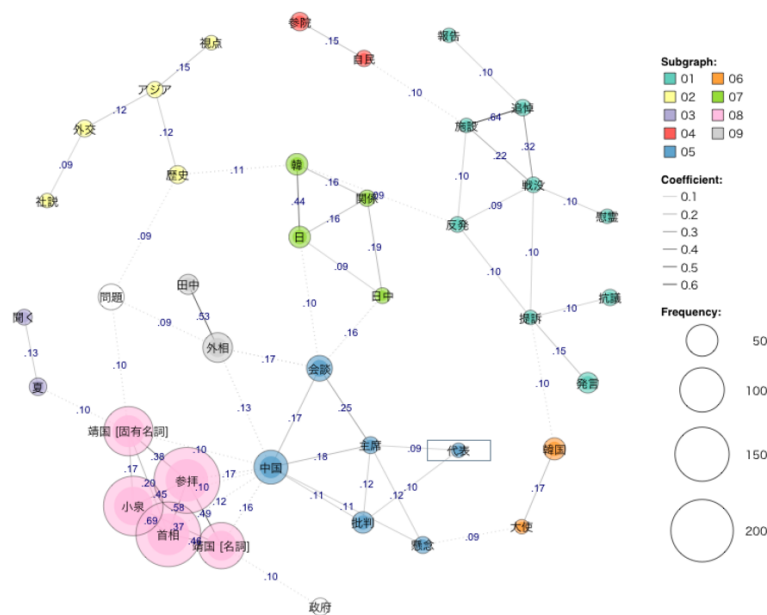
1990年代に入ると引き続き、公式参拝への反対や批判意見が多く見られる(朝日新聞 1993)。また1993年には靖国神社の政教分離の議論が活発に開始したことが読み取れる(朝日新聞 1993)。靖国参拝については閣僚や国会議員が参拝することが多々あるため、その度に誰が参拝をした、集団参拝が行われたという報道がされている(朝日新聞 1988)。

しかし2000年代に入ると議論は再熱するようになる。2001年に小泉純一郎が公式参拝を表明して自民党の総裁に就任すると野党また世論からの反対の意見が多くなり、朝日新聞においてもオピニオン等を通じて「靖国への参拝、なぜこだわる」や「やはりやめるべきだ靖国参拝」といった否定的な意見も増えるようになる(朝日新聞 2001)。また国外では

中国に加え、韓国からの批判が急増した。そこには 1998 年で日韓共同宣言が行われたにもかかわらず、教科書問題が勃発したところに首相公式参拝問題が加わり韓国からの批判が増えるようになったのだ(朝日新聞 2001)。また 2001 年にワールドカップが開催されると靖国問題とともに否定的な報道がされることもあるが、小泉首相の訪韓や北朝鮮問題への働きかけなどにより日韓関係は良い方向に向いていた(朝日新聞 2001)。しかし小泉首相が春の例大祭を始め終戦記念日以外において靖国に参拝すると中国や韓国からの批判が多くされるようになる。他にはさまざまな人の戦争観をオピニオンなどで紹介が急激に増えたのも同時期である(朝日新聞 2002)。そして 2006 年に退任直前に小泉首相は強行的に終戦の日靖国参拝を行う。21 年ぶりの終戦の日の公式参拝ということで、朝日新聞においても参拝に対しての国内外の批判の声は報道される。しかしその後すぐ自民党総裁戦の話題になり、ポスト小泉が誰になるのかという話題に移行している(朝日新聞 2006)。

2000 年から 2001 年の「靖国」のキーワード検索でヒットした表題を共起ネットワークにかけた結果は「小泉」と「首相」(0.69)が中心に存在し、「靖国」(0.46)、「参拝」(0.58)といった中心の群から、「中国」(0.17)、「批判」(0.11)、「会談」(0.17)、「懸念」(0.11)という外交的懸案を示す群が共起し、そこから「歴史」(0.11)、「アジア」(0.12)、「外交」(0.12)などの大きな概念の群、またそこから国外からの批判は外交関係から「戦没」、「追悼」(0.32)、「施設」(0.22)、「慰霊」(0.1)といった群からは戦没者追悼施設の議論が行われていることが読み取れる。他には「自民」(0.1)や「参院」(0.15)といった政治的な共起も見ることができる。

図 4 朝日新聞における靖国参拝の共起ネットワークの結果



2006年の自民党総裁戦においては2001年同様靖国問題も関連し報道されている(朝日新聞2006)。安倍晋三が首相になると、保守派の安倍首相は靖国参拝を積極的に行い、再び国外からの批判が続いた(朝日新聞2006)。2000年代以前よりも国立追悼施設に関する議論や国内における批判が増えたことが顕著である(朝日新聞2006)。都道府県知事や自民党内からの批判も多く報道されている(朝日新聞2007)。その後も靖国問題に対する報道は平行線となり、首相や閣僚、国会議員が参拝することで誰が参拝した、と言う内容で報道されるようになっていく。

民主党政権時代は首相や閣僚も靖国参拝を控えている中、その中でも若干名参拝をする閣僚が出現した際には、批判をする報道内容が上がっている(朝日新聞2013)。同時に2010年以降は慰安婦や竹島問題など、他の歴史認識問題とともに報道されるようになっていく(朝日新聞2014)。また昭和史や戦争を振り返るような、戦争に対する直接的ではない抽象化された内容の報道が多くされている(朝日新聞2017)。

日本における2社の新聞内容の分析を行った結果、読売新聞はどちらかというと肯定的、朝日新聞は否定的だが両新聞における問題の発展の変遷に差異はなかったため、新聞フレーミング説は棄却される。その上で、判明したことは問題の象徴化は1985年に、A級戦犯が合祀された神社に中曽根首相が「公式」参拝したことがきっかけに議論が始まったことが「戦犯」、「合祀」、「遺族」と言った語句の出現から読み取れる。また靖国参拝という事象をそのまま伝え戦争を経験している世代が靖国に対する直接的な思いを発言し、「A級戦犯合祀」問題のような具体的な議論がなされている。

しかしその問題が2000年以降、首相公式参拝という問題点では共通するが、問題の所在はA級戦犯が合祀された神社への公式参拝ではなく「小泉」、「自民党」、「総裁」と言った日本の内政に関わる語句の出現などから、自民党における総裁選と靖国参拝の関連性を示唆する内容になったこと、中国や韓国に対する対外関係についての言及、また意見や寄稿でも戦争を経験していない世代向けに戦争観や歴史を伝えるような内容が増えていることがわかる。

このように日本の新聞紙報道においては政治的な要因で靖国問題が発展し、また2000年代に入り本来の問題の所在を失い発展したポスト当事者世代が、戦争について抽象化し、公式参拝を象徴化した靖国問題を形成している可能性が判明した。

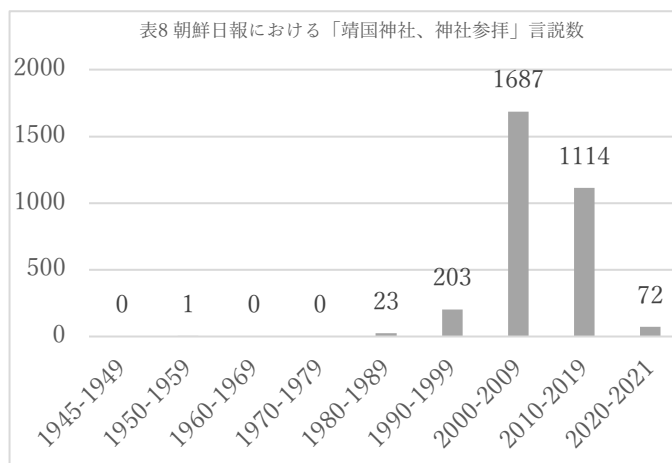
第2節 韓国における新聞分析

2-1 朝鮮日報

朝鮮日報は韓国における最も歴史のある、最大手の新聞紙である。朝鮮日報のデータベースサイトを利用して韓国における靖国問題の通称である「靖国神社」と「神社参拝」の語句を見出しと本文検索にかけた結果、表7、8のような結果となり、コーディングの対象は1985-1986年が9件、2000-2002年は133件となった。

表7 朝鮮日報における靖国神社、神社参拝を巡る言説数

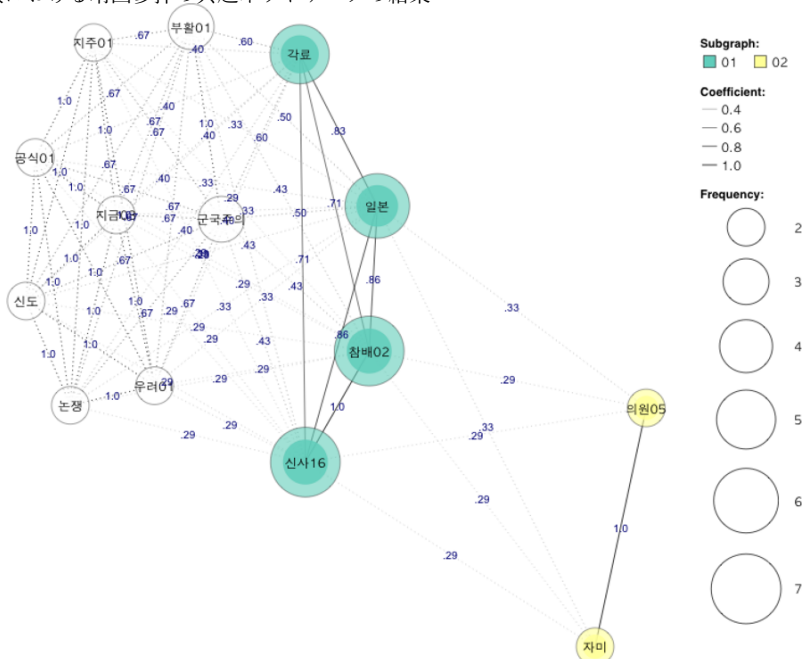
	靖国神社	神社参拝
1945-1949	0	0
1950-1959	0	1
1960-1969	0	0
1970-1979	0	9
1980-1989	1	22
1990-1999	67	136
2000-2009	796	891
2010-2019	543	571
2020-2021	33	39



靖国に関する報道がされ始めた1980年代は靖国に祀られている韓国人の宗教的な問題が多く報道されていた。韓国にはキリスト教信者が多くいるため、キリスト教会による反発などが報道の中心である(朝鮮日報1982)。また天皇制と神社参拝に対するセミナーなどを開催しており、日本の文化や慣習などをテーマ背景や前提知識についての教授が主に行われている(朝鮮日報1983)。また中曽根首相が参拝すると、その行為が違憲である主張が数多くされている(朝鮮日報1985)。1990年代においても閣僚の参拝が行われると誰が参拝したかのような内容が報道され、キリスト教信者からの信教の問題として靖国問題が問題視されていることがわかる(朝鮮日報1997)。また高麗氏の子孫が日本軍で戦争に参加したことからその足跡を巡るなど戦争当時の回想などが多くされている(朝鮮日報1998)。

1985年から1986年の「靖国」のキーワード検索でヒットした表題を共起ネットワークにかけた結果、「日本」と「参拝」(0.86)を中心に「閣僚」(0.83)や「神社」(1)に大きく共起性が見える。「公式」(0.6)というような参拝に対する情報に加え、「軍国主義」(0.7)、「神道」(0.67)と言ったこれまでに韓国社会にとって馴染みがなかった知識を教示していることが読み取れる。

図5 朝鮮日報における靖国参拝の共起ネットワークの結果



2000年代に入ると教科書問題が発生し、朝鮮日報では日本における歪曲した歴史観と従軍慰安婦問題、竹島問題、靖国問題などとセットで報道されるようになった(朝鮮日報 2001)。「新しい歴史教科書を作る会」が作成した歴史教科書の修正内容などを紹介し、慰安婦の削除や隠蔽が行われたと報道している(朝鮮日報 2001)。また国会議員の発言を狂言や妄言と報道している(朝鮮日報 2003)。そして小泉純一郎首相が総裁選の候補になると小泉首相の発言を細かく報道し、歴史観に関して保守的な発言などから小泉首相が右翼的傾向にあるといった内容を大々的に報道している(朝鮮日報 2004)。また小泉内閣が誕生すると総裁選時に掲げた靖国参拝の動向を追っている。また初の女性外相である田中真紀子氏についての報道も多くされている。日本と韓国の外交を担う、また発言が特徴的であった外相には注目が集まったことがわかる。小泉首相が靖国参拝や外交現場において強硬な姿勢をとっていることから「日本の右傾化が加速」していることを報道している(朝鮮日報 2005)。また安倍晋三首相が総裁選に出る際にその存在が強くなる。安倍政権が誕生すると、韓国や中国の反発は他所に強硬に靖国参拝を進める安倍首相に対して、「右翼」として批判を多く行なっている(朝鮮日報 2006)。

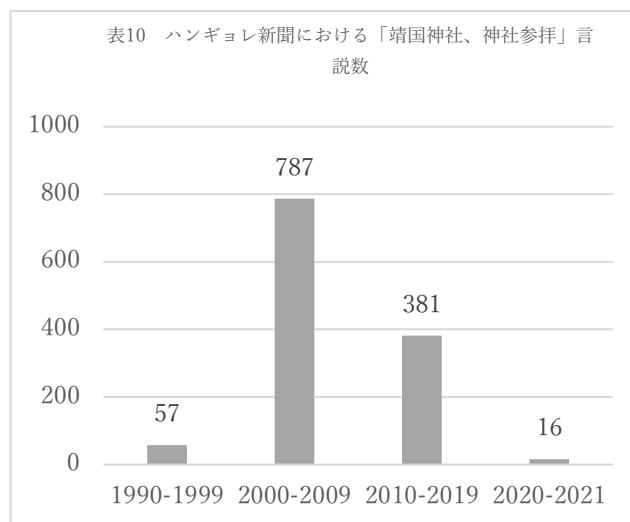
2000年から2001年の「靖国」のキーワード検索でヒットした表題を共起ネットワークにかけた結果としても「参拝」、「神社」(0.92)、「首相」(0.39)、「小泉」(0.28)といった郡を中心に「歴史」(0.2)からは「歪み」(0.25)、「教科書」(0.46)、「侵略」(0.2)といった語句が共起していた。また「市民グループ」(0.25)や、「世論」から「ワールドカップ」(0.2)といった語句を抽出することができた。これらの語句はそれまではあまり見るこ

2-2 ハンギョレ新聞

ハンギョレ新聞は1970年代の言論弾圧に反発する形で1988年に進歩主義を掲げ創刊された。²そのため対象は創刊後の1988年からとする。データベースは韓国最大手ニュースデータベースサイトのBIGKindsを利用する。「靖国神社」と「神社参拝」という韓国における靖国問題の通称を見出しと本文検索で検索にかけると表9、10のような結果となり、2000-2002年は144件の表題が対象となった。

表9 ハンギョレ新聞における靖国神社、神社参拝を巡る言説数

	靖国神社	神社参拝
1945-1949	-	-
1950-1959	-	-
1960-1969	-	-
1970-1979	-	-
1980-1989	8	0
1990-1999	103	57
2000-2009	1057	787
2010-2019	45	381
2020-2021	70	16



1990年代は、日本国内で参拝に反対している発言や神社参拝への違憲判決などが中心に報道されている(ハンギョレ新聞1991)。また韓国人の靖国参拝に反対するデモや活動家のインタビューなどが多く目立つ(ハンギョレ新聞1991)。

2000年代に入ると小泉首相の発言で「大変な時は『特攻隊』を思い浮かべる」といった右傾的な発言の紹介や、韓国国内で戦犯と一緒に合祀され、合祀取り消しを望む遺族が位牌の返却を求めるといった内容の報道がされている(ハンギョレ新聞2001)。実際に小泉首相が参拝を行うと、「ひどい裏切り感」や「恥ずかしい」といった言葉を使用しながら韓国政府が批判していることを報道している(ハンギョレ新聞2001)。抗議の際には「深い遺憾」という言葉も使用している(ハンギョレ新聞2003)。また中国からの抗議など日中関係についての言及が多く見られる(ハンギョレ新聞2005)。しかし交流をしている日韓の国会議員の活動などを紹介し、「お互い相手の国に対する理解の幅を広げることが重要だ」といった歩み寄りの内容やワールドカップでの交流についても紹介している(ハンギョレ新聞2005)。また同時期に竹島問題も再熱したため、一緒に報道されている。

また2000年から2001年の「靖国」のキーワード検索でヒットした表題で共起ネットワーク分析を行うと「神社」、「参拝」(0.82)という郡を中心に「歴史」から「歪み」(0.5)

² 1950年から1953年までは朝鮮戦争が勃発しその後の1960年から1987年までは軍事政権が存在す、1970年から1980年までは言論統制が行われていた。

代では「神社参拝」というキーワードが靖国問題を報じる時に使用されるようになり、連日小泉元首相が参拝を行なったことや、他国会議員が参拝に訪れたことを報道している。他には市民団体の運動やその感情について報道されている。慰安婦問題や竹島・独島他歴史認識問題とともに、ナショナリズムを象徴化した問題としてパッケージ化されるようになった。

第3節 新聞分析の結果

以上、日本と韓国の新聞分析を行った。判明したことは以下の三点である。

第一に、日本においても、韓国においても、「靖国」を含む記事が急増したのは2000年代であった。さらには生地の増減において、また報道の内容において、新聞の政治的位置による大きな相違はなかった。

第二に、1985年の中曽根康弘首相による公式参拝の時点では、韓国では読者に対して靖国とは何か、国家神道とは何かといった背景知識の説明が必要な状態であった。また日本の報道においても、靖国参拝に対する直接的な報道や「A級戦犯」や「合祀」などの具体的な問題への言及が多かった。

第三に、記事数が急増した2000年代初頭においては、日韓両国ともに1985年に比較して報道の内容が変化した。日本での報道では、「A級戦犯」や「合祀」などの具体的な問題への言及が減少し、「小泉」「自民党」「総裁」などの内政に関連した言及、国際的反応に関する言及が増加した。韓国での報道では、靖国神社の背景説明がなくなり、国民感情や歴史認識に関わる言及が増加した。

以上から、「靖国」は2000年代初頭に、日韓両国において「記憶の政治」における象徴化した問題となったことが推論できる。1985年と2000年代初頭の報道を比較した場合、日韓両国ともに具体的問題に関する言及が減少し、国民感情や国内外の政治的対立に関する言及が増加した。これらのことは、2000年代初頭において、「靖国」が両国の「記憶の政治」における象徴的存在となったことを示唆する。

なお日本の一部には、「靖国」が問題化したのは日本のメディアの過剰報道が原因であるという意見が存在する(古屋2016)(衛藤2023)。しかし、2000年代においては日本メディアが先に報道したことで韓国メディアに波及した形跡は見られず、韓国においてはすでに「靖国」が国民感情に関わる象徴的問題となっていたことが明らかになった。そしてこの時期の日本側報道からは、この時の公式参拝が日本の内政、特に自民党の党内政治が要因となって行われていたことを示唆している。

以上の分析結果から、2000年代初頭に「靖国」の象徴化が生じたこと、これには日本側の政党政治が関連していたことが示唆される。これを踏まえ、2000年代初頭における日韓両国の主要政治家の世代交代を分析する。

第3章 政治家の世代交代

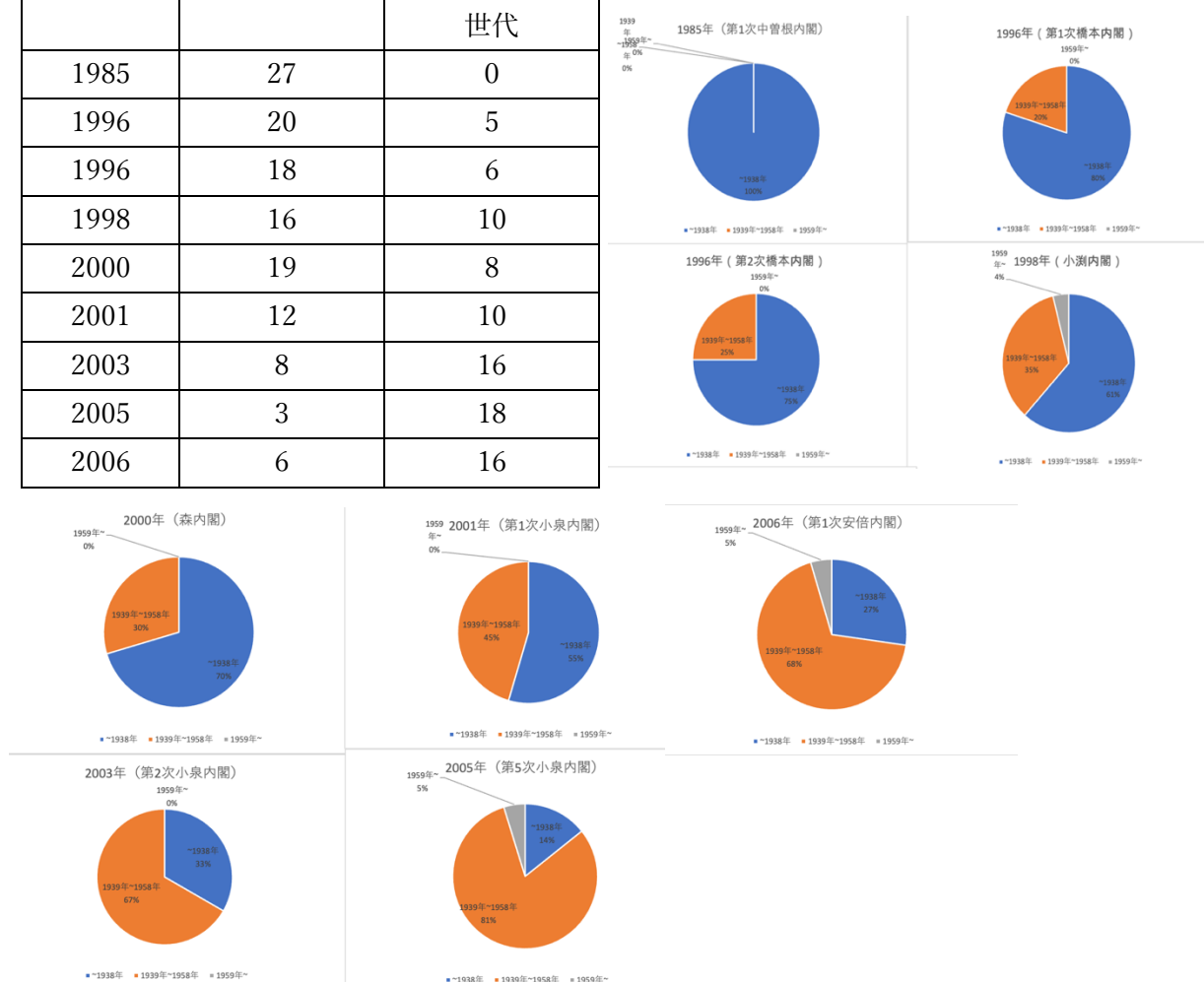
第1節 日本国会議員

新聞調査にて靖国問題が抽象化される記憶の政治化は2000年代に入ってからということを読み取ることができた。そしてそこには自民党政治が関わっていることから、靖国問題の記憶の政治化に携わった国会議員の世代交代がいつ行われているかを明らかにし、その関連性を見る。また報道では閣僚レベルの報道しかされないため、国会議員の中でも閣僚に焦点を当てる。当事者世代とポスト当事者世代は1939年以前に生まれたか、以後に生まれたかを基準とする。

表10 日本閣僚の世代

	当事者世代	ポスト当事者世代
1985	27	0
1996	20	5
1996	18	6
1998	16	10
2000	19	8
2001	12	10
2003	8	16
2005	3	18
2006	6	16

表11 日本閣僚の世代交代



首相公式参拝が初めて行われた1985年から、小泉首相が終戦の日に参拝をした2006年までの日本の閣僚の世代を調査した結果、表6の結果となった。1985年の中曽根政権時代には当事者世代しかおらず、1996年の橋本内閣では5分の1にポスト当事者世代が起用された。1998年の小渕内閣や2000年の森内閣ではポスト当事者世代も起用されているが、まだ過半数には達していない。2001年の第1次小泉内閣ではまだ当事者世代が半分以上を

占めているが、2003年の第2次小泉内閣ではポスト当事者世代が67%を占め、過半数になっている。2005年の第5次小泉内閣では81%がポスト当事者世代の閣僚である。

このように2000年代に突入するとポスト当事者世代の閣僚は年々減っていき、2005年の第5次小泉内閣では当事者世代はたったの3人に減る。2005年は小泉首相が任期最後の都市であり5回目の靖国参拝を強行した年である。ここで初めて終戦の日に参拝をした。2001年には国民の熱狂的な支持率を受けスタートした小泉内閣であったが、発足4年目には80%から40%に低下している(一般財団法人中央調査社2005)。小泉首相の靖国参拝に対しては、遺族連合会からの支持が高くあった。福井県では同年の衆院選の公示の際には、県遺族大会にて、日本遺族会の専務理事を務める水落参議院議員は「参拝定着に協力いただける先生方をどうか皆さんの手で」と呼びかけている(朝日新聞2005)。

第2節 韓国国会議員

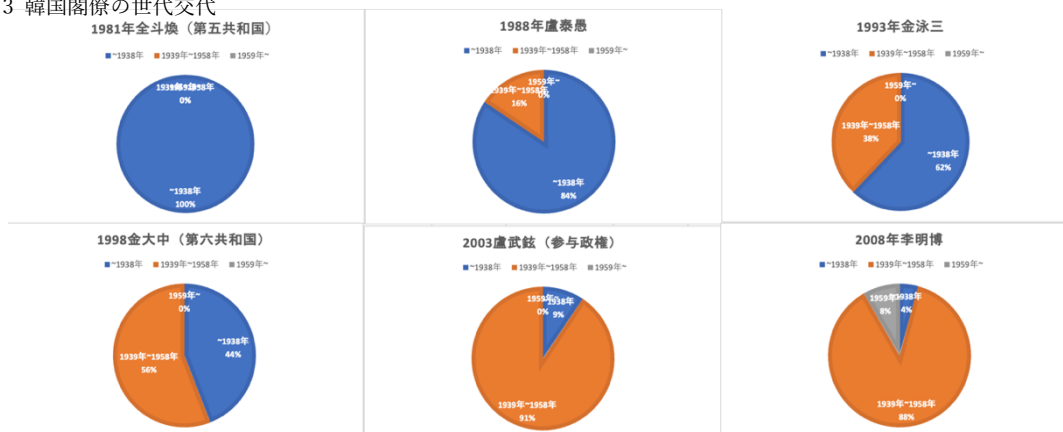
韓国においても新聞紙の内容分析を行なったところ、韓国において靖国に注目が集まったのは初めて中曽根康弘首相が公式参拝をした1985年であり、その当時はキリスト教信者が多い韓国において、信教的な理由として着目されていた。

しかし2000年代に入ると日本の政治家における右傾化していることが注目され始め、また日韓の外交的な懸案としても象徴的な問題になったことから、抽象化をポスト当事者世代がになっている仮説を立て、実際にいつ頃韓国の閣僚がポスト当事者世代に突入したのかを検証する。

表12 韓国閣僚の世代

	当事者世代	ポスト当事者世代
1981	32	0
1988	27	5
1993	18	11
1998	15	19
2003,04	3	29

表13 韓国閣僚の世代交代



その結果、表7のようになった。1981年は第5共和国と言われる全斗煥政権時代であり、全斗煥は朴正熙大統領が暗殺された後軍事クーデターで実権を握り、1980年光州事件

を弾圧して大統領となり軍事政権として民主化を厳しく弾圧していた時代であった。その時代は当事者世代が全ての閣僚を占めていた。1988年には初めて選挙で選出された盧泰愚が大統領となった。全斗煥の新軍部政権を継承した盧泰愚政権では32名の閣僚のうち5名のみがポスト当事者世代であった。そして政権が金泳三政権に移ると、ポスト当事者世代の割合は急激に増加した。1998年の金大中、第6共和国ではポスト当事者世代が当事者世代よりも多くなった。2003年と2004年の盧武鉉による参与政権では当事者世代が10分の1しか存在しなくなった。盧武鉉は日本統治時代を経験していない初の大統領であった。

第3節 日韓の比較

年代分析の結果、以下のことが判明した。第一に日本と韓国において閣僚の世代が交代した時期はほぼ共通しており、2000年代の初めであったことである。第二に、韓国における閣僚の世代交代においてポスト当事者世代が過半数を占めた時期は1998年と日本の2003年よりも早いことである。2国間では政治背景や環境も異なるが、2000年代のはじめに世代交代が行われていたことが明らかになった。この結果は、新聞報道において推論した靖国神社が「記憶の政治」として象徴化した時期と同様である。実際に世代交代したポスト当事者世代の国会議員がどのような経緯で靖国神社に参拝しているのか、次章にて言説分析を行う。

第4章 ポスト当事者世代の靖国

第1節 ポスト当事者世代の国会議員

これまで、2000年代に入り靖国問題が抽象化された可能性を新聞分析と日韓の国会議員の年代の移行時期の調査から示した。その抽象化である記憶の政治化と世代交代が実際に連関性があるのかを見るため、本章では実際に靖国に参拝経験のあるポスト当事者世代の国会議員の発言を分析し検証する。

対象となるポスト当事者世代の国会議員は計3名である。2007年8月15日に靖国神社に実際に参拝した3名で古屋圭司氏、井上信治氏、木原誠二氏である。古屋圭司氏は1952年に東京で出生し、1990年の第39回衆議院議員総選挙に自民党公認で立候補、初当選を果たし現在11期目である。2001年、第1次小泉内閣で経済産業副大臣に任命、2005年に郵政民営化法案に反対票を投じ、自民党を離党するが2006年に復党する。2013年第2次安倍内閣で国家公安委員会委員長兼内閣府特命担当大臣および拉致問題・国土強靱化を担当する国務大臣に任命され初入閣した。「日本会議国会議員懇談会」で会長を務める他「平和を願い真の国益を考え靖国神社参拝を支持する若手国会議員の会」、「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」と言った議員連盟に参加している。井上信治氏は1969年に東京都で出生、2003年の第43回衆議院議員総選挙に自民党公認で出馬、当選し現在7期目である。2013年の第2次安倍内閣で環境副大臣と内閣府副大臣に任命された。2020年には菅義偉内閣にて国際博覧会担当大臣、内閣府特命担当大臣で初入閣した。「日本会議国会議員懇談会」や「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」等の議員連盟に参加している。木原誠二氏は1970年東京で出世し、2005年に第44回衆議院議員総選挙で自民党公認で出馬し初当選した。現在5期目である。2013年の第2次安倍内閣で外務大臣政務官に就任、2015年には外務副大臣に就任、2021年には内閣総理大臣補佐官を務めている。「日本会議国会議員懇談会」や「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」等の議員連盟に参加している。これらの3氏の発言を各々のブログから読み取る。古屋圭司氏のブログで靖国参拝について言及している記事は2008年8月16日(古屋2008)、2011年7月19日(古屋2011)、2017年4月21日(古屋2017)、8月15日(古屋2017)、2019年3月18日(古屋2019)、4月23日(古屋2019)、8月15日(古屋2019)、2020年8月15日(古屋2020)、2022年8月15日(古屋2022)のものである。井上信治氏は2008年8月15日(井上2008)、2014年4月22日(井上2014)のブログにて靖国参拝について言及している。木原誠二氏は2009年11月20日(木原2009)、2010年8月10日(木原2010)、8月14日(木原2010)のブログを対象とする。以上のブログから靖国への参拝理由をコーディングをもとにワード検索を行う。具体的な語句を2類に、抽象的な語句を4類に分類する。具体的な語句は戦死した親族や戦友などの固有名、戦死した地名や年月日と分類する。抽象的な語句は「軍国主義」「平和主義」「民主主義」と言った語句のイデオロギー、「日本」「近隣諸国」と言った外交単位、「英霊」「肉親」「友人」「日本人」と言った集合的人称、「哀悼」「参拝」「反省」と言った定型句に分類する。また後者の比率が高いほど「象徴化」の

程度が高いとする。その類型化には KH コーダーにブログの全文をかけ、頻出した語句を全体の語句数との割合により比率を出す。

結果、ブログの全文をコーディングにかけ出現した頻出語と具体的、抽象的指標の比率を以下の表 14 でまとめた。三者に共通してブログの発言には定型句が最も多く使用されており、抽象的な内容で靖国参拝についての理由や思いを記述している。古屋圭司氏と井上信治氏に関しては具体的な類型である固有名と地名や年月日に関しては一度も出現していない。木原誠二氏に関しては翁叔父がレイテ島で戦死されたということを発言している。古屋圭司氏と木原誠二氏は「平和主義」というようなイデオロギー的な内容が出現したほか、「中国」や「韓国」など近隣諸国に言及した外交単位に関する発言が見られる。両者とも「英霊」や「日本人として」というような集合的人称や「哀悼」、「参拝」というような定型句が多く使用されている。また井上信治氏は「英霊」や「日本人」といった集合的人称と「哀悼」や「参拝」といった定型句のみが使用されており、抽象的な発言に集中している。

表 14 ブログ発言内容分析

	固有名	地名や年月日	イデオロギー	外交単位	集合的人称	定型句
古屋圭司	0	0	1.6%	1.4%	2.4%	11%
井上信治	0	0	0	0	4.9%	25%
木原誠二	0	0.9%	0.9%	2.3%	2.9%	7.4%

第2節 抽象化された靖国

2-1 「英霊」と「平和」という言葉

対象の三者のブログにて、多く出現している言葉が「英霊」である。木原氏は2008年8月16日のブログにて「靖国参拝は先の対戦で犠牲になった英霊に哀悼の誠を捧げるとともに、尊い犠牲のもとに平和と繁栄があることを改めて認識するものだ。戦後63年にわたり平和主義に徹し、他の国で一発の銃弾も発射していないのは我が国が戦後歩んできた歴史である。であるからこそ、総理大臣にはぜひ参拝をしてほしいと多くの国民が望んでいるのでは。」や、2011年7月19日のブログにて「私は例年、春と秋の例大祭、そして8月15日には靖国参拝を必ず行っている。また、地元から毎年参拝される遺族会の皆様へのご挨拶も欠かしていない。やはり、今の日本があるのは、英霊の尊い犠牲があっからからこそ今があるということをいつまでも忘れてはならない。そして、我々はこの日本をこれからも守っていかなくてはならない。」という内容をブログで記している。対象のブログの中でも17回「英霊」という言葉が出現している。そのほかにも「平和」という言葉が多々使用されている。例えば古屋圭司氏は2019年8月15日にブログ内にて「日本の平和と安寧を祈りつつ、国のために犠牲になった尊い英霊に対して、哀悼の誠を捧げさせて頂きました。」と発言している。日本の平和と安寧を祈る場所が靖国神社ということは体系的なものでは無く抽象的であることが伺える。

特に古屋圭司氏は2019年から参拝をした際のブログにおいて、以下の文章のPDFを添付して靖国参拝の理由を典型化している。「日本は大戦後自由と民主主義に復帰しただけでなく、法の支配、人権、人道主義の下で、平和主義に徹した国家運営を進めてきた。日本は七十一年間、他国で一発の発砲も行っていないが、これは先の大戦に対する日本政府と国民の深い反省に基づくものである。安倍内閣が「積極的平和主義」を掲げているのも、このような考えに沿ったものである。私は、国会議員に当選以来、春の例大祭、八月十五日、秋の例大祭での靖国参拝を欠かしたことがない。靖国神社とは一部メディアで喧伝されるような戦争を美化するための施設などではなく、明治維新以来、国のために命を捧げた肉親や友人の魂を癒す場所として、過去一〇〇年以上にわたり、多くの国民が維持・参拝してきた施設である。国会議員が、自らの国のために命を捧げた人たちに哀悼の誠を捧げ、平和への誓いを改めて表すことは、国民の代表である我々国会議員の責務であると考えている。また、私は衆議院議員であると同時に日本人でもあり、一人の日本人として靖国神社に参拝することは当然のことと考えている。以上が、本日八月十五日に私が靖国神社を参拝する理由である。そもそも、近隣諸国を刺激しようなどという意図は全くない。その上で、一国が、その国のために命を捧げた英霊に対しどのような形で追悼の誠を示すかは、専らその国民が考えるべき国内問題である。靖国参拝について、日本国内外の一部メディアで過剰な報道がなされている現状は、結果として国益を損ねていると言わざざるを得ない。」である。ここでも具体的な語句は存在せず、抽象的な語句のみである。「自由と民主主義」「平和主義」などのイデオロギー的な語句や、「近隣諸国」「国

内問題」といった外交単位、「国会議員」「国民」といった集合的人称、「日本政府と国民の深い反省」「国のために命を捧げた」「維持・参拝」「哀悼の誠」「平和への誓い」「国のために命を捧げた英霊」の定型句が見受けられる。その中でも多く出現するのが定型句である。抽象的な定型句を多く使用し、また参拝理由を毎年同じ PDF の添付で表現していると言うことは、古屋氏にとって具体的な理由がなくとも参拝に行く象徴的な場となっていることを示唆することができる。

以上のようにポスト当事者世代の国会議員は靖国神社に参拝する際に「英霊」という語句が頻繁に使用されている。では「英霊」とはどういう意味があるだろうか。精選版日本国語大辞典によると、「優れた人。またその魂」や「才能、体格などの優れているさま」、「死者の靈魂を尊敬している語。明治以後は戦死者の靈をいうことが多い。英魂」という意味を持つ(コトバンク)。この場合は3番目の「死者の靈魂を尊敬している語。明治以後は戦死者の靈をいうことが多い。英魂」が相応しいだろう。この「英霊」という言葉は靖国神社を象徴する言葉と言っても過言ではない。靖国神社は「国・天皇のために」戦没した人を神として称える、「英霊顕彰」という国家的イデオロギーを持っている(田中2003)。これは戦争で亡くなった人々は「靖国で会おう」という言葉を胸に抱いて亡くなっていったことにもつながる。実際に戦争に参加をしていたり、身近に戦死した人がいる場合は「靖国で再会をする」という理由で「英霊」に会いに靖国へ参拝をするという直接的な理由がある。しかし、戦死した人々を神として称える「英霊顕彰」はポスト当事者世代にとっては具体的な「誰か」に会いに行くものではないことが伺える。直接的な知識や思いが無いポスト当事者世代にとって、「英霊」という言葉は安易に使用することができる靖国神社参拝への抽象化された単語であることが示唆できる。

表 15 ブログにおける「英霊」「平和」頻出数

	英霊	平和
古屋圭司	8/9 ブログ	9/9
井上信治	2/2 ブログ	1/2
木原誠二	7/3 ブログ	0/3
合計	17/14	10/14

2-2 ポスト当事者世代の議員が靖国参拝する理由

ではなぜこのように、ポスト当事者世代は具体的な理由がない中、象徴化された靖国神社に参拝するのだろうか。そこにはさまざまな要因があるだろう。その中で政治的な動機として挙げられるものが自民党員からの支持の獲得である。当事者世代であった中曽根康弘首相は参拝する理由として、「英霊に対する約束」を掲げていた。亡くなった特攻隊の人だけではなく戦死した人々は「靖国で会おう」というような思いを抱いて亡くなっていった。その英霊に参拝することは礼儀であり当然の義務としていた(若宮 2014)。しかし小泉純一郎氏はそもそも靖国神社にそれほどの熱意を持っていなかったが 2001 年の自民党の総裁選において「靖国神社に 8 月 15 日に毎年参拝する」ということを総裁選の公約にしたのだ。政治的な動機としては自民党の党員には遺族会の票が多く、遺族会の票を獲得

するものであった。当時総裁選のライバルであった橋本龍太郎には軍人恩給と傷痍軍人と遺族会の支持があった(野中 2004)。このように遺族会の支持を得るために参拝することは、内政において象徴化したと位置付けることができる。8月15日に「英霊」に参拝することが重要であり、命日に固有の死者に参拝するのではなくなっている。

このようにさまざまな政治的要因、または個人の思想や信条などが要因となって靖国神社に参拝している。1940年生まれの国会議員、首相経験者である麻生太郎氏は2006年に以下の発言をしている。「靖国には、遺灰とか遺骨といった、物理的な何かはありません。あるのは御霊という、スピリチュアルな、抽象的なものです。いやもっと言うと、そういうものが靖国にあるのだと思ってずっと生きてきた、日本人の『集合的記憶』です。」(麻生 2006)という発言である。このように実際に国会議員の中でも靖国神社は特定の人に会いに行くのではなく、御霊に会いに行くという抽象的な理由での参拝であることが明言されている。このようにポスト当事者世代の国会議員の中で、遺族会の指示を得るために「英霊」に参拝することは内政において象徴化しており、「集合的記憶」としての靖国神社はナショナリズムが象徴化された場であることが明らかになった。

第5章 終章

1 研究成果のまとめ

これらの調査の結果、第一段階で日韓両国において2000年代に靖国問題は象徴化した形で問題となったことが判明し、それが自民党の内政に関連していたことが示唆された。

第二段階で上記の時期が日韓両国の主要政治家の「ポスト当事者世代」への世代交代が起きていたことが判明し、象徴化との相関が示唆された。

第三段階で、参拝した日本側政治家の参拝動機が抽象的になり「象徴化」していたことが判明し、さらに支持層を獲得する内政においても「靖国」が象徴化していたことが考察された。

以上から、①「靖国」の象徴化とそれによる「靖国問題」の構築は2000年代初頭に起きており、②それが日韓の主要政治家の「ポスト当事者世代」への世代交代と相関しており、③この過程には日本側の「ポスト当事者世代」の政治家の参拝動機、および支持層をめぐる内政における「靖国」の象徴化と影響していたことが示唆された。しかしながら、メディアの担い手の世代交代をはじめ、社会全体の世代交代が影響していた可能性は排除できない。よって本稿の分析は、「靖国」の象徴化の時期を特定し、それが世代交代と相関していたことは確かめられたが、世代交代の影響を検出するには不十分であったと言える。また世代交代の影響を実証するには、本稿では調査設計の段階で行わないことを選択した政治過程分析も必要になるであろう。

2 今後の課題

本稿では、「靖国」の象徴化の時期を特定し、それが世代交代と相関していたことは明らかになったが、その世代交代の影響までは確かめることができなかった。そのため今後はメディアの担い手の世代交代や、社会全体の世代交代の影響も視野に入れ、政治過程分析を行う必要があることを今後の課題とする。

謝辞

今回の研究にあたり、多くの方々にご指導ご鞭撻を賜りました。

指導教員の小熊英二先生には終始適切な助言を賜り、また丁寧に指導してくださいました。ここに深謝の意を表します。

副査の清水唯一朗先生、並びに神戸大学大学院国際協力研究科教授木村幹先生には当論文の執筆にあたり、ご指導と助言をいただきましたこと感謝申し上げます。

最後に、常に議論を深め様々なアドバイスをいただいた小熊研究会のメンバー、研究手法や知識をご教示くださった清水研究会拡大大学院ゼミの皆様には感謝いたします。

参考文献

【洋図書】

- Anderson, Benedict (1983) *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism* London: Verso. (=2020) 白石隆・白石さや訳『想像の共同体 -ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山
- Lee-YeoungJin. 2018. *죽음과 내셔널리즘 (死とナショナリズム)*, Seoul National University Press
- Giddens, Anthony. 1990. *The Consequences of Modernity* Cambridge University Press. (=2020) 松尾精文・小幡正敏訳『近代とはいかなる時代か』而立書房

【洋論文】

- Armada, B. J. 1998. *Memorial Agon: An interpretive tour of the National Civil Rights Museum*. Southern Communication Journal, 63(3): 235-243.
- Barbara A. Biesecker. 2002. *Remembering World War II: The rhetoric and politics of national commemoration at the turn of the 21st century*, Quarterly Journal of Speech, 88:4, 393-409
- Matt Carlson. 2006. *War Journalism and the "KIA Journalist": The Cases of David Bloom and Michael Kelly*, Critical Studies in Media Communication, 23:2, 91-111
- Confino, A. 1997. Collective memory and cultural history: Problems of method. *The American Historical Review*, 102, 1386-1403.
- Malinova, O. 2021. *Politics of Memory and Nationalism*. Nationalities Papers, 49(6), 997-1007. Cambridge University Press.
- Maurantonio, Nicole. 2014. "The Politics of Memory." In *The Oxford Handbook of Political Communication*, edited by Kate Kenski and Kathleen Hall Jamieson. Oxford: Oxford University Press
- Nam Sanggu. 2015. *야스쿠니 신사 문제의 현황과 연구 동향 (靖国神社問題の現状と研究動向)*, 東北亜歴史論集第 50 号, 201-237.
- V. William Balthrop, Carole Blair & Neil Michel. 2010. *The Presence of the Present: Hijacking 'The Good War'?*, Western Journal of Communication, 74:2, 170-207

【和図書】

- 内田雅敏 2014 『靖国参拝の何が問題か』平凡社
- 木村幹 2014 『日韓歴史認識問題とは何か』ミネルヴァ書房
- 木村幹 2020 『歴史認識はどう語られてきたか』千倉書房
- 高橋哲哉 2005 『靖国問題』ちくま新書, 21-26
- 田中伸尚 2003 『靖国の戦後史』岩波新書, 89-96, 102, 147-157, 167-172
- 橋本伸也 2016 『記憶の政治：ヨーロッパの歴史認識紛争』岩波書店

樋口耕一 2020『社会調査のための計量テキスト分析 ―内容分析の継承と発展を目指して―
第2版』 ナカニシヤ出版

【和論文】

宇多川幸大 2023「戦後日本の首相たちと歴史認識」中央大学商学論纂第64巻第5・6号:1-31

木村幹 2019「旭日旗問題に見る韓国ナショナリズムの新側面」国際協力論集第27巻第1
号:21-42.

朱然 2017「ナショナリズムの変容と戦後日本人の戦争認識」同志社大学社会科学第47巻第3
号:65-89

竹川俊一 2012「社説と報道によるフレーミング分析：2001年歴史教科書問題に関する朝日と
読売を事例に」マス・コミュニケーション研究80号:211-229

田中悟 2012「『靖国神社の公共性』をめぐる覚書」国際協力論集19:81-89

張騰飛 2019「新聞に見る小泉首相の靖国神社参拝問題 『朝日新聞』と『産経新聞』の検証結
果をもとに」アジア研究65巻第4号:1-17

福田朋実 2014「現役首相による靖国神社参拝問題にみる社説の役割：新聞社説の内容分析を
用いた考察」,現代社会研究

牧田徹雄 2000「先の戦争と世代ギャップ」NHK文研世論調査ファイル

三谷文栄 2011「日韓国交正常化交渉をめぐるメディア言説の変遷：政治正当化とフレーム分析
の観点から」法学政治学論究91号:81-113

【Web サイト記事】

読売新聞ヨミダス, <https://database.yomiuri.co.jp> (最終閲覧日 2023年7月2日)

朝日新聞クロスリサーチ, <https://xsearch.asahi.com> (最終閲覧日 2023年7月2日)

朝鮮日報アーカイブ (조선일보 아카이브), <https://newslibrary.chosun.com>
(最終閲覧日 2023年7月2日)

BIGKinds <https://www.bigkinds.or.kr> (最終閲覧日 2023年7月2日)

コトバンク「『英霊』の意味・読み・例文・類語」<https://kotobank.jp/word/英霊-443480>(最
終閲覧日 2023年7月10日)

麻生太郎オフィシャルウェブサイト「靖国に弥栄あれ」 [http://www.aso-
taro.jp/lecture/talk/060808.html](http://www.aso-taro.jp/lecture/talk/060808.html) 2006.8.8, (最終閲覧日 2023年7月13日)

井上信治ブログ http://blog.livedoor.jp/inoue_shinji/ (最終閲覧日 2023年7月10日)

井上信治「靖国神社 参拝」2008年8月15日 http://www.inoue-s.jp/old-log/katsudou_0808.html, (最終
閲覧日 7月10日)

井上信治「靖国神社春季例大祭」2014年4月22日

http://blog.livedoor.jp/inoue_shinji/archives/1856113.html, (最終閲覧日 7月10日)

木原誠二ブログ <https://kiharaseiji.com/blog> (最終閲覧日 2023年7月10日)

木原誠二「靖国神社参拝」2009年11月20日 <https://kiharaseiji.com/2602.html> (最終閲覧日7月10日)

木原誠二「靖国」2010年8月10日 <https://kiharaseiji.com/2721.html>, (最終閲覧日7月10日)

木原誠二「一日早く靖国参拝」2010年8月14日, <https://kiharaseiji.com/2723.html>, (最終閲覧日7月10日)

古屋圭司通信 <http://www.furuya-keiji.jp/blog/> (最終閲覧日2023年7月10日)

古屋圭司通信「終戦記念日と靖国参拝」2008年8月16日, <http://www.furuya-keiji.jp/blog/archives/193.html>, (最終閲覧日7月10日)

古屋圭司通信 <http://www.furuya-keiji.jp/blog/wp-content/uploads/2016/08/8月15日靖国参拝.pdf> 2016年8月15日(最終閲覧日7月10日)

古屋圭司通信「地元遺族会の靖国神社参拝」2019年3月18日, <http://www.furuya-keiji.jp/blog/archives/12779.html>, (最終閲覧日7月10日))

古屋圭司通信「靖国神社参拝」2019年4月23日, <http://www.furuya-keiji.jp/blog/archives/13004.html>, (最終閲覧日7月10日)

古屋圭司通信「靖国神社参拝」2019年8月15日, <http://www.furuya-keiji.jp/blog/archives/category/未分類/page/89>, (最終閲覧日7月10日)

古屋圭司通信「靖国神社参拝」2020年8月15日, <http://www.furuya-keiji.jp/blog/archives/category/未分類/page/66>, (最終閲覧日7月10日)

古屋圭司通信「靖国神社を参拝」2022年8月15日, <http://www.furuya-keiji.jp/blog/archives/19091.html>, (最終閲覧日7月10日)

10MTV, 若宮啓文 「『外国に干渉されることではない』と8月15日に参拝」
https://10mtv.jp/pc/content/detail.php?movie_id=68 2014.02, (最終閲覧日2023年7月17日)

野中広務「私と中国・日中関係の課題」<http://www.avis.ne.jp/~nihao/nonaka-kouenn-2.htm>, (最終閲覧日7月23日)

一般財団法人日本遺族会「日本遺族会について」<http://www.nippon-izokukai.jp/aboutus/>, (最終閲覧日2023年7月15日)

一般社団法人中央調査社「時事世論調査に見る小泉内閣の特徴」2005,
<https://www.crs.or.jp/backno/old/No559/5591.html>, (最終閲覧日2023年7月16日)

2005 総選挙朝日新聞 HP, 2005年8月27日
http://www.asahi.com/senkyo2005/local_news/fukui/OSK200508270020.html, (最終閲覧日2023年7月16日)

【インタビュー】
衆議院議員衛藤征士郎氏へのインタビュー、2023年5月22日15:00-15:30、衆議院第一会館
衛藤征士郎事務所にて

付録 1: 読売新聞コーディング対象表題一覧

1984～1986年	2000～2002年
<p>「靖国」に初もうで 首相、現職として戦後初</p> <p>[政界メモ] 靖国初もうで早トチリ</p> <p>中道党首会談見送り 公明が新自く同席拒否</p> <p>[ニッポン泥棒事情] = 5 逸品 珍品 絶品 (連載)</p> <p>消えゆく“東洋一”の鉄筋校舎 老朽化進み今夏解体へ／都立九段高校</p> <p>[21世紀への日中関係] = 下 信頼の証 蜜月時代、行動で (連載)</p> <p>[広告] 記号論への招待 靖国神社／岩波書店</p> <p>お花見また足踏み／首都圏</p> <p>首相・閣僚の靖国公式参拝 自民、党見解で「合憲」</p> <p>懇談会設け検討 靖国公式参拝、政府が方針</p> <p>靖国参拝 政府、板ばさみに 「合憲」踏み切れず 懇談会設置 世論見極め</p> <p>自民党見解に野党反発／靖国参拝</p> <p>総務長官 公費玉串料は合憲</p> <p>首相、再選へ強い意欲 3大改革に全力 「人事尽くし、天命待つ」記者会と懇談</p> <p>首相懇談の発言要旨</p> <p>[気流] 「靖国」公式参拝 再「狂気」への道</p> <p>“違憲見解”変わらず 靖国公式参拝で政府答弁</p> <p>「靖国」政府見解変わってない 官房長官が強調</p> <p>「靖国公式化」進む自民論議 慎重さほしい「政府見解」見直し</p> <p>靖国参拝、今年も「私人」で 首相、きょう例大祭へ</p> <p>玉串料は私費で 首相が靖国神社を参拝</p> <p>靖国に民間人が合祀 長崎の被爆学生ら553柱</p> <p>自民党議員が靖国集団参拝 閣僚含め159人</p> <p>[気流] 靖国参拝問題 首相は「私人」明確にして</p> <p>[気流] 靖国参拝問題 国の責任者が行くのは当然</p> <p>憲法 厳しい葛藤の時 首相が論議の火付け役 意識の変革狙う</p> <p>[気流] ご都合主義の解釈はやめて</p> <p>「靖国懇」発足遅れる 国会はね返り心配 政府 「違憲の疑い」調整難航</p> <p>靖国参拝合憲論に社党反論</p> <p>[気流] 失政は多い中曽根内閣</p> <p>[ニュース・スポット] 靖国公式参拝、反対の要望書</p> <p>相撲東日本実業団選手権</p> <p>違憲疑い否定できぬ 靖国参拝で政府答弁書</p> <p>「靖国懇」月内に発足 1年メドに結論 官房長官の私的機関 座長に田上氏内定</p> <p>「靖国懇」の設置決まる 座長に林氏、来月初会合</p>	<p>参院本会議で代表質問 野党の欠席続く</p> <p>国会論戦の詳報 1日の衆参両院代表質問から 自民・村上正邦氏ら2氏 漂泊する日の丸 川村邦光 (寄稿)</p> <p>A級戦犯分祀「検討の必要」 靖国問題で青木官房長官が会見</p> <p>[今日のノート] 日の丸漂泊</p> <p>[編集手帳] 千鳥ヶ淵の桜</p> <p>[こだま] 大相撲春場所で引退した横綱若乃花、伊勢神宮で初めて土俵入り</p> <p>「憲法に関する意識」 読売新聞社全国世論調査 28-31面=特集</p> <p>[地球を読む] 歴史・謝罪問題 過去引きずる愚 岡崎久彦 (寄稿)</p> <p>国会議員懇談会が靖国神社に参拝</p> <p>森首相「神の国」で陳謝 繰り返された問題発言</p> <p>[ミニ時典] 神道政治連盟=神政連</p> <p>[20世紀にっぽん人の記憶] (88) 関東大震災・100歳の証言=1 (連載)</p> <p>人柄しのび弔問の列 小淵さん葬儀 武道館に一般弔問客が詰めかけ</p> <p>首相の靖国神社公式参拝問題 環境整備急ぐ 自民・野中氏が意欲</p> <p>靖国懇談会、近く設置 首相参拝へ環境整備／自民方針</p> <p>自民「靖国懇」、難航は必至 森首相「神の国」発言も公式参拝に“逆風”</p> <p>森首相の内閣記者会とのインタビュー要旨</p> <p>そごう問題 モラルハザード意識せず 靖国参拝は見送り示唆／森首相</p> <p>自民の靖国懇、野中氏ら10人 19日に党本部で初会合</p> <p>[よみうり時事川柳] 〈秀〉バンダにも一人暮らしという老後 (寄稿)</p> <p>自民の靖国神社懇が初会合</p> <p>自民・靖国懇スタート 年内意見集約、難航も</p> <p>国会論戦の詳報 2日の衆院予算委から 自民・甘利明氏ら11氏</p> <p>靖国参拝巡り、森首相答弁 慎重かつ自主的に／衆院予算委</p> <p>森首相記者会見の要旨</p> <p>靖国神社公式参拝行わず 森首相が広島市内のホテルで会見</p> <p>森首相の靖国神社公式参拝見送り 中川官房長官、「周辺国に配慮」</p> <p>森内閣の10閣僚、靖国参拝意向を表明</p> <p>[次代に継ぐ夏] 2000年8月15日 (2) 眠っていた手紙 (連載)</p> <p>石原東京都知事、靖国公式参拝へ</p> <p>森首相、閣僚の靖国神社公式参拝中止を 真宗教団連合が要請</p> <p>[ここに吹く風] (9) 学者・山折哲雄さん 自然の前に敬けんであれ (連載)</p> <p>[今週の政治日程] 8月13日-19日</p> <p>[NEWS抄録] 2000年8月5日 (土) - 11日 (金)</p> <p>[政界ウォッチング] 靖国参拝問題 21世紀にルールを 編集委員・水野雅之</p> <p>靖国公式参拝問題、結論なお五里霧中 「分祀」「特殊法人化」… 自民内も賛否</p> <p>石原都知事、靖国神社に公式参拝</p> <p>内閣の靖国神社参拝は10閣僚に</p> <p>[よみうり時事川柳] 靖国が踏み絵にされる終戦日 (寄稿)</p> <p>3閣僚、靖国公式参拝 森首相は私的参拝も見送り 自民党内から不満も</p> <p>[編集手帳] 靖国「遊就館」近代日本の戦争を静かに思う</p> <p>予科練41人、玄界灘に散った… 松山海軍航空隊の同期悼み海上慰霊祭を計画</p> <p>中国、森田運輸相の訪中を拒否 靖国公式参拝に関連か</p> <p>中国、森田運輸相の訪中を拒否 日中関係、悪化の懸念 靖国公式参拝が影響?</p> <p>森田運輸相の訪中拒否 「日程上の理由」／中国外務省談話</p> <p>[よみうり時事川柳] 靖国を敬遠したがる神の国 (寄稿)</p> <p>[20世紀にっぽん人の記憶] (138) 玉音放送=5 (連載)</p> <p>[NEWS抄録] 2000年8月12日 (土) - 18日 (金)</p> <p>[今日のノート] 小泉さんの無念</p> <p>森田運輸相の訪中問題、「日程を再調整」 野田保守党幹事長が中国外相と会談</p> <p>[よみうり時事川柳] 〈秀〉メールよりTELよりナウい伝書鳩 (寄稿)</p> <p>河野外相と朱・中国首相会談 (要旨)</p> <p>森田運輸相の訪中を再調整 中国首相が指示</p> <p>中国の陳健駐日大使、保岡法相の訪中を要請</p> <p>「海洋強国」目指す中国 政権内には異論も 調査船活動、外務当局は摩擦嫌う</p> <p>民主党の新執行部、各党にあいさつ回り</p> <p>[私のいる風景] 評論家・坪内祐三さん 九段・中坂 近代文学揺らんな期の息吹</p> <p>中国の高速鉄道計画 「新幹線方式」で協力 森田運輸相が上海副市長に表明</p> <p>第2回日中シンポジウム 中国のWTO加盟と国際情勢 日中関係を中心に=特集</p> <p>第77回箱根駅伝 新春2日号砲 因縁の対決、燃える順大、駒大の2強=特集</p> <p>[余響] 2000年12月27日 土井重人</p> <p>靖国通り下の地下駐車場から煙噴出、一時騒然／東京・歌舞伎町</p> <p>[きょうという日] 1月5日</p> <p>路上駐車を都内繁華街から一掃 新宿、渋谷…渋滞解消へ本腰</p> <p>観光バス奪い靖国通りを3キロ暴走 衝突次々、10人けが 25歳の男逮捕</p> <p>[気流] 盗難トラックに命を奪われた弟 無職・加藤幸恵23 (埼玉県川口市)</p>

「靖国懇」来月3日に初会合
8月15日靖国神社 13閣僚が参拝意向 合憲論は賛否 本社アンケート
靖国懇が初会合 座長に林・日赤社長
靖国懇発足 社党が反対運動全国的に
[社説] 戦没者慰霊のあり方について
[気流] 靖国参拝問題に 神社だからこそ閣僚は「私人」で
[気流] 靖国参拝問題に 靖国神社法案早期具体化望む
[気流] 靖国参拝問題に 私的諮問機関での審議は反対
傷跡みつめる女流詩人たち 終戦の日に詩集の出版相つぐ
首相の記者懇談内容 要旨
[気流] 私の主張 知らせたい「戦争の傷跡」/大島富三
あす39回目終戦記念日 戦没者追悼式や平和訴える催しも
[広告] 靖国神社に公式参拝を! /英霊にこたえる会
首相ら靖国参拝へ きょう39回目の終戦記念日
平和への努力強調 終戦記念日 各党が声明
[社説] 軍国主義を捨てた日本の歩み
[広告] 靖国神社に公式参拝を! /英霊にこたえる会
首相と14閣僚 今年も靖国に
自民、自クも集団で靖国参拝
「8・15」歳月ズシ 戦没者追悼式に“ニュー世代” 遺族席の孫は24歳
「総理大臣たる…」 靖国参拝 硬い口調、中曽根さん
[編集手帳]
首相らの靖国参拝 野党、一斉に批判
旧高砂義勇兵ら訪日 悲願の参拝 戦友の霊慰める
相撲東日本学生リーグ最終日
[ニュース・スポット] 首相、きょう靖国参拝
首相が靖国神社に参拝 後藤田長官らも
靖国懇きょうから本格論議
“神社の性格”討議も 靖国懇で官房長官表明
旧皇族会長の賀陽会が敗訴 “宿泊代”訴訟
ストップ・ザ・久島 あす全日本アマ相撲 一番手は巧者・山崎
久島、連続アマ横綱 先輩・柳原を圧倒 全日本相撲選手権
首相が靖国参拝 昨年に続き初もうで
[ウォッチ] ハト派的撃退法に「フン！」
[ニュース・スポット] 靖国参拝問題懇あす会合
閣僚の靖国参拝 意見割れ論点定まらず 夏までの結論ムリ 調整手間取る懇談会

[季語の記憶] (63) 椿 黒田杏子 (寄稿連載)
真昼の東京・新宿、ホテルロビーで発砲 暴力団抗争? 1人死亡
[編集手帳] 桜とともに届く“九段からの便り”
[四季おりおり] 日本人はなぜ桜を愛でるのか 新谷尚紀 (寄稿)
[季語の記憶] (64) 花 黒田杏子 (寄稿連載)
21世紀日本人の意識 「憲法改正賛成」世代超え浸透 / 読売新聞社全国世論調査
「新宿大ガード下」二輪違法駐車対策 効果ゼロ、いっそ“黙認” / 警視庁
坪内祐三氏の「出版と快気を祝う会」 瀕死の重傷から復活、強気の発言
自民総裁選 各陣営の争奪戦 業界票に異変、「小泉人気」で組織票に緩み
[きょうという日] 4月19日
自民総裁選公開討論会の要旨
小泉新総裁なら閣外協力も視野 公明党が検討
国会議員86人が靖国参拝
野党6党が決起集会 自公保政権の打倒を訴え
自民総裁予備選が大詰め “牙城”に切り込む 「白票くれないか」
自民党総裁選・ドキュメント森後継=4月21日
橋本氏苦戦、公・保、困った 「小泉新総裁」強まって—「閣外協力」方針撤回?
自民党総裁選 「小泉総裁」あす選出 野党、「自民体質」批判へ重心
「小泉総裁」でも自民との連立維持 神崎公明党代表が表明
24日の自民党・小泉新総裁の会見要旨
野党、自民党新総裁「小泉人気」に危機感 政策批判で世論の反発懸念
自民新総裁に選出の「小泉外交」世界が注目 「強硬な政策を推進か」
小泉総裁が就任会見 株式取得機構、早期創設に慎重 憲法九条、将来改正すべき
小泉新総裁誕生 「歴史教科書問題」「靖国参拝」けん制 / 韓国
小泉新総裁誕生 「靖国発言」をけん制 / 中国外務省報道官
小泉総裁の「靖国公式参拝」、公保に意向伝達 / 尾身自民幹事長代理
[ことば] 靖国神社公式参拝で会見 / 小沢自由党首
小泉首相、きょう誕生 霞が関「何が出るのか…」 具体策に期待と不安
李鵬氏の訪日延期 「歴史」「台湾」妥協せず 小泉新政権に原則示す / 中国
[社説] 連立政権自公保合意 「各論実行」が問われる
与党3党首会談 公明・保守、「靖国」「集团的自衛権」で小泉氏にクギ
[編集手帳] 「小泉外交」まずは足元から
[よみがえり政治] (中) 政策で再編急げ 論説委員・大久保好男 (連載)
小泉首相の靖国公式参拝 慎重姿勢求める 坂口厚労相が示唆
組閣ドキュメント=4月26日
「靖国公式参拝」 小泉首相意向に反対 坂口厚労相が表明
小泉内閣スタート “女性シフト”街は好感 識者の採点
「小泉内閣」海外の反応 田中真紀子外相に注目・要望
「村おこし」観音像に違憲 「宗教的意義免れず」 / 松山地裁判決
村の観音建立違憲判決 安易な信仰像に警鐘 原告住民「恥ずかしい」 / 松山地裁
小泉新内閣 「女性シフト」好感の声 東海地方の20人が採点
[メディア時評] 李登輝氏来日の背景 より充実した分析を 池井優 (寄稿)
メーデーに小泉首相出席 連合内に困惑、反発 「パイプ復活」は歓迎だが…
[気流] 余裕目立った女性閣僚たち 自営業・白土民雄55 (広島市)
[小泉首相・革命の課題] (3) 集团的自衛権 「行使」実現へどう調整 (連載)
国会の憲法論議、どう活性化 小泉首相の改憲姿勢はズミに (解説)
小泉政権の本音は? 「靖国参拝」「同日選」公明憂色 連立パイプ役、失い焦り
[主要閣僚に聞く] (7) 福田康夫・官房長官 衆院解散、必然性なし (連載)
小泉首相「あいまい所信表明」の舞台裏 財政再建、時期触れず
集团的自衛権、「研究は可能」 / 政府答弁書
集团的自衛権「研究は可能」 政府見解20年ぶり前進 小泉首相の意向を反映
きょうから国会代表質問 野党、改革の具体化迫及へ
歴史教科書問題 韓国の反応 感情先行? 温度差も
国会論議の詳報 9日の衆院代表質問から 民主・鳩山由紀夫氏ら4氏
小泉首相の靖国参拝表明 中国新華社が批判報道
小泉首相「個人で」靖国参拝表明 近隣諸国や公明に配慮 / 衆院本会議
小泉首相、靖国参拝「個人で」 財政改革「増税せず」明言 / 衆院代表質問
国会論議の詳報 10日の衆参両院代表質問から 民主・勝木健司氏ら6氏
小泉首相が靖国参拝すれば近隣諸国が反発 公明幹部が懸念
首相公選制で候補に民間人も 国会議員の推薦条件に / 小泉首相
[ニュースの英語] worship
「小泉ブーム」公明うへむ 融和優先、独自性薄れ…譲歩どこまで
靖国参拝は首相として 小泉首相が答弁 / 衆院予算委
国会論議の詳報 14日の衆院予算委から 麻生自民党政調会長ら8氏
靖国の「個人参拝」、大戦美化ではない / 川島外務次官
靖国参拝問題 アジアへの配慮を要請 中曽根氏が小泉首相に
変幻答弁の小泉劇場 予算委デビュー 目玉閣僚も個性発揮 民主論客攻めあぐむ
靖国参拝発言で小泉首相を批判 / 中国新華社
[変わる野党戦略] (中) 「対小泉」問われる指導力 (連載)

[気流] 中曽根首相への評価 「巧言令色」に危険思想の影

[木曜ルポ] 桜前線 急ピッチ北上中…大忙し“お花見予報官”=見聞き

[ニュース・スポット] 靖国参拝問題懇が本格論議

[今日の顔] 戦没軍馬慰霊祭を復活する 平山一郎さん

[ニュース・スポット] 社党、靖国参拝反対申し入れ

[ニュース・スポット] 閣僚の靖国参拝実現決議

靖国公式参拝 自民「合憲」へ圧力一段と▽首相、きょうの例大祭に参拝

首相が靖国参拝 春季例大祭

憲法論議持ち越す 靖国公式参拝で懇談会

[気流] 「アンネの夢」を実現させて

靖国公式参拝 首相ら実現へ 「憲法に触れぬ方法」探る 懇談会が作業

[気流] 靖国神社参拝 閣僚は私人で

迎え火、湿る 東京・谷中墓地では雨中でも墓参りひっきりなし

公式参拝実現が大勢 靖国懇、31日に素案提示

相撲東日本実業団

首相、靖国公式参拝固める 宗教色薄めた形で 終戦記念日 歴代内閣で初

防衛費、野党と正面对決 首相強調 「1%枠」近く判断 今夏から靖国公式参拝

首相の講演要旨

1%枠撤廃 藤尾氏支持 靖国公式参拝も

[USO放送] 靖国公式参拝

防衛費枠撤廃してもすぐに連立解消せぬ 新自ク幹事長語る

[気流] 靖国公式参拝 繁栄のかげに多くの英霊が

[気流] 靖国公式参拝 英霊の政治的利用許せない

靖国参拝問題で懇談会近く結論

「靖国」公式参拝容認へ 懇談会が素案 憲法抵触せぬ形式で

[広告] 靖国神社公式参拝は、もはや、政府決定あるのみ/英霊にこたえる会

[政界メモ] “ノーモア貿易摩擦”?▽政教分離、苦肉のアイデア

靖国公式参拝を後押し 中曽根派内に対照的反応 1%枠撤廃に慎重姿勢

9日に報告書提出 靖国懇

靖国公式参拝を容認 懇談会が報告書案 違憲の主張も付記

1%枠撤廃、靖国公式参拝 「解散覚悟で対決」 公明委員長▽きょう帰国の途に

1%枠撤廃 厚い自民実力者の壁 総裁選へ思惑▽あす福田元首相と会談

「靖国公式参拝踏み切るな」 社党委が見解

慎重論にも配慮 防衛費1%枠撤廃で首相

[政界メモ] 低姿勢思い出させる原爆忌▽“国会地震”感知はウナギで

「憲法に触れぬ形式で」 靖国懇最終討議 公式参拝是認報告へ

小泉首相の靖国参拝、戦争美化でない 福田官房長官が強調

小泉首相の靖国参拝、慎重対応求める/冬柴・公明幹事長

小泉首相の靖国参拝、中国が中止求める

有事法制に積極対応 田中外相が答弁 靖国公式参拝せず/衆院外務委

[よみうり時事川柳] 歴代が言えずのことを言う人気(寄稿)

「慶応三年生まれ七人の旋毛曲り」坪内祐三著 厳しくも明るい青春描く

[きょうという日] 5月25日

日中外相会談の要旨

[社説] 日中外相会談 田中外相、まずは無難な外交デビューだが

「小泉旋風」の1か月 矛盾を抱えた政権 成田憲彦氏

「小泉旋風」の1か月 「ひるまず、とらわれず」

田中外相の初舞台、中国側が心配り 唐外相「無理な要求出さぬ」 懸案は先送り

日中外相会談 「教科書」と「靖国」平行線 田中外相、日本の立場強調

[よみうり寸評] 小泉内閣発足1か月

A S E M外相会議閉幕 中国、多極化の流れ自賛 日米非難は抑制姿勢

歴史教科書問題 韓国、改めて修正要求 田中外相が理解求める/日韓外相会談

日韓外相会談の要旨

高まる小泉内閣人気 公明・小泉円満ムード 「控訴断念」神崎氏好感

[NEWS抄録] 2001年5月19日(土) - 25日(金)

中韓外相会談 「教科書・靖国」触れず 対日悪化を回避

田中外相の外遊3日間 「懸案」より「顔合わせ」 堅実発言に終始

[イッセー尾形の正解ご無用] 第9問 「小泉新政権」(寄稿連載)

[政・ことば考] (10) 「恐れず、ひるまず、とらわれず」 小泉首相(連載)

田中外相、来月訪米の意向 「会談キャンセル」反省、反米イメージ解消狙う?

[編集手帳] 歓迎される小泉首相の本音発言

靖国神社参拝問題 小泉首相「中韓の不快の念、取り除く必要」/参院予算委

[夢・2002年日韓W杯] あと1年(1) 未来志向の関係なるか(連載)

道路財源 民主党、一般財源化を推進 参院選公約の見直しで基本方針

小泉首相の靖国参拝 加藤・自民元幹事長が反対

[気流] 靖国参拝問題、決着をつけて 無職・松本義三80(神戸市)

[やさしい介護学] ウォーキングで老化防ぎ 気張らず、楽しく

[日めぐり] 6月4日

与党3党幹事長 中・韓訪問へ

与党3党幹事長が中韓訪問へ 外交だけは“党高政低” 関係改善で主導権

小泉首相の年内訪中 靖国参拝絡みで中国、困難の認識

小泉首相の靖国参拝見送り、唐・中国外相が強く要請

[政界ウォッチング] 田中外相のバランス感覚 政治部長・玉井忠幸

神崎公明代表、小泉首相の靖国公式参拝を警戒

[分析・小泉流] (4) 国民が「仲間意識」 情を前面にやります共感(連載)

小泉首相の靖国参拝 田中外相が再考促す 衆院委答弁で示唆

自由・小沢氏、小泉首相の靖国参拝に賛同

政策提案に軸足 高支持率背景に 党首討論で民主党

小泉首相、戦没者の国立墓地創設に慎重姿勢/党首討論

[気流] 「A級戦犯」は別にまつれば 無職・塩崎親義78(愛媛県東予市)

与党3党幹事長 中韓訪問「土産ない」 靖国参拝・教科書…見解微妙に食い違い

都議選 小泉人気 無党派がっちり 自民は歓迎、野党は警戒 九州

小泉首相の靖国参拝に改めて自制求める/陳中国大使

〈解〉A級戦犯合祀

「国立戦没者墓地」構想が急浮上 靖国参拝に新たな波紋=訂正あり

国立戦没者墓地に神崎公明代表が賛同

[訂正] 「靖国参拝」の記事=6月27日付朝刊3面

「国立戦没者墓地」建設 与党各党で検討へ、3党幹事長が合意

[小泉選挙] (1) 「純ちゃん人気」街走る 政策への理解度は「?」(連載)

自民首脳は国立戦没者墓地に慎重姿勢

「靖国神社に祭らないで」 旧日本軍に徴用された韓国人遺族ら、国を提訴

参院選 自公選挙協力具体化 公明、連立維持を重視 小泉内閣高支持率に配慮

形式どうする小泉首相の靖国参拝 私的行為は自由 「公式」に憲法の壁(解説)

[小泉選挙] (4) 野党“独白色”に腐心 「お化け人気」切り崩し(連載)

[英語ホントの使い方] (64) 日本の神々は…(寄稿連載)

池田大作・創価学会名誉会長インタビュー要旨 「首相の靖国参拝は問題」

小泉首相の靖国神社参拝 公用車で、記帳は「総理」 政府首脳見直し

創価学会の池田大作氏インタビュー 小泉人気の反動心配 自公保連立は一応評価

[気流] 故周恩来氏の言動に感銘… 囑託・国政昭夫64(岡山県英田郡)

小泉首相の靖国参拝、見送りを要望/日中友好協会

[ディスカス・争点討論] 参院選、何が問われるか 諸井虔氏ら3氏

中韓首脳に小泉首相親書 3与党幹事長に託す方針

小泉首相の靖国参拝、田中外相が反対表明

[分析・小泉流] 番外編 メルマガ「親しみ演出、ハートつかむ」(連載)

[党首に聞く] (1) 小泉・自民党総裁 有権者の関心を力に(連載)

1%枠、靖国公式参拝で 社党と共闘も 公明書記長

[気流] 激論コーナー 靖国公式参拝 賛成▽反対

公式参拝 宗教色薄め容認 靖国懇報告書 合憲判決(地鎮祭訴訟) 根拠に

「靖国」参拝方式詰め急ぐ 政府 玉ぐし料私費で 官房長官表明

靖国問題をめぐる動き

靖国懇のメンバー

靖国神社

憲法第20条▽憲法第89条

津地鎮祭訴訟の最高裁判決

公式参拝、根深い対立 「追悼」論議狭めた懇談会 解説

野党「違憲」と反発

「公費の玉ぐし料 問題ない」 常識的額なら憲法に触れぬ 林座長ら見解

[社説] 靖国神社公式参拝への疑念

閣僚の靖国神社参拝 懇談会報告書 要旨

公式参拝判断 燃えさかる「靖国論争」 遺族会は熱い視線

昇殿しても拍手打たず 靖国公式参拝で有力に

[気流] 日曜の広場 40年の歳月 靖国の参道

「靖国参拝」13閣僚 保留4氏「政府方針に従う」 20閣僚本社アンケート

[ニュース・スポット] 靖国参拝、公明党が非難

[気流] 身近な所から平和教育実践

靖国参拝 「供物料」を公費で支出 「昇殿も」折衷方式固まる

靖国公式参拝方式が確定▽山口労相は私人参拝

きょう靖国公式参拝 首相、本殿に供花 統一見解を変更

内閣改造・党人事を先送り 臨時国会終了後に 首相意向

首相の靖国公式参拝 野党、一斉に反発

憲法が禁止する宗教的活動に該当しない 官房長官談話の要旨▽解説

首相らに中止意見書 憲法学者36人

きょうの参拝18閣僚

春秋にも公式参拝へ

アジア諸国の理解得よ 各大使に訓令

[USO放送] 靖国での祈り

首相、初の靖国公式参拝 賛否の中18閣僚も 終戦40年戦没者追悼式

儀式省く新方式 靖国参拝 供花料は公費から▽公人資格は16閣僚

終戦40年 野党各党も集会 「公式参拝」に抗議行動

中曽根内閣と対決姿勢強める 社党委員長

親子3代「戦争いや」 40回目の8・15 追悼式 白髪の沖繩戦遺族ら

教科書問題の長期化、不可避に 韓国が対抗措置を検討 国際機関で日本批判も

与党3幹事長、中国外相に理解求める 靖国神社参拝と歴史教科書問題で

参院選立候補予定者アンケート 与党、財政再建に軸足/読売新聞社調査

10日の与党幹事長・中国外相会談要旨

中韓の反応、見通しに甘さ 靖国参拝問題で与党幹事長が小泉首相と対応策協議へ

小泉首相の靖国参拝・歴史教科書問題に江主席、強い不満 与党幹事長会談で表明

参院選の立候補予定者アンケート調査 郵政民営化48%賛成/読売新聞社

参院選へ論戦熱く 主要政党7党首討論会の詳報

[党首に聞く] (3) 神崎・公明党代表 1000万票獲得、夢ではない(連載)

「A級」合祀の問題視、「死者選別」と反論 党首討論で小泉首相

靖国参拝問題 小泉首相「熟慮してみる」 与党3党幹事長と会談

参院選で宗教票が欲しい 自民「反公明」系と関係修復=訂正あり

7党首公開討論会 政策論は乱戦模様 靖国参拝で神崎氏、慎重論に同調

韓国が日本文化の開放停止へ 教科書問題に対抗措置 自衛隊との交流も

[気流] 「政教分離」の議論が少ない 住職・中山道71(広島県比婆郡)

袋小路の歴史教科書問題、どう打開 「内政」と「外交」分離(解説)

参院選 安倍世代の闘士OB、立ち上がる 「政治が動く時に発言したい」

日中韓、漢字で交流促進 自公保100議員が来月7日に初会合

[党首に聞く] (6) 扇・保守党党首 党の存亡かけて戦う(連載)

日本国際フォーラム政策提言 座談会「集団的自衛権安全保障」=特集

自民・野中氏ら4人、来月2日に訪中へ

広島を被爆者団体、政府への要望項目決定 8月6日の「聞く会」で提出へ

[ことば] 首相の靖国神社参拝は近隣諸国を刺激/神崎・公明党代表

政府答弁書で小泉首相、靖国参拝の考え

靖国韓国入位はい、日本に返還要請へ 韓国政府が方針

[小泉改革・熱狂の行方] (6) 求心力を保つには 北岡伸一(寄稿連載)

歴史教科書問題 韓国国会が対日決議 記述是正、関係見直し要求

参院選主要政党の公約 小泉改革・景気対策・テレビCM・外交安保・憲法=特集

小泉首相の懇談要旨

靖国参拝の形式などに配慮求める方針/山崎自民幹事長

靖国参拝あくまで実施 内閣改造は重ねて否定 小泉首相が明言

小泉首相の靖国参拝 慎重な対応を要請/崔韓国駐日大使

[取材メモ] 掛け軸に託された思い

日中外相会談の主な内容

教科書問題など日本へ不満表明 中韓外相会談

日中外相会談 田中外相発言の説明、日中外務省で相違

唐中国外相、小泉首相の靖国参拝中止を要求 日本側、足並みに乱れ

日韓外相会談の要旨

中国外相発言を「内政干渉」と批判 靖国参拝問題で山崎自民幹事長

日韓外相会談 「小泉首相と協議」中韓に約束 靖国問題で田中外相

日韓外相会談 教科書問題、平行線 韓国外相が靖国参拝中止を改めて要求

[舌戦列島] 7月27日

靖国神社参拝に関する小泉首相発言(要旨)

小泉首相の靖国参拝明言 中韓両国へメッセージ 公式色薄め、関係修復配慮

参院選 「改革」論戦すれ違い 意外に近い? 与野党の主張 景気対策は選挙後に

小泉首相の靖国参拝 「日中関係の分水嶺」 中国外務省、首脳相互訪問中断も

[社説] 日中韓関係 大局を見る冷静さが必要だ

[社説] 靖国参拝 「公人」「私人」で騒ぎたてるな

歴史教科書問題で外務省、中韓と摩擦 打開策なし 韓国の抑制姿勢に望み

靖国参拝、小泉首相に「行かないで」 田中外相が説得へ

小泉首相、靖国参拝重ねて表明

靖国問題 小泉首相と田中外相会談、参院選後の見直し

[よみうり寸評] 外交とは、交際ではなく交渉

[舌戦列島] 7月27日

[ことば] 固い、柔らかいということで済む話ではない/土井・社民党首

田中外相帰国 外遊の後には内憂 「靖国」「デンバー」課題山積

[気流] なぜもめるのか首相の靖国参拝 無職・清水満雄81(東京都調布市)

[気流] 靖国への参拝にこだわる理由は 会社員・内海貞行56(埼玉県桶川市)

[政治を読む] 「不祥事続き外務官僚」 外交迷走に懸念も

[NEWS抄録] 2001年7月21日(土) - 27日(金)

[地球を読む] 靖国参拝論争 特殊な政治的問題 岡崎久彦(寄稿)

参院選、きょう投票 深夜にも大勢判明 「改革」「景気」「痛み」に審判

参院選 与党が過半数確保と速報/中国

参院選自民党勝利 靖国神社など日韓あつれき懸念/韓国メディア

参院選「小泉効果」まざまざ 神奈川・公募の小林さん、おひざ元から早々当選

[社説] 参院選結果 改革本番へ小泉政権の重い責任

靖国参拝、再考求める 田中外相が小泉首相に

参院選大勝 「改革」信任、推進力強まる 小泉首相周辺、「流れ止められない」

参院選 民主「逆風」しのぐ 1人区では公認全敗 野党、選挙協力は不調

<p>自民議員次々と 靖国参拝、反対派は集会</p> <p>首相献花の名札はがす 中年の男逮捕</p> <p>首相と18閣僚 靖国公式参拝</p> <p>[靖国公式参拝の波紋] =上 首相の決断 背景に高い支持率(連載)</p> <p>野党各党が抗議の談話</p> <p>国民の支持信じてる 中曽根首相</p> <p>参拝閣僚に理由、感想を聞く</p> <p>首相の靖国参拝で住民が訴訟</p> <p>[8・15] 靖国の森揺れて 首相、チラリ“釈明”初の公式参拝</p> <p>[靖国公式参拝の波紋] =中 合憲・違憲 「社会通念」を尺度に(連載)</p> <p>[政界メモ] ドックで忘れた先送り政局 同じ海軍でも体質は大違い?</p> <p>[靖国公式参拝の波紋] =下 消えぬ疑念 神道色は薄めたが(連載)</p> <p>自民 臨時国会へ対応始動 対決必至の「靖国」「1%枠」野党の“本音”探る</p> <p>[政界ウイークリー] 臨時国会向け充電中</p> <p>靖国公式参拝 野党が追及 衆参議運委</p> <p>靖国公式参拝 「行政の独断避けた」官房長官、衆院委で強調</p> <p>靖国神社参拝には疑念表明 法制局長官/衆議院内閣委員会</p> <p>[靖国駆け込み参拝] “守勢”目立つ政府答弁 問題点の徹底論議望む</p> <p>社党代表団あす訪中</p> <p>[ニュース・スポット] 社党訪中団が第1回会談/人民大会堂</p> <p>[気流] 公式参拝賛成は論理的な主張で</p> <p>臨時国会じつくりと 定数は正や防衛費 野党も積極姿勢を</p> <p>[本社全国世論調査] 中曽根内閣の支持率 3・5%下がりが55・7%に</p> <p>中ソ改善まだまだ 胡総書記、田辺氏に語る</p> <p>首相の靖国参拝 トウ氏が間接批判 社党訪中団と会談</p> <p>理解求めて更に努力 官房長官談/靖国神社公式参拝問題</p> <p>国連総会、首相の日程難航 臨時国会調整つかず 火ダネ多く、根回し及び腰</p> <p>新自ク研修会4、5日に開く 「連立」討議か</p> <p>財源めぐり再び論議に 解説</p> <p>[手帳] 千鳥ヶ淵で不戦平和の誓い 西本願寺主催 18日に全戦没者追悼</p> <p>安倍訪中動かさぬ 外務省首脳表明 靖国、1%の説明必要</p> <p>今秋、解散ありうる 宮本共産党議長</p> <p>[熟年を生きる] 金子利吉さん ひたすら彫る卍文様 陽明門に魅せられて</p> <p>社党委員長が倒閣打ち出す</p> <p>[ニュース・スポット] 靖国参拝反対、総評が集会</p> <p>相撲東日本学生個人体重別大会決勝</p>	<p>参院選自民大勝 小泉首相、「蜜月」は終わった 政治部長・弘中喜通</p> <p>小泉首相の靖国参拝 神崎公明代表が批判</p> <p>小泉首相、参院選での自民勝利を評価 「最初の難関乗り切った」</p> <p>2001参院選 「小泉改革」投票所で聞く 近畿、中国、四国の有権者</p> <p>2001参院選分析 自民、都市も“純風”満帆</p> <p>[社説] 小泉大勝後 経済危機の克服こそ急務だ</p> <p>小泉首相の「靖国参拝」 田中外相が反対発言</p> <p>[期待から現実へ] (上) 参院選自民大勝、中身を示す時(連載)</p> <p>小泉首相「改革、3段階で」 来月中に具体策提示 「靖国」は熟慮し判断</p> <p>辞職可能性、田中外相が否定 「小泉首相説得」巡り</p> <p>小泉首相の靖国参拝 「神式でないなら可能」/福田官房長官</p> <p>[気流] 靖国参拝なら「個人」として 会社囑託・渡辺義一73(福井市)</p> <p>[逆風の中の野党] (1) 民主 展望見えぬ政権構想(連載)</p> <p>[論点] 総理の靖国参拝は個人で 伊藤淳二(寄稿)</p> <p>セーフガード暫定発動100日 話し合い解決めど立たず 中国報復で貿易摩擦</p> <p>小泉首相の靖国参拝 政府・与党内に15日避ける案浮上 首相は態度保留</p> <p>[編集手帳] 靖国参拝で広がる波紋</p> <p>小泉首相の靖国参拝日程、熟慮する/福田官房長官</p> <p>[気流] 7月のデスクメモ</p> <p>[気流] 靖国参拝問題、賢明な決断を 学園理事・岸昌79(大飯狭山市)</p> <p>小泉首相の靖国神社参拝 自民大阪市議団が支持決議を送付</p> <p>[逆風の中の野党] (2) 共産 現実・柔軟路線に暗雲(連載)</p> <p>[対中パイプ] を自民・野中氏が誇示 靖国「熟慮」の小泉首相しり目に</p> <p>[論点] 総理「参拝」、周到な準備必要 小島朋之(寄稿)</p> <p>靖国参拝、内外から批判 「熟慮」の小泉首相、対応に苦慮</p> <p>[よみうり寸評] まだ続く田中外相と官邸とのぎくしゃく</p> <p>田中外相更迭論、政府・与党内で浮上 外務省人事混乱、靖国発言「国益損なう」</p> <p>靖国問題 自民党の野中氏、唐外相に冷静対応求める 決定的関係悪化に危機感</p> <p>[気流] 不戦への誓いを無名の戦没者に 主婦・田中ひさ子66(岐阜市)</p> <p>[社説] 北方水域操業 四島の主権侵害は容認できない</p> <p>[社説] 外務省人事 田中外相の言動は更迭に値する</p> <p>外務省人事問題 我慢も限界? 田中外相、「人事権」に執念燃やしたが…</p> <p>「唐外相の発言、波紋呼び残念」 自民・野中氏、自制求める</p> <p>田中外相への批判拡大 更迭論、自民党内に 執行部は慎重、更迭なら政権痛手</p> <p>「やめなさい」発言、唐中国外相が釈明 「日本語は話すが研究者ではない」</p> <p>田中外相、駐米大使交代に同意 小泉首相に従う 外務省、歴代4次官ら更迭</p> <p>[気流] 国民に自信と勇気を下さい 会社員・村田秀人34(大阪府池田市)</p> <p>[ことば] 小泉首相が選挙中に言ったことは実行するべきだ/扇・国土交通相</p> <p>田中外相会見の要旨</p> <p>靖国問題、A級戦犯の分祀望ましい/野中・自民元幹事長</p> <p>[よみうり時事川柳] 〈秀〉日曜日痛みをいれに行って来た(寄稿)</p> <p>財界4団体の夏季セミナー終了 構造改革「各論」に注文 安全網や「痛み」対策</p> <p>[社説] 外務省新体制 外相交代で外交の立て直し図れ</p> <p>「ベストの配置」 外務省の幹部人事で小泉首相が評価</p> <p>外務省人事決着 小泉首相激怒、田中外相パニック 亀裂残し“全面降伏”</p> <p>靖国参拝問題 小泉首相の意向を尊重 田中外相が会見</p> <p>靖国参拝後の談話出さず 小泉首相、口頭で理解求める意向</p> <p>靖国問題で公明、板挟み 創価学会は反対 連立維持の立場も</p> <p>「靖国」坪内祐三著</p> <p>自民・野中氏ら訪中終了 感情的対立、緩和に腐心</p> <p>原水協国際会議 中、韓など「靖国」に遺憾 原水禁は子どもアピール</p> <p>臨時国会、あす召集 井上参院議長再選へ</p> <p>小泉首相の靖国参拝 一礼のみ「中曽根形式踏襲」 自民・山崎幹事長ら見通し</p> <p>小泉首相の靖国参拝、日中にマイナス 胡錦濤・中国副主席が言明</p> <p>靖国参拝問題 小泉首相「なお熟慮」</p> <p>56回目の広島原爆忌 小泉首相、被爆者をねぎらう 養護ホームなど訪問</p> <p>[政界ウォッチング] 首相の靖国参拝 政治部次長・玉井忠幸</p> <p>靖国参拝問題 小泉首相「私も迷っている」</p> <p>[気流] 「小泉さん嫌い」と言う韓国学生 日本語教師・加藤貞子65(東京都)</p> <p>小泉人気、保てるか? 支持率低下78% /読売新聞社全国世論調査</p> <p>小泉内閣「改革実現する」67% 支持率低下78%に/読売新聞社全国世論調査</p> <p>小泉首相靖国参拝 3閣僚が賛意 坂口厚労相は熟慮要請</p> <p>小泉首相の靖国参拝 中国「8月15日以外」求める</p> <p>[映画] 「蝶の舌」=スペイン 内戦前夜、残酷・痛切な師弟愛</p> <p>首相の靖国参拝支持方針決める 九州の自民幹事長会議</p> <p>[靖国考] (上) 政教分離、儀式か慣習か A級戦犯の合祀に異論(連載)</p> <p>靖国参拝、政務官は「私的」 内閣官房が文書を配布</p> <p>小泉首相靖国参拝、与党真つ二つ 賛成派、超党派で有志の会を結成</p> <p>[よみうり時事川柳] 〈秀〉10円で戦争をする牛井屋(寄稿)</p>
--	---

[ニュース・スポット] 「公式参拝訴訟」門前払い
北京で反日デモ 学生1000人が参加 靖国参拝強く反発
北京大の壁新聞 日中関係にもホコ先 経済優先を批判 日本に頼る風潮嫌って
中国政府が反日デモを擁護 日本批判の談話
反日デモ、慎重対応を 北京の日本大使館筋分析
国民に対し懸念 中国公使語る
中国側の理解求める 官房長官が方針
北京の反日デモ 昇進不満など内部的要因も 消息筋語る
「靖国」中国に説明へ 政府方針 反日デモ、真剣に対応
理解いまだ日中の間 9・18反日学生運動を点検 「中国の誇り」あらわに
[気流] 誤解でない中国の靖国非難
[気流] 軍国主義復活はありえない
1兆円減税は困難 財源ないと宮沢総務会長
4野党、臨時国会へ足並み 政策減税、冒頭に 防衛費1%枠厳しく対応
学生の反日行動理解できる 胡啓立氏
靖国例大祭 首相公式参拝 慎重に検討中
首相参拝見送りへ 靖国例大祭 中国反発に配慮
地方でも反日運動 中国 日中経済関係批判も
反日デモ、一部やり過ぎ 李副首相 学生集め「自粛要請」
靖国公式参拝賛成が過半数 本社世論調査
[103臨時国会の攻防] = 1 中曽根戦略 ダブル選を照準 (連載)
戦争体験、憲法感覚を反映 靖国公式参拝 本社全国世論調査
[ニュース・スポット] 外務省アジア局長が訪中
中国の反日運動収拾へ 党・政府が本格説得
外相きょう中国へ出発 「靖国」対応焦点
アジア安保 参加国が条件設定を ブラウダ政治評論員 オフチンニコフ氏に聞く
「靖国」対応見守る 中国外相 安倍外相の配慮要請
「歴史的教訓くみ、平和の道を」 中国外相、歓迎夕食会であいさつ
久島、伊東に3連敗 タイ記録も持ち越し 相撲全国学生個人体重別選手権
国民感情配慮を トウ小平氏「靖国」で要請 安倍外相と会談
14日召集臨時国会 与野党対決色前面に 「1%枠」「靖国」が争点
外相、訪中公式日程を終了 中国の「歓待」、中曽根後に配慮
「靖国」乗り越える努力を 外相表明
「中国側の理解得られた」 首相が見解
[政界メモ] 財政通をちゃっかり自称▽「デビュー戦」の意気高く…
[社説] 日中関係に注意深い対応を

小泉首相の靖国公式参拝 札幌市会が反対決議
「小泉首相の靖国参拝15日」に／政府首脳
小泉首相の靖国参拝問題 反対議員が会合、9日に野党4党有志で
与党3幹事長、小泉首相と10日にも靖国問題で会談
[靖国考] (中) 福田、大平首相らも参拝 (連載)
首相の靖国参拝 野党“反対”足並み乱れ 民主・自由“賛成”会合出席の議員も
小泉首相、夏休み16日間 「後ろめたいが…」
[社説] 靖国問題 首相はもう参拝を中止できない
[気流] 隣国の嫌がる参拝するより 主婦・岡本ゆき子41 (兵庫県加古川市)
[気流] 首相は信じる道を行くべき 社会保険労務士・宮坂信成74 (京都市)
[気流] 首相は信じる道を行くべき 社会保険労務士・宮坂信成74 (京都市)
15日の靖国参拝を要請 超党派議員の会、小泉首相に申し入れ書
小泉首相の靖国参拝 野党有志が反対集会 107人参加、自由は2人
小泉首相、自民総裁再選へ 橋本派接近「両刃の剣」 「敵役」消えれば人気は？
[気流] 息子送り出した祖母の心わかる 主婦・御正山昌子59 (埼玉県熊谷市)
[気流] 戦争起こさない誓いこそが大切 主婦・石田晴美38 (神奈川県鎌倉市)
与党幹事長会談を踏まえ「靖国」結論 小泉首相が会見
小泉首相、自民総裁再選へ 景気、靖国…課題が山積 党改革も手つかず
[気流] 首相の意向に沿った政治を パート・長田和子47 (大阪市)
参院選 「親小泉・非自民」4割 ねじれ悩み投票低調／読売新聞社追跡調査
坂口厚芳相、小泉首相の靖国神社公式参拝に反対強調
小泉首相靖国参拝でも「連立に亀裂ない」 青木参院自民党幹事長が会見
川島外務次官退任 大使にも、顧問にもなれず 「グッドラック」後輩に言い残し
靖国参拝、週明けに最終判断 小泉首相が与党幹事長と会談
「歴史問題は最重要な政治問題」 友好団体の歓迎夕食会で武・新駐日中国大使
[まじ景色ひと模様] 日本の痛み、8月の記憶
[靖国考] 番外編 藤波元官房長官に聞く (連載)
[小泉改革の条件] (5) 外交再建 「集団的自衛権」解決を (連載)
参拝、15日回避も検討 靖国神社に献花料 小泉首相が山崎、加藤氏らと会談
[よみうり時事川柳] ☆参拝をしてもやめてもたたかれる (寄稿)
塩川財務相が11日に靖国参拝
靖国神社に小泉首相が献花
「靖国参拝」最終調整 小泉首相、官房長官らと協議 前倒しの方向強まる
よみうり時事川柳賞 7月中の秀句10句 手嶋吾郎選評
座談会・日本再生へ向けて(上) 国際関係 問われる国家の位置付け (連載)
[ことば] 首相靖国参拝、日本の自主性のもとで決定／自民・山崎幹事長
[小泉首相の一日] 8月12日・13日
小泉首相靖国参拝 「熟慮の上参拝」田中外相が見解
小泉首相靖国参拝 無宗教の国立墓地検討を 水島朝穂 (寄稿)
小泉首相靖国参拝 圧力の中、参拝実現を評価 大原康男 (寄稿)
靖国神社参拝後の小泉首相の発言要旨
靖国神社参拝に関する小泉首相の談話＝全文
小泉首相靖国参拝 “軟着陸”与党内に賛否 野党は政治姿勢を批判
首相の靖国参拝「前倒し」に反応様々 「15日じゃないと」「行くための熟慮」
[社説] 靖国問題 前倒し参拝は適切な政治判断だ
靖国前倒し参拝 盟友説得、折れた小泉首相 「慙愧の念に堪えない」
[ミニ時典] 玉ぐし料
小泉首相の靖国神社参拝 タイ、冷静な反応
小泉首相の靖国神社参拝 香港の親中派政党など20人が抗議デモ
「批判起きぬ施設を」 国立墓地整備構想で小泉首相が示唆
「靖国」打開案探る時 追悼施設に小泉首相意欲 中韓関係改善が重い課題
[編集手帳] 「熟慮」と「配慮」の末の靖国参拝
[21世紀日本企業・学街連携] 学者ベンチャー(2) 小型発電焼却炉 (連載)
[漫画] 小泉首相靖国参拝…与野党カンカンガクガク サト・シゲ
終戦記念日 各党が声明、「靖国」野党は厳しく批判
小泉首相13日靖国参拝 土井・社民党首が抗議文、官房長官に手渡す
山崎幹事長、靖国参拝“説明の旅” あすから東南アジア歴訪
首相靖国参拝 例大祭で参拝、考慮すべき 秦郁彦・日大教授
小泉首相13日靖国参拝 中国「前倒し困る」 落とし所探った官邸と外務省
小泉首相13日靖国参拝 沈静化願う公明 支持母体と与党の“板挟み”
検証・小泉首相13日靖国参拝 15日参拝へ“幻の談話” 首相が心情つづる
[よみうり時事川柳] 〈秀〉運が悪ければつかまる検挙率 (寄稿)
首相靖国参拝 各国・地域の反応 英主要各紙、反発中心に報道
首相靖国参拝 各国・地域の反応 「賛否両派が失望」と米紙報道
首相靖国参拝 各国・地域の反応 台湾 非難、中韓より弱め
首相靖国参拝 各国・地域の反応 中国、抑制気味に批判 鎮静化模索へ
首相靖国参拝 各国・地域の反応 韓国「右傾化」と国民反発
[社説] 終戦の日 戦没者追悼は平和への誓い
小泉首相の靖国参拝 寺田駐韓大使呼び、改めて遺憾の意／韓国外交通商省

あす臨時国会召集 懸案めぐり厳しい攻防 自民内思惑も絡む

年金法成立を最重要課題に 大蔵省

京大教養部で封鎖

経済摩擦は緊急事態 首相が所信演説 内需拡大を急ぐ 定数は正ぜみ実現

首相演説 「靖国参拝」部分割る 原案冒頭、中国への配慮

[社説] 課題が重い首相の所信演説

国会、きょうから代表質問 1%、定数焦点に

靖国参拝 「公式」制度化ではない 官房長官が慎重姿勢

[ニュース・スポット] 「戦犯合祀の靖国参拝反対」

[国会リポート] 本音迫及した代表質問 細心コマギレ答弁 首相 防衛は心情

「靖国」具体提言なし 日中21世紀委討議終了

国会論戦のポイント 防衛問題▽定数は正▽靖国参拝▽減税問題

関係抜き集団参拝 靖国例大祭 自民・自ク143人

[国会リポート] 「1%」迫及に乱れ 亀裂、予算委で表面化?

国会論戦のポイント 防衛問題▽減税・内需拡大▽経済摩擦▽靖国参拝

留学生の派遣拡大を提言へ 日中21世紀委

国会論戦、予算委へ 防衛・定数・靖国で野党迫及の構え

友好、双方努力を 日中21世紀委 胡総書記が強調

[気流] 首相所信表明演説に思う 「総決算」の真意はどこに

靖国参拝見送り、中国に配慮 官房長官認める

中曽根-趙会談23日に 「靖国」理解求める 「日中4原則」を確認

首相「平和と軍縮の旅」強調 “世界のの中曽根”誇示 経済摩擦の攻撃かわす?

[気流] 戦犯祭る靖国 まだ尾を引く

「靖国」中国に配慮 外相答弁

中国での企業広告自粛を 対日批判で外務省首脳

日中友好維持を再確認 中曽根・趙会談 「靖国」一応の決着

国連舞台の中曽根首相 “率直外交”米で得点 「平和」演説、国内政局への計算

防衛・靖国など論戦へ あすから衆院予算委▽質疑の争点

靖国合祀内容に懸念 金丸氏表明

靖国問題、慎重な対処を 韓国外相が表明

あくまで大綱優先 首相答弁/衆院予算委

[ニュース・スポット] 韓国外相発言に対日配慮

「靖国」で遺憾の意 新任の駐日中国大使

靖国の例大祭公式参拝 儀式以外は合意 官房長官見解

A級戦犯合祀、現状変更は問題 自民政策首脳

きょうから参院で論戦 衆院予算委終わる

柳沢金融相と尾身沖繩相が靖国参拝 15日は4-5閣僚が予定

小泉首相の靖国参拝、政教分離に反せず 政府答弁書を閣議決定

終戦記念日、靖国へ思い交錯 遺族、戦友変わらぬ祈り 「参拝、足が動く限り」

[世界のトップニュース] 8月14日

5閣僚の靖国参拝 中国「遺憾と不満」を表明

「国会議員の会」のメンバー 靖国神社を集団で参拝

5閣僚が靖国参拝

金大中韓国大統領、対日批判抑える 光復節で演説 関係修復図る姿勢

56回目の終戦記念日 全国戦没者追悼式で「恒久平和へ全力」 小泉首相が式辞

終戦記念日 遺族ら1200人参列 福岡で追悼式典

[よみうり時事川柳] ☆総理には胸突き八丁九段坂 (寄稿)

[気流] 熟慮の結果のやむなき選択 無職・岡井主税79 (京都府福知山市)

[今日のノート] 新たな世紀の夏

[小泉首相の一日] 8月15日

山崎・自民幹事長の東南ア歴訪に首相親書

13日の靖国参拝 「心配かけた」と小泉首相、自民幹部に

小泉首相の13日参拝 「前倒しの経緯説明を」/超党派議員の会

終戦記念日に平和へ誓い新た 民主代表、追悼式出席 共産委員長、街頭で首相批判

終戦記念日 5閣僚が靖国参拝 93年細川内閣4人に次ぐ少数

靖国神社のこま犬台座に落書き容疑 中国籍の男逮捕

中国ハッカー被害続出 小泉首相の靖国参拝後、企業ホームページ改ざん

小泉首相の靖国参拝 日本大使館前で学生ら抗議行動/北京

小泉首相の「反省」の式辞、行動で体现を 中国外務省が談話

小泉首相、中韓と関係改善に意欲 首脳会談を9、10月で調整

「15日参拝」公約と中・韓の反発 板挟みの小泉首相に古賀前幹事長が助け舟

W杯日本企業ロゴ、公式商品から外す 韓国の販売会社

小泉首相、参拝でお祝い受けていた 靖国神社「通常の参拝形式」

小泉首相の靖国参拝 中国、学生70人 日本大使館前で日の丸燃やし抗議

[気流] 参拝反対論に答えていない 中小企業診断士・金子一郎63 (大阪府)

小泉首相靖国参拝 「お祝い」に公明党幹部が不快感

[ミニ時典] お祝い

韓国の与党幹部、小泉首相あて抗議書簡

来日の韓国議員団、小泉首相の靖国参拝に抗議

日本の謝罪求め北朝鮮が決議文 靖国参拝非難も

日中首脳会談の実現 「雰囲気作り必要」 中国外務省が談話発表

山崎自民幹事長がインドネシア大統領と会談 ODA削減説明、首相の親書手渡す

小泉首相の靖国参拝 官邸への電子メールで「賛成」8割

小泉首相の靖国参拝、政府が答弁書決定 「二度と戦争起こさぬ気持ちで参拝」

[カブミラー2001] 首相靖国参拝に賛否 村田晃嗣 (寄稿)

靖国参拝に抗議?、日本人校に落書き 香港「歴史に背向けた」

韓国国会議員団、靖国神社参拝で小泉首相に謝罪要求

日本人戦犯 入国禁止 「靖国」に対抗か、対象25人/韓国

戦没者追悼の新施設構想、政府が検討 靖国の分祀求めず、「無宗教の記念碑」に

[気流] 「靖子」の名をつけられて… 自営・武田靖子54 (広島県三原市)

[気流] 平和の構築に向けた議論を 会社員・伊東俊明40 (大阪狭山市)

[漫画] インドネシアでは靖国に触れず 祐天寺三郎

小泉首相は来年も靖国参拝を 安倍官房副長官が見解

[メディア時評] 熟慮必要な靖国問題、冷静に「事実」提供を 大宅映子 (寄稿)

[気流] 平和構築に向け冷静な議論必要 会社員・伊東俊明40 (大阪狭山市)

小泉首相の靖国参拝 中国、ネットで過激に日本批判

「お祝い受けたら憲法違反なのか」/小泉首相

小泉首相、静養先でも「純ちゃん」 箱根のホテルで「ゴロゴロしたい」が…

日韓サッカー交流再開 大分の高校今秋にも 韓国側から申し出

[取材メモ] 「漢字」で日中韓連帯を

靖国神社の首相参拝、毎年継続を/安倍官房副長官

[自由席] 靖国問題考 戦没者を悼む心とは

2002年W杯サッカー 韓国へ合同応援団 在日韓国・朝鮮、日本人の900人

[政・ことば考] (15) 熟慮に熟慮を重ねた 小泉純一郎首相 (連載)

靖国参拝問題、中韓と改善を シェンロン・シンガポール副首相

[もの知り百科] ことばのこぼこ 虚心坦懐 米川明彦 (寄稿)

各党、メールマガジン知恵比べ でも「小泉版」に人気集中

小泉首相の靖国参拝「理解」 カンボジア首相、アジアの首脳で初

サンマ漁問題 抗議の小泉首相親書 露側の認識不足、政府にいらだち

[論壇思潮] (下) 靖国問題 国益損なう左右の極論 北岡伸一 (寄稿)

小泉首相、東南ア歴訪へ 臨時国会前、「靖国」「経済」など対話

九州大学、ソウル大学交流調印 「共通の歴史認識」事業も検討

よみうり文芸時評<俳句>倉田弘文 2001年8月21日 (寄稿連載)

[論点] 説得力欠く中国の靖国批判 中嶋嶺雄 (寄稿)

[気流] 参拝問題の将来首相に聞きたい 中学生・酒井絢子13 (東京都清瀬市)

靖国公式参拝続ける 首相「国民感情も大事」 衆院予算委
[国会論戦のポイント] / 首相・閣僚靖国神社公式参拝
政権へ大胆に妥協 石橋委員長あいさつ 社党が40周年式典
火種残す「戦犯合祀」 靖国公式参拝中国反発の理由 自民内にも疑問の声
ハト派イメージへ 安倍外相慎重戦略 首相と一線画す
[社説] 「戦犯」合祀は再考できないか
[ミニ時典] 戦犯
論戦のポイント
靖国の戦没者合祀業務 「国費負担は違憲」 野田氏追及
戦犯「靖国」合祀疑問 外相答弁
胡耀邦氏に日中関係所見 首相が支持表明
[気流] A級戦犯合祀 祀られるのは戦場での死者
[気流] A級戦犯合祀 「東京裁判」見直しては
[気流] A級戦犯合祀 犠牲者と責任者一緒にするのは
[気流] 国民民主党に恥じぬ自民たれ
[ミニ時典] 内閣法制局
[ニュース・スポット] 「靖国参拝は苦痛」と訴え
[街角アート] 時代を遠望する 靖国神社外苑大村益次郎像
[ニュース・スポット] 桜内氏、北京入り
[ニュース・スポット] 靖国訴訟控訴審も棄却
「戦争の傷、あと40年忘れず」 胡総書記、反日感情語る 山崎豊子さんと会見
「外交・行革」高い評価 中曽根政権3年「防衛・教育」賛否2分 本社世論調査
[本社全国世論調査] 満3年の中曽根政権 後半も続く高支持率=見開き
[政界メモ] 「求人人材」思いは同じ▽平行線、笑いで混線
外交、来年はアジアを重視 外務省首脳
「靖国」は敏感な問題 日中関係で中国大使講演
安倍留任に好意 中国/第2次中曽根再改造内閣
A級戦犯合祀取りやめ 自民、靖国に要請 別の社建立、分離 中国の反発に配慮
靖国 正月参拝見送り 首相「諸般の情勢を考慮」 首相の訪加日程を正式発表
[ニュース・スポット] 「A級戦犯合祀」関与せず
[Front5] 対話する宗教学者=1 柳川啓一さん (連載)
靖国神社への戦犯合祀 「中国へ配慮欠いた」 政府首脳
アジア政策洗い直しへ 経済協力中心に 外相方針 27日、政・財界首脳と懇談
靖国問題は一段落 胡総書記が初の公式見解
訪日で不行跡、次官クラス解任 中国の革命文学者 靖国に参拝 女性と交遊
日本で“不行跡”周氏、党も除名

日本入国ビザ発給 韓国で7月に最多 「教科書」影響せず？
靖国参拝で悪影響、日本は早急対応を 中国の武駐日大使が表明
[分析・小泉流] 第2部(6) 外交手腕に危うさ 政権のアキレスけんに(連載)
[気流] 「靖国」とは別に平和願う施設を 会社役員・下田長四郎76
教科書問題など、台湾・陳総統が言及 「わい曲許されない」
[青春気流] 韓国の友達と交流を続ける 高校三年・古川舞18(大阪府和泉市)
東南ア歴訪の山崎外交、一定の成果 靖国参拝で寛容な反応 改革断行の姿勢示す
[気流] 新聞読み、社会が少しずつわかる 小学生・鄭敬樹11(東京都足立区)
[気流] 今回の靖国問題、歴史学ふ機会に 会社員・神保明生54
ユニバーシアード北京大会 中国の江主席“個人”の晴れ舞台
横田局長が大使転出へ 後任に田中均氏 経済局長は北島信一氏/外務省
[カープミラー2001] 政党のキャラクター頼み 武田徹(寄稿)
[分析・小泉流] 第2部(8) 靖国「熟慮」の決断(連載)
[メディア時評] 歴史問題報道に望む、多様な社会映す視点 添谷芳秀(寄稿)
[よむサラダ] ノンフィクションと小説 吉岡忍(寄稿)
金鍾泌・韓国元首相、歴史認識を懸念 小泉首相の靖国参拝など
[分析・小泉流] 第2部(9) 論理より「勢い」 「議論できない」の声(連載)
[ひろば] 日韓のかけはしになりたい=YJP
[分析・小泉流] 第2部(10) 改革、実行の時(連載)
[政界ウォッチング] 「靖国」の優先順位 政治部次長・小田尚
小泉首相・青木氏・森前首相 “三角形”で意思疎通 「改革」両刃の剣？
[サイバー・トーク] 南永鎬氏 日韓のビジネス交流支援
小泉首相の中韓訪問「時機が熟せば」 福田官房長官が会見
日中改善に前向き姿勢 唐家セン中国外相が日中新世紀会訪中と会談
「小泉首相の靖国参拝は違憲」 全国で一斉提訴へ 11月・福岡の仏教徒ら
「神道と祭りの伝統」茂木貞純著
坂口厚芳相、あす訪韓 林日中友好議連会長は来月12日訪中
靖国神社への国費支出、戦後3万円 政府が答弁書
小泉首相の13日靖国参拝、「公約違反」批判続々/自民全国幹事会議
[論壇2001] 8月 歴史問題で揺らぐ日本外交 冷戦後10年の無為(連載)
臨時国会の早期召集を要求/野党4党
沖縄総合事務局HPを改ざん 首相靖国参拝批判
[論点] 歴史認識の「合意」目指そう 天児慧(寄稿)
歌舞伎町ビル火災 爆発、逃げ道ふさぐ煙 飛び降りた3人除き死亡
歌舞伎町ビル火災 週末「不夜城」に悲鳴 大量のスス吸い込む
[気流] 8月のデスクメモ
高祖派公選法違反事件 野中・元自民党幹事長、苦しい立場に
[あなたと読売新聞] 8月の読者相談 賛否割れた前倒し参拝ほか
[日曜の広場] われる 運命狂わす戦争 主婦・川村あき子80(東京都練馬区)
小泉首相、東南ア歴訪時にアジア外交で政策演説 中韓との対話へ環境整備
[政界ウォッチング] 貫けるか小泉改革 政治部次長・尾崎和典
小泉首相、自民・加藤氏と会談 国立慰霊施設整備で前向き姿勢改めて示す
第49回全日本剣道選手権大会(社告)
日韓の経済協力は「教科書」と一線/韓国産業資源相
株安、雇用を14日に審査 閉会中の衆院予算委
靖国神社は本当に神社か? 15日に福岡で講演会
[論点] 外交の立て直しを急げ 五十嵐武士(寄稿)
田中外相と金大統領との会談、韓国が拒否
[FROM北京] 歴史認識への怒り サッカー応援で発散
ODA「削減しないで」 アロヨ比大統領が訪日前に会見
小泉首相、東南アジア歴訪の演説概要固まる 未来志向の関係前面に 16日から
経済低迷、早急な対応必要 日米外相会談で一致
[政界ウォッチング] プレール政治 未来の光、迎え入れよ 編集委員・橋本五郎
小泉首相とOBら特殊法人改革などで激論
外務省新体制発足から1か月 田中外相VS「官」 遠い融和 感情的もつれ懸念
国家神道とは何だったのかー「靖国」から考える 思想統制の道具(解説)
よみうり時事川柳賞 2001年8月中の秀句10句 手嶋吾郎選評
伝説の発禁曲「イムジン河」 「ばんじろーず」あす歌う 大阪でコンサート
[気流] 心の財産残せた韓国での1か月 大学職員・池ヶ谷浩二郎35
[神道はいま] (1) 本庁職員、一般に門戸 女性神職、全体の1割(連載)
日中戦争の発火点「柳条湖事件」から70周年 中国、きょう記念大会開催
米同時テロと追悼ミサ 宗教超え、万人悲しむ 中西進(寄稿)
2002年W杯特集=8 臨場感伝えたい スポーツキャスター・川原みなみさん
[from USA] ネットで深まる日米の絆 中江剛介(寄稿)
[論壇2001] 9月 地殻変動期の座標軸問う(連載)
[潮音風声] 広告以上の広告 鳥森路子(寄稿)
小泉首相所信表明 対米テロ、国民に協力訴え 7対策、早急に
小泉首相、来月訪中で調整 7日前後
小泉首相の訪中調整 「対米支援」理解狙う? 関係改善へ「靖国」はなお隔たり

「A級戦犯、援護法改正で復権」 靖国に合祀の責務 松平宮司明かす

中国も皇室招待打診 “戦後”にけじめ 政府前向き

桜 開花やや遅め 東京1日ごろ 1、2月の低温響く

「靖国公式参拝慎重に対処」 首相答弁

北京で考える 「自由と乱れ」の苦悩 上に政策あるなら下に対策/丹藤佳紀

〔百葉箱〕開花まで3日、靖国のサクラ

こっそり春を教えます/東京 サクラ開花

春らんまん 花もダンゴも 首都圏、桜の名所めぐり 新宿御苑65種類=見開き

中国外相、11日来日

中国、「靖国」の善処を要請 日中外相協議 日本の輸入拡大も

靖国神社春季大祭 首相、参拝せず

首相の対中姿勢 中国首脳が評価 呉外相が伝言

一夜明け“宴の跡”1万世帯分 上野公園、ゴミ清掃に約10時間

戦争犠牲者施設 首相が新設考慮 「無宗教で」金丸氏明かす

中国外相 靖国参拝けん制 「首相、閣僚は見送りを」

靖国春季大祭には参拝せず 首相表明

“互譲ムード”日中民間人会議 不協和音解消へ さらに率直な意見交換を

〔ニュース・スポット〕国会議員が靖国例大祭参拝

きょう憲法記念日

党首討論は“リーグ戦方式” 首相が逆提案 社党提唱に条件▽形式・日程が難題

A S E A N拡大外相会議開幕 経済自立へ援助強化 安倍外相が表明/マニラ

靖国神社 戦争資料館40年ぶり復活 艦上爆撃機「彗星」も

大勝・自民に思わぬ重荷 強まる積極財政論 「靖国」で党内突き上げも

靖国公式参拝に慎重 首相記者会見の要旨

〔公約の試練〕=下 「304」の重圧 族議員声高、試練の財政再建(連載)

靖国が招待せぬ形で 首相の例大祭参拝見送り 自民方針

靖国、来月参拝見送りへ

首相の靖国公式参拝要求を決議 日本遺族会

首相の靖国参拝見送り 官房長官も言明

首相の靖国公式参拝見送り 「外交上の配慮」強調 官房長官談話で表明へ

公式参拝継続求め自民若手議員の会

靖国参拝で閣僚に自粛要請

靖国公式参拝を罪悪視 大変な間違い 藤尾文相語る

靖国、教科書で胡総書記がクギ 二階堂氏と会見

〔広告〕8月15日は、公式参拝を/英霊にこたえる会

〔ニュース・スポット〕「首相靖国参拝」申し入れ

〔神道はいま〕(4) 国家管理下 負の歴史 神社界、批判に複雑な思い(連載)

国会論戦の詳報 1日の衆院代表質問から 民主・鳩山由紀夫氏ら4氏

「小泉節」復活? 棒読み一転… アドリブ交え熱弁振るう/衆院本会議

国会論戦の詳報 2日の衆参両院代表質問から 自由・東祥三氏ら6氏

民のまつりと国家祭祀近代の神社 祈り・統治の二重構造 山野善郎(寄稿)

A P E C前後に日中・日韓首脳会談開催へ

小泉首相が8日訪中、15日訪韓

「外交機密は守らねば…」 田中外相漏えい発言で小泉首相/衆院予算委

国会論戦の詳報 4日の衆院予算委から 民主党・菅直人氏ら8氏

小泉首相の中・韓訪問決定 対米同時テロで自衛隊派遣の説明必要

〔W杯サタデー・スペシャル〕KOWOC広報官に聞く 警備も万全に

小泉首相あす訪中 日中関係の改善図る テロ特措法案への理解も

小泉首相「不戦の決意」表明 関係改善で一致/日中首脳会談

小泉首相訪中、テロ対策重要テーマに 対タリバン「米攻撃支持」で成果(解説)

〔社説〕日本の役割 テロ対策法案の成立を急げ

「首相靖国参拝で軍国主義復活」と江沢氏氏が懸念 小泉首相が答弁/参院予算委

国会論戦の詳報 9日の参院予算委から 民主・平田健二氏ら7氏

小泉首相の訪中、「関係改善」を強調 「靖国」の火種は残す

〔社説〕日中首脳会談 中国に求めたい「緊張」の克服

小泉首相訪韓 サンマ問題、最大懸念に

日韓首脳会談の要旨

日韓首脳会談 靖国、教科書“決定打”なし 自衛隊派遣「理解」は画期的

〔社説〕日韓首脳会談 「普通の国」の関係でありたい

上海A P E C、あすから イスラム諸国の動向焦点 「対テロ」大包围網

金大統領、日韓関係修復めざす 小泉首相の訪韓を評価 マスコミは批判的論調

検証・テロ特措法案修正 党首会談決裂の舞台裏 公明、民主のはざまに首相沈黙

追加景気対策へ与党、圧力強める 補正予算案は「二次補正」前提に了承

小泉内閣半年 “戦時”強運首相 改革、手詰まりなのに…支持率は高止まり

〔編集手帳〕若者活字離れ久しく、42回目の古本まつり

〔なるほど解説〕中国 増殖続けるハッカー サイバー戦の“ネット民兵”

21世紀 日本人の意識 外交・安全保障/読売新聞社全国世論調査

21世紀 日本人の意識 外交・安全保障「対テロ」広範な国民合意 田中明彦氏

〔論点〕台湾人「さまよえる2か月」 黄智慧(寄稿)

「首相の靖国参拝 違憲」提訴 関西、四国、韓国など7000人が差し止め求める

「小泉首相の靖国参拝は違憲」 関西や四国の戦没者遺族ら7000人提訴

靖国参拝の違憲提訴 「おかしい」という首相がおかしい/鳩山民主党代表

「首相の靖国参拝違憲」と211人提訴 福岡地裁

日中韓関係の強化、外相会議を提案へ 小泉首相方針

日中韓首脳会談 中国・朱首相が対日修復を強調 経済協調構築急ぐ

同時テロ・インタビュー 田中外相、アフガン周辺歴訪を 元外相・柿沢弘治氏

〔気流〕首相は批判にも謙虚に耳傾けて 無職・福富和巳72(東京都江戸川区)

〔田中外相を問う〕(4) 国益の損失 発信のチャンスを自らつぶす(連載)

〔気流〕A級戦犯合祀だけはやめて 自営・井上啓吉79(京都市)

「靖国参拝当然」申し入れ/自民党議連

〔英語ホントの使い方〕(83)「空気」の正体はtide(寄稿連載)

「加藤の乱」から1年 自民党内の視線冷ややかに

検証・日中首脳会談 同時テロで中国が軟化 関係の修復を米政府も要請

教科書・靖国で冷え冷え… 日韓交流、再開の兆し サッカーW杯への思い熱く

日米共同世論調査 安保50年、結束強化/読売新聞社・ギャラップ社

10大ニュース応募の手引 日本の出来事 衝撃、不安、そして喜び

戦没者追悼施設整備は慎重に/超党派有志の会

〔裁く〕第5部・終審の番人(5) 判決と少数意見(連載)

サッカーW杯のサポート共闘 ふれあい韓日共同応援団、今夜発足

取り込み詐欺会社? 社長はホームレスで今年3月死亡 被害2億円、社員姿消す

小泉首相の靖国参拝「違憲」と提訴 関東や韓国在住の遺族ら244人

「小泉首相の靖国参拝は私的」/福田官房長官

戦没者追悼施設検討 懇談会座長に今井氏起用へ

「戦没者追悼施設」検討 懇談会、年内に初会合

「日中友好21世紀委員会」終わる 大学教授、文化人が意見交換/広島

〔韓国俳句紀行〕(9) 道で 黛まどか(寄稿連載)

政府の平和祈念懇談会が初会合 座長に今井経団連会長

2001年読者が選んだ日本10大ニュース 激動“元年”「愛」で幕=特集

〔カープミラー2001〕ひどい年 日本外交正念場これから 村田晃剛(

〔政界投光機〕「花竜会」が慕う政局巧者 政治部次長・村岡彰敏

「憲法」改正派、過半数が定着 「自衛隊」最大の関心/読売新聞社全国世論調査

〔時の菜〕9勝6敗を狙う生き方 坪内祐三(寄稿)

日中戦争を描く中国映画「鬼が来た!」 農民・日本兵、奇妙な交流

アジアフォーラム 日中に新たな指針 朱首相、「小泉演説」を絶賛

小泉首相参拝訴訟 靖国神社を法廷支援 弁護士ら補助参加申請へ/大阪

首相の靖国参拝見送り 官房長官「政府意向」伝える

[U S O放送] 靖国公式参拝見送り

8閣僚が参拝を表明 靖国「公的資格で」は2氏

近隣国との関係優先 靖国公式参拝見送り 首相表明

首相の靖国参拝あす再協議

[ニュース・スポット] 弘前に軍艦「津軽」の碑

靖国参拝、閣僚は自主判断で 官房長官

靖国参拝見送り 文相、首相を批判 「外交の拙劣さ意味する」

参拝見送りを3協議会に伝える 首相

遺族会の政治組織 自民党引きあげも 首相が靖国参拝せねば

終戦記念日 12閣僚靖国参拝へ 外相、外交配慮で見送り

[社説] 傷跡をうずかせる「戦犯」合祀

靖国参拝は16閣僚 きょう41回目終戦記念日

靖国公式参拝 官房長官の談話 平和友好への不信生むおそれ

参院議長、私人で参拝

戦没者追悼式に理事ら欠席へ 日本遺族会

平和への誓い新たに 41回目の終戦記念日 全国戦没者追悼式 16閣僚靖国へ

4閣僚「公式」に 首相は見送る

[よみうり寸評]

「靖国」揺れる41回目 靖国A級戦犯合祀問題 首相「改善を検討」

靖国公式参拝見送りに疑念 橋本運輸相

参拝自粛、暗に要請 閣議で後藤田官房長官

国会議員110人も参拝

靖国参拝への閣僚の対応

市民団体なども集会や催し 終戦記念日

今もうづく体で… 戦没者追悼式 国費初招待の被爆者 葛飾の藤原さん

参拝閣僚、口数少なく

分記など再浮上か A級戦犯靖国合祀 中曽根首相「来年」へ打開図る

「東京裁判認めぬ」 藤尾文相が発言

中曽根首相の参拝見送り 遺族会が抗議声明▽自民若手も抗議

日中平和の集い／終戦記念日・東京

[気流] 外交批判の藤尾文相 閣僚なら慎重に

「靖国」のA級戦犯合祀問題 遺族に協力要請 後藤田官房長官意向

藤尾文相、また東京裁判批判

戦犯外せば解決も 「靖国」で中国次官示唆

文相の発言要旨／日韓併合発言

小泉首相の靖国参拝に懸念／唐家セン・中国外相

靖国参拝、8月15日以外に 小泉首相が意向固める

靖国参拝 小泉首相、8月15日回避の意向 古賀氏「原則論言うべきだ」

自民の麻生政調会長ら4氏が会談 靖国参拝などで意見交換

小泉首相の靖国参拝、慎重対応求める／趙世衡・韓国新駐日大使

[迫るW杯] (4)日韓関係 共催を意識「未来志向」(連載)

[小泉首相の一日] 4月21日

小泉首相の靖国参拝 「熟慮の上」山崎・自民幹事長、支持の考え強調

小泉首相靖国参拝 日韓交流、今後も進展 関係者「W杯には支障ない」

[社説] 小泉首相靖国参拝 “中曽根以前”に戻っただけだ

小泉首相電撃参拝、周到に“探り” 遺族会は理解で決断 与党へは当日朝に連絡

小泉首相の靖国参拝 中国「強い不満」

小泉首相の靖国参拝 韓国「深い遺憾」

小泉首相の靖国神社繰り上げ参拝 「中韓の反応、抑え気味」／外務省

小泉首相、靖国繰り上げ参拝 例大祭に合わせ実施 「8月」は見送り

小泉首相の靖国参拝 福田官房長官「中韓に理解してもらおう努力する」

小泉首相の靖国参拝 韓国が寺田大使呼び「遺憾の意」

日韓合作映画「KT」 阪本監督、金大中事件を推理 自衛隊員クローズアップ

首相の靖国参拝 反応様々 「W杯 盛り上がり」に水「真意伝わる、影響ない」

[首相に直言する] (1) 作家・高村薫氏 (連載)

国会議員89人が靖国参拝

小泉首相参拝訴訟 靖国神社への法廷支援 弁護士ら補助参加申し立て／大阪地裁

防衛長官訪中拒否 中国の反応、慎重見極め／政府

中谷防衛長官の訪中延期 中国が通告

[気流] 中国、韓国に配慮した首相 会社役員・武元良一68 (大阪府寝屋川市)

[首相に直言する] (3) 京大教授・中西輝政氏 (連載)

靖国参拝で小泉首相を批判／中国共産党幹部

江・中国主席「許せない」 首相靖国参拝、強く批判 公明代表と会談

「全部靖国だった」 訪中会談終え、神崎公明代表

「サッカーW杯共催は過去清算への好機」 開幕へ1か月、金・韓国大統領が会見

「靖国参拝抗議」HP改ざん被害 大分県の外郭団体

首相靖国参拝 江中国主席発言を尾身科技相が批判

首相靖国参拝 対中関係の修復求める／神崎公明代表

戦没者追悼施設は必要 「首相靖国参拝とは別」／平和祈念懇談会

中国軍の護衛艦が初の韓国訪問へ

日本総領事館侵入 中国側の出方探る 政府、対中関係に配慮

[編集手帳] 他国の「主権」に少々配慮が足りないのでは

[編集手帳] 「波静かなれ」の祈り切実

「亡命者連行事件」調査結果 指示の内容が不明確 森本敏・拓大教授

[討論・政治とテレビ] (下) 身近になったその先 (連載)

対中外交専門集団「チャイナスクール」に批判の渦 阿南大使ら親中派、強い結束

[日韓理解への道] 座談会シリーズ (第6回) ソウルにて=2止 (連載)

外務省に喝 「事なかれ主義」、対中外交「あまりに弱腰」／村田・元駐米

[アクセスポイント2002] 社会 ずれていく「靖国」 与那原恵 (寄稿)

小泉首相、香港誌との会見で「靖国」に理解求める

江主席、小泉首相訪朝を全面支持 川口外相と会談 靖国参拝にはクギ／北京

「対中関係」 日中の30年「評価」は6割／読売新聞社全国世論調査

「日韓歴史問題」論議を漫画化 研究会結成へ 同時出版を目指す

戦没者追悼施設「靖国」と両立可能 「国民議論が必要」 平和施設懇談会判明

中国人民日報の著名評論員、自国の「反日」行動批判 新指導部の対日重視支持か

戦没者追悼 無宗教の国立施設必要 平和施設懇が24日にも最終報告

愛知の工場で致死量1000人分の青酸カリ盗難

自民・古賀氏、新たな戦没者追悼施設に反対

「時事川柳」「U S O放送」この1年 2002年こんな年でした=特集

戦没者追悼新施設懇談会の報告要旨

日中国交正常化30年の歩み

「神社ウォッチング」 山下晋司 (寄稿)

日中国交正常化30周年 国会議員100人北京に続々 親中・橋本派バイブ誇示

[30歳の日中関係] (上) 協調と反目なお交錯 本音の関係構築が課題 (連載)

[編集手帳] A級戦犯をヒトラーにたとえることへの疑問

民主代表選の4候補、靖国参拝に異なる見解

日中国交正常化30周年座談会 人・モノ深まる交流 摩擦越え相互理解を=特集

〈解〉靖国神社参拝問題

小泉首相、靖国参拝見送り 「不戦の誓い」でメッセージ 対中関係改善は不透明

[政治を読む] 首相の靖国参拝 批判と謝罪の構図断て

[NEWS抄録] 2002年8月10日(土) - 16日(金)

[再点検・小泉流] (10) 「独自外交」危うさも (連載)

「自ら語る」 小泉首相「スピーチライター」導入断る

[論壇2002] 8月 戦争・歴史観に新たな潮流 世界史的な文脈重視

「侵略正当化」と報道 新華社通信／藤尾発言
藤尾文相 50日間の言行録 役人の言うこと聞かぬ 資産公開くだらん
A級戦犯と一般戦没者 区別が参拝条件 「靖国」首相答弁
「税制」「国鉄」すべて“上っ面” 代表質問儀式で終わった 野党切り込み不足
「日中4原則守り抜く」 21世紀委で首相強調 中国は藤尾発言批判
首相の11月訪中打診 胡総書記 「靖国」など説明期待か
首相訪中は来月15日の意向
スパイ防止法制定 首相重ねて強調 参院予算委
厚生省が靖国合祀通知 官房長官は「解決済み」
「この国の奥深く」鎌田慧著
[政界メモ] 日露戦争、東洋平和のため？
A級戦犯合祀に厚生省関与せず 首相が見解
初の懇話会 苦言が続出／土井日本社会党委員長
八方ふさがり靖国問題 見送り続く首相参拝 難しい「A級戦犯合祀」解決
[気流] 内政干渉発言身勝手やめよ
動かか朝鮮半島情勢 重きます日本の役割 韓国からの報告＝見開き
「靖国、首相公式参拝を」 自民3協議会要望へ 中曽根訪中控え難題
[社説] 日中友好の基礎を固め直そう
[ニュース・スポット] 訪中前の首相に靖国で要望
日中友好拡大で一致 中曽根・胡会談 日本を正しく理解／日中外交
靖国参拝、首相 正月も見送り
さあ故郷へ 民族大移動始まる 新幹線は満席 空も空席待ち
寄稿)
[時事川柳] 「USO放送」この1年 暗かった？新世紀スタートの年＝特集
「USO放送」「時事川柳」この1年 最後は明るく＝特集
日韓歴史共同研究、来月にも始動 時代ごとに学者選任 両政府が支援委設置
小泉首相の「おかしい人」発言 名誉棄損で提訴 靖国違憲訴訟原告ら／大阪地裁
[気流] 2001世相かるた 自営業・三好日出一63 (横浜市)
[政・ことば考] 2001年番外編 現実の壁も… (連載)
小泉首相、対中韓関係修復に本腰
[主張・提言] 小泉政治に注文する 文明の転換点、外交の役割 野田宣雄氏
[論点] 日韓は自由貿易協定を 小此木政夫 (寄稿)
[わたしの道] 金川千尋さん(6) 在任10年を過ぎて 軌道は走らない (連載)
[とれんど] 歴史認識脱し協力へ 論説委員・水野雅之
[地球を読む] 日韓W杯 信頼深め合う好機 孔魯明 (寄稿)
[社説] 日韓交流年 関係成熟へ基盤を築けるか
[安全メルトダウン] 第1部・テロとの攻防(5) 激烈、サイバー戦争 (連載)
田中前外相、嵐を呼んだ9か月 「国民人気」と「省内孤立」くるくる変わる言動
[気流] 外相が代わって実のある改革を 大学教員・小林俊二71
えべっさんも困り顔！？ 大阪市が公費で「初穂料」 お祝い、長年の慣習
首相靖国訴訟 国側争う姿勢 福岡地裁初弁論
小泉首相の靖国参拝「違憲」訴訟 原告団に新たに40人／松山地裁
「日本は平和路線堅持を」 江沢民中国主席が保守党の野田党首と会談
[e-ライブ環境] 土壌改良剤を使い古木再生 根元の酸化防く 鳥取の福楽さん
ブッシュ米大統領の明治神宮参拝 小泉首相「参拝せず同行」 政教分離に配慮
[日曜の広場] 韓国と日本 草の根粘り強く 無職・神田道雄61
[サンデーひろば] 韓国と日本 再び共栄の道歩み始める… 医師・西本武史31
[検証] 小泉・ブッシュ会談 金融対策、前夜の決着
[アクセスポイント2002] 政治 小泉首相、次の一手 橋爪大三郎 (寄稿)

「衝撃・小泉訪朝」(中) 米へ接近“迂回作戦”(連載)
第50回全日本剣道選手権大会 全日本選抜剣道八段優勝大会(社告)
戦没者慰霊新施設の実現、不透明 与党内に拒否反応
日中国交正常化30周年 相互不信打開、草の根交流に期待
日台、国交なき30年 順調な経済交流 台湾は安全保障も視野に
日中国交正常化30周年 祝賀メッセージ、両首相交換
国交正常化30周年 日中関係「前途明るい」／中国・銭副首相
小泉首相の靖国神社参拝「違憲」と提訴 沖繩戦の遺族ら
台風21号各地で暴風雨、1人死亡 首都圏の帰宅ラッシュ直撃
[主要閣僚に聞く] (7) 福田康夫・官房長官 経済対策柔軟かつ大胆に (連載)
新聞週間特集 新聞と共に育つ次世代 端末から瞬時に最新記事入手
[夢見る科学] 実在は関係性の中にある 佐治晴夫 (寄稿)
「奔流の中の国家」櫻田淳著 保守論客の保守批判
朝鮮半島の非核化 日中首脳が一致
江・中国主席の靖国参拝批判 「内政干渉」と反発／自民総務会
中国トロイカ新体制 胡氏と曾氏、競争から協調へ 温氏は「等距離」に腐心
戦災死の民間人も追悼 無宗教の国立施設、建設で一致／平和祈念懇談会
小泉首相、来年の靖国神社参拝を示唆
戦没者追悼の国立施設新設、自民で反発相次ぐ
[主張・提言] 中国新体制 経済・対米重視は不変 呉軍華氏
日韓市民交流フォーラム 「若者が開く日韓新時代」＝特集
台湾で賛助組織 靖国神社が設立促す
「南北首脳会談を定例化」 盧大統領候補が読売新聞に回答 核断念へ粘り強く
国立戦没者追悼施設構想でシンボ 「まつる」を離れた「かたち」とは
日米共同世論調査 低迷する日本経済に厳しい目／読売新聞社・ギャラップ社
[ことば歳時記] ニイタカヤマノボレ
戦没者追悼施設 与野党連携の「反対」に官邸苦境 「靖国を形がい化」批判も
[ジャパンウォッチ] W杯共催に見る日韓関係 憎しみを相互理解に
首相の靖国参拝アンケート削除問題 大阪弁護士会が謝罪
「近世神道と国学」前田勉著 日本と天皇捉えなおす
“国立追悼施設”に反対表明／古賀自民前幹事長
日中外相会談 瀋陽事件、不審船の合意 関係修復への一歩
[よみうり西部俳壇] 神尾久美子選 2002年6月26日
[編集手帳] 日韓共催「地図を逆さにする試み」
日韓W杯夢の後に 対北緊張、スキャンダル… 対処する知恵が問われる (解説)
[日韓W杯・熱狂そして] (5) 声援の輪、日韓の財産 (連載)
[渡辺京二さんと語る] 近代をどう超えるか 歴史学の可能性 (4) (連載)
最高裁合憲判決 大嘗祭の公的性格を重視 政教分離問題、個別に検証 (解説)
靖国参拝訴訟 台湾人元日本兵ら10人が補助参加
[ベストセラー] 新書 高橋源一郎の「一億三千万人のための小説教室」が1位
日中関係にきしみ 信頼深める過程か 魯義・日文研研究員が講演／京都
[地球を読む] 対中ODA見直し 一方的削減は疑問 明石康 (寄稿)＝訂正あり
第25回読売関西フォーラム特集 (上) 構造改革、着実に進展 首相講演＝見開き
太平洋戦争で日本初の戦死者・飯田中佐「資料室」 後継者が不在で閉鎖へ／山口
靖国参拝中止求める要請書 全日本仏教会が首相あて提出
[よむサラダ] そば屋のカレー うまいのか、まずいのか 坪内祐三 (寄稿)
政府の戦没者追悼施設 建設構想に暗雲
[主張・提言] 靖国問題を考える 民俗信仰重視した施設に 井上順孝氏
[主張・提言] 靖国問題を考える 敵味方問わぬ追悼を視野に 河原宏氏
小泉首相の靖国神社参拝「違憲」訴訟 支持遺族らの補助参加を却下／大阪地裁
15日の靖国参拝 明言は1閣僚、8閣僚は見送り
小泉首相の訪中見送り 「靖国」冷却期間置く 国交30年、影響懸念の声
小泉首相、秋の訪中見送りへ 4月の靖国参拝、中国の批判に難色
小泉首相の対中方針、訪問時に伝える／自民・山崎幹事長
小泉首相の靖国参拝、なお日中の火種 15日には行きませんが…
終戦記念日 各党が談話
小泉首相の「靖国」例大祭参拝は違憲と提訴／松山地裁
終戦記念日 小泉内閣の5閣僚が靖国神社参拝
[よみうり時事川柳] ☆凝ってない肩を会社に叩かれる (寄稿)
靖国例大祭参拝の小泉首相を提訴 四国の戦没者遺族や宗教関係者ら
[論点] アフガン平和の人的貢献を 川端清隆 (寄稿)
加藤紘一氏、元代表逮捕で致命傷 かつての首相候補、隠せない内心の動揺
中国が小泉首相の今秋訪中を打診 国交正常化30周年に合わせ
読売国際会議2002年開幕フォーラム 世界が変わる、日本を変える＝特集
東京でサクラ「開花」 早咲きの新記録／気象庁
サッカーW杯共催好機 相互信頼じわり向上／日韓共同世論調査
桜の開花、各地で観測史上最も早かった 地球温暖化との関係が気になる (解説)
日韓首脳「W杯休戦」友好ムード 歴史研究、靖国…課題は積み残し／首脳会談
日中防衛交流 中国の軍艦、5月初来日
日本の立場、北に伝える 韓国大統領が訪朝特使通じ

[ひらまつもりひこの分権文化論] 第34話 新地域主義の提唱 (寄稿連載)
 [よみうり時事川柳] 建前で呼び建前の幕を引き (寄稿)
 小泉首相の靖国参拝違憲訴訟 在韓遺族ら意見陳述/大阪地裁
 日本遺族会会長に古賀前自民幹事長が就任
 [ことば歳時記] 桜開花予想

大使
 [編集手帳] 「国民交流」をかけ声に終わらせないために
 賛成多数に驚き? HPで小泉首相靖国参拝アンケート 大阪弁護士会、削除へ
 首相の靖国参拝「賛成88%」 HPアンケート、こっそり削除/大阪弁護士会
 サッカーW杯開会式 際立つ「韓国色」 経済成長、世界にPR

付録2: 朝日新聞コーディング対象表題一覧

1985~1986年	阪神支局襲撃(航跡 新世紀へ 朝日新聞創刊120周年)【大阪】
動静(21日)	
公人と私人かけ持ち(政界オムニバス)	「政教分離」は歴史の教訓 侵略・弾圧の陰に国家神道
田中六助さん(天声人語)	靖国神社には複雑な思いが(声)【西部】
護憲・反戦の新遺族会を 宗教人ら軸に動き浮上 靖国公式参拝に危機感	首相ことば・8日
改正風営法、13日から施行 ざわめく歌舞伎町、やげぎみのせりふも	石原知事の靖国参拝に反対の要望書 市民団体 /東京
日本人の祖先崇拜(深海流)	中国、閣僚の靖国参拝を懸念 終戦記念日
靖国公式参拝、出そうにない「合憲」見解 懇談会の大半が消極意見	靖国参拝(かたえくぼ)
神社・神道不当に冷遇 近代神道史研究者・葦津珍彦さん(わたしの言い分)	靖国参拝見送り(かたえくぼ)【西部】
花のいのち(お天気衛星)	「政治と靖国」21世紀へ 靖国神社公式参拝の論議、持ち越す
久しぶりの晴れ間、サクラほころぶ 3月の日照時間は史上最低	中国、森田運輸相訪中の取りやめ要請 日程調整が理由
東京のサクラ、やっと開花宣言	日中の関係、変わる構図 中国、対日配慮も 自民若手には「嫌中」
靖国信仰研究に不当な介入 島川雅史(論壇)	中国漏れる不協和音 日中外相会談(時時刻刻)
なぜか人気、大東亜の英雄「ハリマオ」 その虚像と実像	内閣改造劇、しらけムード(時時刻刻)
首相の靖国参拝中止求める 社党特別委	麻生・亀井・小泉氏、積極的な姿勢 首相の靖国参拝 自民総裁選
桜内元外相ら、靖国公式参拝を首相に要請	靖国参拝の動きけん制 自民党総裁に小泉氏選出で中国
中曽根首相、靖国神社参拝へ きょうで9回目	海外メディア、小泉新総裁に好奇の目(天声人語)
動静(22日)	小泉氏、靖国参拝表明・9条改正前向き 連立合意の公明、様子見
自民・新自クの有志が靖国神社に集団参拝	「タカの心臓」変幻自在(小泉ショック:下)
38歳迎える憲法 「不在・軽視」状況が鮮明に 衆院定数は正まざり必要	靖国参拝(かたえくぼ)
憲法きょう38回記念日 護憲・改憲両派平静 1票の格差は正など現実課題	政治に吹く風と報道の危うさ(声・今月の投書から)
憲法記念日に各党が声明・アピール	民主党、小泉内閣の高支持率で苦境 政権戦略見直し必至
憲法記念日 護憲・改憲両派、表面静か 「1%枠」軸に論議	にじむ小泉色 連立・中道から単独・右寄り
81人、孤島で2年余 ブラジル「勝ち組」の獄中記 国会図書館が資料公開	靖国参拝問題の「歯止め役に」 創価学会、公明党に注文
靖国公式参拝実現に自民党幹事長が意欲 全国総決起大会開く	15年目の報告 朝日新聞襲撃事件
東京サミットで公式参拝図る?(記者席)	中国の新華社通信が強い懸念示す 小泉首相の靖国参拝明言
明治の修身教科書改訂、長老らが介入 国会図書館寄贈の「野村文書」	「総理として、個人として」 靖国参拝、小泉首相が明言
時代錯誤のスパイ防止法案(社説)	焦点採録 代表質問・衆院9日
鉄板300枚、歩道に降る トラックの荷崩れ、女子学生2人けが	焦点採録 代表質問 参院・衆院10日
スパイ防止法案浮上の背景 「靖国」方式で外堀埋め(真相・深層)	共産・社民「弱者保護を」 改革は看板倒れと批判 衆院代表質問

逃避癖 諮問機関巧みに使う (国会症候群：3)	外務省冷戦 小泉「改革内閣」、目玉の田中外相はアキレスけん？
ニュー自民党への道 改憲党は再検討を 論説委員・深津真澄 (座標)	首相は熟慮して再考を 靖国参拝 (社説)
自民党、靖国の公式参拝申し入れ	靖国参拝 (かたえくぼ)
靖国の公式参拝で日弁連が意見書	田中外相の答弁焦点 改革論議に注目 きょうから衆院予算委
いまでも続く戦没者遺骨収集 「死霊が宿る」と独特の信仰 (現代社会)	小泉首相「内外の批判に耳貸さず」 靖国公式参拝で新華社が報道
靖国の公式参拝を申し入れ 自民の議員協議会	近隣諸国への配慮は必要 小泉首相の靖国参拝で川島外務次官
同一鋳型だった 大阪・奈良・群馬で出土の柄頭 古代権力探るカギに	靖国参拝「宗教的活動か関係ない」 小泉首相、心情論前面に
憲法無視してなぜ靖国参拝 (声)	焦点採録 予算委員会・衆院15日
首相、「男の度胸」どう使う (政界オムニバス)	靖国に参拝し首相答弁に涙 (声)
首相、戦後総決算を強調 「1%枠」外し、靖国公式参拝も	「小泉改革」膨らむ不安 (首都の風は 2001年都議選：上)
「戦後の懸案に着々と区切り」 中曽根首相講演の要旨	中国、「慎重」求める 小泉首相の靖国参拝
靖国神社公式参拝ヤマ場に 「懇談会」、条件付き容認へ	公明冬柴幹事長、改めて「中止を」 小泉首相の靖国参拝
私的諮問機関 (天声人語)	首相の靖国参拝、行方見守る目 (記者席)
靖国懇、公式参拝問題の結論急ぎ3日も会合	中国、首相の靖国参拝自粛を要請 双方の溝埋まらず 日中外相会談
「1%枠の撤廃に慎重さが必要」 山口労相が見解	ムード先行「歴史」先送り 田中真紀子外相、中韓外相と会談
対外経済摩擦、なお政局の目 首相に難題、米議会の動向	小泉首相の靖国参拝、中国・江沢民主席が懸念
閣僚の靖国神社参拝、公式容認へ着々 「私人」の要件なし崩し	小泉純一郎首相の靖国参拝、慎重な対応を 崔相龍・駐日韓国大使
靖国懇談会、閣僚の公式参拝認める素案を提出 憲法学者らが疑義	韓国政府当局者が慎重さ求める 小泉首相の靖国参拝
東京都(7)日比谷公会堂通い (新人国記85：1031)	日本重視不変、首相靖国参拝は懸念 銭中国副首相、保守党幹事長に
夏休み奨励も本音は撤廃？ (記者席)	「靖国」やめて敵味方慰霊を (声)
靖国懇談会の公式参拝についての素案概要	政策、「民」から拝借 (追跡・小泉改革 人脈と思想)
「英霊にこたえる会」が公式参拝求め決議	首相靖国参拝「形態によって判断」 公明代表、容認も視野に？
民族的霊場として靖国神社復活を 中曽根首相、拓大総長時に講演	近隣国に影響、田中外相懸念示す 小泉首相の靖国参拝
笑はないで下さい (もう一つの戦後 40年を経た夏に：1)	政府「公事は慎重に判断」 小泉首相明言の靖国参拝
いままなぜ公式参拝 靖国懇素案、関係者・識者に聞く	領土交渉、新たな難題 サンマ漁問題で武部農水相、韓口を批判
社党、1%枠などで15日に抗議行動	慰霊の在り方すれ違い 千鳥ヶ淵の整備と靖国神社の参拝 党首討論
首相の高揚、身内は心配 防衛費・靖国参拝の同時処理回避の声も	小泉首相の「靖国参拝」に中国・江主席が反発 韓国首相との会談で
連立与党の意義 (今日の問題)	靖国と平和の礎 首相訪問に思い複雑 (沖縄 …慰霊の日に：上)
不気味さ漂う靖国への固執 (声)	編集部から
高い支持率 (ハッピー・ニッポン第1部 戦後40年の今：20)	「基地」「靖国」変わらない 沖縄慰霊の日、小泉首相に思い複雑
米議会の防衛監視立法に野党各党反発 社・民・共「内政干渉」と談話	首相ことば
靖国懇の2次素案、公式参拝違憲も付記 大勢は容認方向	「慰霊の形」議論再燃 感情論で押す首相 (!靖国神社参拝：)
竹入氏、首相の防衛費枠と靖国参拝「王道」発言に強く反発	小泉首相、戦没者慰霊の国立墓地を検討 靖国参拝の意思は変えず
週間報告 (7月27日～8月2日)	中国大使が靖国参拝懸念 小泉首相に離任あいさつ
「靖国」発言に寛容すぎぬか (声)	参院選「小泉」には大橋「巨泉」氏で対抗 民主から出馬
「公式参拝」には無理がある (社説)	戦中派の野坂昭如さん・村上兵衛さんに聞く (!靖国神社参拝：下)

東京都（10）日本経済の中心地（新人国記85：1034）
防衛費の1%枠撤廃、十分な手順踏む 中曽根首相表明
社会党、靖国公式参拝の反対運動を強化
三木・福田・鈴木 の3長老、1%枠撤廃に慎重 首相にプレーキかける
広島での中曽根首相発言（要旨）
社党、「靖国」「1%枠」問題で内閣へ対決姿勢を強化
靖国神社参拝問題、アジア諸国はどうとらえるか
靖国公式参拝やはり違憲 追悼は国民の内的行為 柴原覚（論壇）
靖国への盲信、若い命を奪う（声）
“憲法に触れぬ靖国公式参拝”の方法、政府判断で 懇談会あす報告書
総決算に大わらわ（政界オムニバス）
違憲の疑いの靖国公式参拝、どんな形式で突破？ 宗教色薄める方向
社党、公式参拝反対を申し入れ 靖国神社問題
靖国問題・1%枠問題で社公共闘を強化 公明書記長表明
靖国英霊論は差別 戦没兵士と銃後の死者区別ない 平野光男（論壇）
靖国懇が午後に報告書を提出
靖国懇きょう報告 自民は公式参拝を当然視 一部議員に抵抗感
具体的対応は政府の責任で 靖国懇の林座長らが会見
「真宗にとって『靖国』問題とは」（天声人語）
「公式参拝」と「1%枠」、民主主義の根幹の問題 性急な首相に不安
「公式参拝適切に」 靖国懇が実現促す報告書 違憲の主張は付記
首相、靖国神社を15日に公式参拝 政府、自民に伝達
なし崩しの“解釈改憲” 公式参拝容認の靖国懇報告書《解説》
靖国懇報告で政府、参拝形式詰め急ぐ 調整の焦点は玉ぐし料
「閣僚の靖国神社参拝問題に関する懇談会」報告書の要旨
参拝、やはり増えそう 首相・閣僚に靖国神社参拝アンケート
軍事大国化へ暴走 靖国懇報告書に各野党が抗議談話
危機感深め野党反発 靖国公式参拝の報告書
問題はらむ中業の政府計画化（社説）
「昇殿など三原則守って」 靖国懇の報告書提出で靖国神社
「いつか来た道」を警戒 靖国懇報告書、宗派超え宗教団体が抗議
疑問だらけの靖国懇報告 「判例を都合よく解釈」学者ら指摘
平和・自由・富と文化 恥忘れた戦後日本 論説主幹・松山幸雄（座標）
靖国公式参拝、具体化で政府なお苦慮 形式や公費支出問題
首相の「総決算」と対決強調 統一労組連の年次総会
週間報告（8月3日～9日）

「気分」が「空気」へ、の不安 ええじゃないか（社説）
真宗とキリスト教は強く反対 小泉首相の靖国神社参拝表明
靖国参拝 総理、まずアジアで慰霊を 大沼保昭（私の視点）
京都議定書、ボン会合後も米と協議 小泉首相、主要部は「維持
フランス訪問中の小泉首相懇談＜要旨＞
政治の役割が変わる（選択の深層 2001参院選：下）
総理、憲法を読んで下さい 靖国参拝（社説）
靖国参拝「断念を」 五つの親善団体の理事長ら（永田町霞が関）
靖国問題 A級戦犯分祀で歴史の刺抜け 朱建栄（私の視点）
離島の空港の軍利用に反対（声）
「靖国参拝懸念、小泉首相に説明を」 中国大使、田中外相に要請
ナショナリズム見え隠れ（日本の予感 「改革」の光と影：2）
与党3幹事長、中国外相と会談 首相靖国参拝など厳しい反応必至
指針欠くアジア外交 反応、予想外 歴史教科書問題（時時刻刻）
靖国参拝巡り意見書（永田町霞が関）
小泉改革、民主支持層「賛成」6割 朝日新聞社世論
江沢民中国主席、小泉首相の靖国参拝けん制 与党3幹事長と会談
公明・神崎武法代表（2001参院選 党首に聞く）
靖国参拝の意思 歳出減、防衛費除外せず 党首討論で小泉首相表明
焦点採録 党首討論 日本記者クラブ・11日
岡本氏・国分氏（！変われ日本外交 小泉首相サミットへ：上）
暮らし、だれに託す 国の行方選ぶ一票 参院選公示
「国のかたち」わき役 争点は経済一色に 参院
隣国への配慮、日本はどこへ
編集部から
歴史教科書問題など社民党・共産党が批判
「A級戦犯とは心の中で区別」 靖国問題で尾身幸次大臣
仏教は「英霊」をどう見る？ 小泉首相靖国参拝で一部には賛成論
親米一筋、小泉外交 アジアとの関係は悪化
靖国・教科書 賛否混在で乱れ（2001参院選 争点を探る）
「村山談話」の死文化恐れる（声）
靖国参拝、「熟慮断行」の意向 参院選後の解散否定 小泉首相
靖国参拝、首相の翻意を要請 韓国大使が与党3幹事長と会談
サヨナラ、「寅さんの世界」よ（ポリティカにっぽん）
韓日関係 W杯成功へ「歴史」解決を 鄭夢準（私の視点）
田中外相に靖国参拝の再考を要求 中国外相「友好の基盤崩れる」

終戦記念日（ジス・ウィーク）

父たちの魂は靖国に帰らず（声）

「公式参拝」を強行するな（社説）

公明、官房長官に靖国公式参拝反対の申し入れ

靖国問題できょうも三者協議 参拝形式など最終的な詰め

金丸幹事長、「脱出」先のハワイからさざ波 電話しきり、情報を収集

靖国・防衛費問題で外務省アジアの反応注視 非難誘発を懸念

私たちの靖国 首相とは違う（声）

カトリック団体が首相に靖国公式参拝反対要請書

靖国公式参拝問題、形式などなお調整

山口労相、私人の資格で靖国単独参拝

公費で花輪代払う 靖国公式参拝で政府方針

靖国・防衛費で知識人らが反対の声明

靖国公式参拝、きょう形式を含め正式発表 昇殿し神式儀式省く

靖国問題の政府統一見解を変更 首相きょう公式参拝

賛否の中、首相ら靖国神社へ公式参拝 野党は抗議 終戦記念日

靖国公式参拝についての官房長官談話の要旨

坂田衆院議長、靖国参拝見合わせ 参院議長は「私人」で

靖国公式参拝、「公費」を既成事実化 推進派の思惑通り（解説）

野党・新自ク、「靖国」「1%枠」批判 終戦記念日に声明

「新しい戦前始まった」と靖国公式参拝で社党委員長

靖国公式参拝、自民内に両論 形式が中途半端、違憲の疑い残る

外務省、靖国公式参拝で政府の考え方を各国に説明へ

靖国公式参拝の中止求めて首相に電報 靖国違憲訴訟連絡会

創価学会も靖国公式参拝に反対表明

モスクワ放送も靖国公式参拝を非難

キリスト教団体も靖国公式参拝反対の声明

学者36人が靖国神社公式参拝に反対の見解 政府に提出

靖国公式参拝、アジア人民傷つける 中国が批判

戦後の靖国問題の歩み（年表）

政教分離の歯止めの問題 靖国懇委員・芦部信喜氏に聞く

靖国公式参拝、「違憲の疑い」一転ホゴ 中曽根内閣

各国それぞれの「哀悼」 戦没者・戦災死者の慰霊

靖国公式参拝の中止強く望む（声）

過去を直視し未来へ生かそう（社説）

「靖国公式参拝」に恐れ・無関心 科学万博会場で聞く

「賢明な判断を」 小泉首相の靖国参拝問題で韓昇洙韓国外相が期待

小骨刺さる日韓サンマ漁 教科書問題絡み複雑化（時時刻刻）

日中外相会談の主なやりとり

靖国参拝「総理として当然」 小泉首相

靖国参拝「やめなさいと言った」 唐外相が明かす 日中外相会談

靖国参拝問題、韓国外相も中止要請 田中外相、教科書修正を拒否

田中外相、発言抑制にじむ期待 中韓との外相会談（時時刻刻）

「靖国参拝やめなさい」 中国の唐家セン外相発言に外務省は否定

日韓外相会談の要旨

自民の勢い、選挙後の展開は 迫る参院選投票、編集委員3人が分析

「なぜ批判、わからぬ」 小泉首相、靖国参拝を明言

小泉首相の靖国参拝、田中外相が反対 「戦没者追悼式で十分」

中国・唐外相、田中外相の靖国発言に強い関心示す

靖国参拝「見識疑う」 民主党の菅幹事長、小泉首相批判

小泉首相の靖国参拝巡る田中外相発言要旨

日韓ビジネス、さざ波 歴史教科書・靖国参拝問題（アジア報告）

映画監督のB・タベルニエ氏が語る 歴史教科書問題（天声人語）

靖国参拝へ改めて意向 田中外相「反対」で小泉首相

やはり、やめるべきだ 靖国参拝（社説）

重い約束、田中外相に正念場 「参拝中止を首相に進言」 靖国問題

外交感覚をマヒさせるな 靖国問題 本田優

首相の心情は理解出来るが（声）

風向き、最後は？ 小泉旋風の中の参院選挙戦17日間（時時刻刻）

参院選 舌戦17日間（発言録）

改革・靖国、行方を注視 参院選、小泉自民大勝で世界の視線

中韓の反発を小泉首相に伝える 靖国参拝問題で田中外相

「小泉改革」正念場 自民、首相主導強まる 参院選

来月中に「改革工程表」 靖国参拝「熟慮して判断」 小泉首相会見

小泉首相の靖国神社参拝回避に向け全力 中国

田中外相、憲法絡めけん制 小泉首相の靖国神社参拝

福田長官、憲法問題指摘の外相に反論 靖国参拝

参院選、自民大勝でも反応クール（時時刻刻）

新しい参院の行方は…？ 当選者と非改選議員に聞きました

日本に「切り札」なし サンマ漁、日韓協議決裂 深刻な政治問題に

中国で野中広務氏「十分考えて」 小泉首相の靖国参拝

田中外相説得、小泉首相の出番 外務省次官更迭を指示（時時刻刻）

靖国公式参拝で各種団体、「防衛」含め抗議集会
「公式」の集団、足音高く 8月15日・靖国神社ドキュメント
今日、終戦記念日 子や孫の参戦に過半数が反対 戦友会にアンケート
靖国公式参拝、閣僚全員が参加 海外出張中の2人除き
靖国神社(天声人語)
私人の立場で靖国神社に参拝 木村参院議長
19日に政府の見解をただす 靖国公式参拝で両院議運委
動静(15日)
平和の決意新たに、各国へ靖国公式参拝の説明尽くす 官房長官語る
「靖国公式参拝は憲法に違反せぬ」 首相
靖国公式参拝、閣僚たちは私人集団で 私人表明組も一転
野党、憲法論争の構え 首相らの靖国公式参拝を一斉に批判
首相の党・内閣人事先送り意向、政局主導権に狙い 各派と駆け引きへ
知事の護国神社参拝、5県が「例年並み」に
靖国神社公式参拝、各国の反応は？ 内外に広がる警戒・懸念
公式参拝を繰り返すな(社説)
首相公式参拝の「供花料」返還を 東京の飲食店経営者が提訴
首相の靖国神社公式参拝に「今後」を危ぶむ声も
首相の靖国神社公式参拝、表情変えず黙とう一礼 参道は厳しい警備
同じ海軍出身でも…(政界オムニバス)
靖国公式参拝を批判の論評 新華社
公式参拝の模様、論評抜きで報道 中国の主要紙
怒り禁じ得ぬ靖国公式参拝(声)
問題性広げた靖国公式参拝 根拠“お手盛り”靖国懇報告
首相・金丸氏にすきま風 強気の人事先送り 金丸氏「当分動かん」
週間報告(8月10日～16日)
「靖国公式参拝は違憲」と各野党反発 両院議運に官房長官が説明
宮沢氏、決断の時？ 1%枠問題、首相と同調か独白か
1%枠攻防が次の焦点 防衛計画作り本格化 「臨時国会前」狙う首相
新華社、靖国公式参拝の批判続ける
政府、あす再び国防会議 防衛計画や1%枠問題で自民との調整も再開
政治の平衡感覚を取り戻せ(社説)
「加害」反省の戦争博物館を(深海流)
靖国懇報告を根拠に公式参拝 野党追及で政府答弁
目立つ中曽根流「慎重審議」 行革・靖国…方向づけ事前に仕組む？
占領終結 五百旗頭真・神戸大教授=41(戦後あのことと今と：9)

戦後、謙虚な哀悼を考えぬく義務 首相の靖国参拝問題 加藤典洋
市場開放なんて怖くない 阮蔚(朝日新聞アジアネットワーク)
変わる国家像 幸せ見えぬ競争の先(「小泉信任」…後：下)
公私を問わず小泉首相の靖国参拝反対 公明・遠藤総務副大臣
「戦犯の分祀困難」 自民・野中氏、中国側に語る 靖国参拝問題
小泉首相の靖国参拝、意向に「共感覚える」 尾身北方対策担当相
靖国参拝中止、文書で求める 共産党・志位委員長
参院選で公明、「大勝利」と総括 靖国参拝翻意に力点、発言力強化
靖国への参拝、やはり私人で(声)=訂正あり
野中氏にも懸念伝える 靖国参拝問題で中国の唐家セン外相
小泉首相参拝、「心」前面に(2001夏 靖国)=訂正あり
元首相に脅迫状(15年目の報告 朝日新聞襲撃事件)
内閣支持69%に下降 改革に「不安」52% 朝日新聞社世論調査
靖国 2001年夏 「気持ち」が国を傾ける(社説)
「近く小泉首相が判断を出す」 靖国参拝で自民・山崎氏
小泉首相の靖国参拝中止、今後求めず 田中外相
看板に傷、政権すき間風 一時は外相の罷免も検討 外務省人事決着
小泉首相の改革、与党支持層に距離感 朝日新聞社世論調査
罪償った戦犯、憎しみはない(声)
メディア 石澤靖治(私の視点 ウイークエンド)
中国、参拝阻止へ懸命 野中広務氏を厚遇(2001夏 靖国)
「国立墓地」進め構想 首相の靖国参拝問題の背景Q&A
靖国参拝への冷ややかな視線 高成田享(風 ワシントンから)
中国への反発、反省はどこへ(声)
野中氏訪中で信頼構築、道半ば 靖国問題、論争避ける
「ノーモア」の訴えに海外は 原水爆禁止世界大会参加者の声 広島
亡父の測量班、靖国合祀せず(声)
靖国参拝、中国「15日以外に」 非公式に要請、首相声明も促す
結果に違い、戸惑う小泉首相 靖国参拝の是非問う世論調査
小泉首相、冷めたアジア観 見えない歴史認識(2001夏 靖国)
戦没朝鮮人を慰霊する15日(声)
遠くから手を合わせる靖国(ポリチカにつぼん)
市民団体30人、官邸前で抗議 小泉首相の靖国参拝問題
4野党有志が反対の会企画 小泉首相の靖国参拝
靖国参拝、公的と誤解されぬよう…… 政務官へ発言の「心得」
九州自民、小泉首相の靖国参拝を支持

英霊鎮魂の場、靖国を大切に（声）

反撃の足場求めて（崩れる1%枠 防衛力増強の周辺：7）

「私的諮問機関を政治的に利用」 衆院委で野党追及

「靖国」苦しい答弁 懇談会頼りなど突かれ

靖国公式参拝を北朝鮮も批判

中曽根内閣、発足1000日目 歴代5位の政権、戦後のタブーに挑戦

大きな政局転換も 社党書記長、秋の情勢で見通し

8月の3週間――冷たい夏と熱い冬 浅井泰範（世界・日本）

狭すぎる首相の国家観（社説）

防衛費1%枠の撤廃、臨時国会前を示唆 中曽根首相、慎重論を退ける

「定数は正は緊急課題」 首相の記者懇談要旨

秋は政局激動、年内の解散も 社党書記長が予測

社党「新宣言」への評価と批判くっきり 国民の声聞くシンポジウム

威圧的な光景、終戦日の靖国（声）

社党代表団あす訪中 開放政策の動向見極める

首相の夏 「戦後政治の総決算」へ布石と充電

週間報告（8月17日～23日）

無神経すぎる靖国公式参拝（声）

防衛問題で国民的合意を 中曽根首相が意欲示す

靖国神社公式参拝アジアの警戒招く 中国副首相が表明

実態知りたい靖国の「祭神」（声）

終戦40年…死を待つ気か 台湾人兵士の補償請求、行方見えぬ救済策

台湾人の元日本兵（天声人語）

首相、靖国例大祭も公式参拝 藤波官房長官が方針示唆

朝鮮問題で協力打診 社党代表団、中国副首相らと会談

「日中惨禍の歴史忘れてはならぬ」と社党訪中団に胡耀邦総書記

総評が秋の活動方針 中曽根政治と真っ向対決へ

深津文雄さん 従軍慰安婦のために初めて鎮魂の碑を建てた（ひと）

社党訪中団、トウ`氏と会見 靖国にクギ、日本の軍国主義分子の動き心配

自民党国対委員長、臨時国会の10月3日召集を打診 公・民など反発

春日氏、防衛費1%枠外し提言 中曽根首相らに書簡

「軍事火種広げる日本」 対米協力強化と非難 ゴルバチョフ書記長

靖国や戦争の本質見極めて（声）

中国側からの懸念、十分に配慮が必要 社党書記長語る

「靖国」で論争 日航機事故も多角的に分析（声・8月の投書から）

週間報告（8月24日～30日）

首相の靖国参拝、実現求め国会議員の会 初会合に42議員

札幌市議会、反対の決議 小泉首相の靖国参拝

影響は…悩む閣僚 首相参拝「本人の判断」（2001夏 靖国）

犠牲者の実態、数もわからず（戦争の死者をどう悼むか：下）

首相の靖国参拝問題 国家主義と結ぶ特異な存在 安丸良夫

小泉首相の靖国参拝めぐり、与野党から発言相次ぐ

3首相参拝、それぞれの事情（2001夏 靖国）

生者が「忠死者」集める傲慢 小泉首相の靖国参拝問題 井上ひさし

極東軍事裁判、不徹底が問題（声）

外相への批判、街の声でない（声）

教科書・靖国… 韓国・朝鮮人被爆者ら、不安深まる 長崎原爆忌

小泉首相の靖国参拝断念求め、3万人の署名 市民団体が内閣府に

小泉首相の靖国参拝で支持派が集会

進むも退くも道険し 首相参拝3つのシナリオ（2001夏 靖国）

15日の靖国参拝、中谷防衛庁長官が表明

「張り紙ゲリラ」1時間で幕 社民代議士ら、靖国参拝反対を訴え

野党議員107人、靖国参拝反対訴え 国会内で集会

舛添要一氏・山本香苗氏（2001夏靖国 与野党議員に聞く：上）

祈る心、場所選ばず（靖国 新世紀の夏に：1）

靖国参拝で遠のく、朝鮮人航空兵の「帰郷」（天声人語）

靖国「15日避け参拝」政府内で浮上 小泉首相「もう少し時間を」

靖国参拝巡る対応、「非建設的だ」 武中国大使に自由党の小沢党首

歴史問題と台湾問題、「妥当な処理」改めて求める 武・新中国大使

小小木八郎氏・辻元清美氏（2001夏靖国与野党議員に聞く：中）

靖国参拝 ダグラス・ハード（私の視点 ウィークエンド）

文科省HPなど15日集中接続か 歴史教科書・靖国参拝問題

山崎・加藤氏、15日より前の靖国参拝を説得 小泉首相は回答留保

小泉首相靖国参拝は国際的代価高い ジョセフ・ナイ米元国防次官補

新華社が速報 小泉首相の靖国参拝についての公明党・幹事長の発言

小泉首相の「15日の靖国参拝はないだろう」 公明党・冬柴幹事長

なぜ 戸惑う北京市民 小泉首相の靖国参拝（時時刻刻）

山崎・加藤氏、改革へ影響を懸念 靖国参拝問題で小泉首相と会談

4氏に聞く（2001夏 靖国 与野党議員に聞く：下）

70年夏－献灯 8月14日 東京・千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

靖国参拝、最後の綱引き 小泉首相、きょうにも声明出す方向

小泉首相靖国参拝、A級戦犯の責任とは（天声人語）

ソ連国防次官が論文で日本の軍国主義復活に強い懸念表明

1%枠撤廃で政府・自民、本格調整へ

動静（2日）

石橋・ニュー社会党、正念場の3年目へ 新路線めぐり対立浮上

1%枠撤廃、つまずいた中曽根戦略 党内慎重論、首相主導に歯止め

中国の新駐日大使会見 「共同歩調で貿易拡大を」

揺れる日の丸・君が代 教委、定着へ指導強化 教師は戸惑い

首相が軌道修正せぬなら社党は「内閣打倒」で 石橋氏表明

「公式参拝、やめた方がよい」 彭真氏、田中派訪中団に「靖国」批判

暑い夏（読者応答から）

新国家主義？（ハッピー・ニッポン第2部 人々を覆う気持ち：10）

ひと月6000字（今日の問題）

臨時国会の緊迫予測 安倍氏、総裁選へ意欲表明

内閣評価で公・民ぎくしゃく（ベリスコープ）

千人針（天声人語）

1%枠を死守 社党中央委で石橋氏表明

戦後政治、大筋は間違いない 宮沢喜一・自民党総務会長に聞く

中国、「靖国問題」の深追いせず？

「不愉快な事、早くケリを」 日中友好で彭真氏

新防衛計画、対米配慮で18兆円台 金丸氏、1%枠突破を示唆

「首相のみが突出の印象」 1%枠で竹入氏

靖国公式参拝違憲訴訟、資格認めず門前払い

北京で反中曽根デモ 学生ら1000人「打倒」叫ぶ

臨時国会、1%の矛盾焦点に「総決算」どう決着

首相の指導力にかけり説 表に立つのを避けた “突出”に与野党反

首相、「北京のデモ」のコメント避ける

予算編成では1%枠尊重 首相

新防衛力整備計画決まる 手探りの「1%政局」 記者座談会

北京の学生デモ（今日の問題）

北京の学生デモ、「政府の立場説明したい」 参院委で官房長官

靖国公式参拝、中国人の心傷つけた 反日デモで中国外務省が談話

北京の反中曽根デモ 潜む庶民の不快感 経済進出なども影響か

中国公使、二階堂氏に「中国国民の懸念の表れ」 北京の反中曽根デモ

外務省、在北京大使館に真意説明を訓令 中国の学生デモ

野党、中国学生デモで臨時国会追及に弾み

課題置き去り…問い直される追悼の形 小泉首相の靖国参拝<解説>

小泉首相の靖国参拝 韓国駐日大使が「誠に遺憾」

これが熟慮の結果か 首相靖国参拝（社説）

日韓関係へ影響を懸念 小泉首相の靖国参拝で米政府

アジア各地で華人らが抗議 小泉首相の靖国参拝で

ソウル市民ら、小泉首相の靖国参拝に抗議デモ

中国紙、報道控えめ 政府の慎重姿勢を反映 小泉首相の靖国参拝

2001年08月14日 朝刊 3総合

小泉首相談話の全文 靖国神社参拝

小泉首相、熟慮の末の2日前参拝 断行回避へ包囲網（時時刻刻）

韓国「実質、変わらぬ」 小泉首相の靖国神社参拝

皇国の威厳、掲げる狙い 中国・新華社が批判 小泉首相の靖国参拝

米国安ど「隣国への配慮、首相が示す」 小泉首相の靖国神社参拝

外国人労働力の受け入れを（経済気象台）

日本、近隣諸国との協調が不可欠 米経済史家・フランク氏に聞く

私の談話使われ“作文”にされた 小泉首相の靖国参拝で村山元首相

小泉首相よ聞いて、老いた声 靖国参拝、思い様々

是非超え「父感じる」場（靖国 新世紀の夏に：4）

小泉首相の「靖国参拝に抗議」 気象庁HPに不正侵入、書き換え

福田官房長官会見「千鳥ヶ淵へ」発表で混乱も 小泉首相の靖国参拝

「惨禍の地」落胆の色 小泉首相「靖国」参拝で各地から抗議の声

小泉首相の靖国「前倒し参拝」に「反対」「万歳」

終戦記念日に「参拝する会」88人で靖国神社へ

「断じて許せぬ」 社民・土井氏、首相の靖国参拝で官房長官に抗議

「近隣国民の感情傷つけた」台湾外交部が不満 首相の靖国参拝

中国・全人代「厳正に糾弾」表明 市民、政府批判 首相の靖国参拝

韓国「根本的対応を」正式に遺憾を表明 戦没者追悼・首相靖国参拝

日ずらしても疑問多い参拝（声）

靖国参拝、舞台にずしり 神社の戦争責任描いた「闇に咲く花」開幕

小泉首相の靖国参拝、抗議の署名集めや反発の声

小泉首相の靖国「前倒し参拝」に批判・失望の声 超党派議員の会

田中外相、4月に靖国神社参拝が明らかに

小泉首相の靖国参拝、自党内力学の変化反映 YKK久々に見せ場

世論に政府注視 8・15アジア 首相靖国参拝に抗議（時時刻刻）

靖国参拝（かたえくぼ）

有言不実行は納得できない（声）

靖国公式参拝、戦犯追悼で言葉濁す 中国学生デモで官房長官が会見
首相、税制改革を政治カードに使う 対米にらみ「減税」を前面に
外務省、中国の反日行動注視 配慮不足の反省も
靖国公式参拝、国内も高まる反対
ニューリーダー、「中曽根後」にらみ動き活発 消せるかひ弱イメージ
将来の増税に含み 首相、録画撮りで発言
北京大抗日集会の教訓 安易に考えれば将来見誤る恐れ（視角）
伊東元外相、首相に日中友好へ配慮要請
いまアジアは流動期 中国・朝鮮半島軸に 大使座談会
「靖国」「日の丸」――戦後40年の今をどう見る（討論のひろば）
「財源、簡単に探せぬ」 宮沢氏、大型減税に慎重論
中曽根首相、内閣制100年・天皇在位60年の記念行事に意欲
日の丸・君が代の徹底通知でニュー社会党、対応に頭抱える
「労戦統一では団体協議重視」 総評事務局長
政策減税で前進なければ、審議拒否辞さぬ 臨時国会で4野党合意
北京大生らの反日デモは「理解できる行動」 胡啓立氏述べる
中国の報道関係者が首相訪問 靖国神社公式参拝など話題にせず
首相、靖国神社例大祭の公式参拝に迷う 中国の反発を心配
靖国の例大祭参拝、首相「いま研究中」
新中国大使が首相訪問 友好関係の発展を確認
自民党首脳も靖国で慎重論 秋の例大祭公式参
「1%・靖国」などで対決 臨時国会へ社党が方針
公式参拝、慎重に 「終戦」と別の観点で判断 秋の例大祭で官房長官
自民党の新綱領案、改憲派の反発は必至 行革など首相色も＜解説＞
柔道と反則技 ご本家薄れる時代 浅井泰範（世界・日本）
宮沢政治の力点は何か（社説）
対中関係安定化へ努力 臨時国会「政府・自民結束を」 安倍外相語る
どうなる国家秘密法案の臨時国会での扱い
「靖国」には直接触れず 中曽根・王会談
信頼再確認に力点 安倍外相、10日から訪中
外国特派員への首相応答（要旨）
首相の外国特派員協会での講演、自己採点は合格 「国際派」もPR
「臨時国会では6・6案成立を最優先」 金丸氏、改めて強調
靖国神社秋季例大祭の公式参拝見送りへ 官房長官、自民に通告
憲法擁護国民連合など、靖国秋季例大祭の参拝反対
ナカソネ戦略（思惑交錯85秋・迫る臨時国会：上）

反戦と平和デモ31年 「ひととき」から誕生、草の実会 終戦の日
文科省・扶桑社、HP接続集中 歴史教科書や靖国参拝の抗議運動か
終戦記念日「初の経験」 靖国参拝、各地の集会
国籍も肩書も問わず戦没者名刻む（靖国 新世紀の夏に：6）
脱ナショナリズム・商業主義 ワールドゲームズ開幕（時時刻刻）
靖国参拝のおはらい巡って、首相と神社ですれ違い
二重姿勢と韓国側非難 小泉首相の首脳会談呼びかけ
政府、私的と認識 答弁書で間接的に表現 小泉首相の靖国参拝
首相の「理」は何なのだろう（声）
特集・小泉首相の靖国参拝（私の視点）
「来年は状況見る」 公明の離脱圧力は否定 靖国参拝で小泉首相
小泉首相の靖国参拝、毎年継続が大切 安倍官房副長官
「小泉首相は現代版東条英機」 靖国参拝で北朝鮮の機関紙
小泉首相の靖国参拝、抑えた反応 山崎自民幹事長がASEAN訪問
「憲法抵触せず」田中外相、一転理解 小泉首相の靖国参拝
世界の中で自己相対化を 靖国参拝で日韓・日中関係悪化 国分良成
ノーマさんが語る日本の8月（ポリティカにつぼん）
東南アジアは軍国主義に根強い警戒 靖国批判、複雑な「抑制」
日中協議足がかりなし セーフガード中国の報復から2カ月
知事の一喝に記者は反論を（声）
小泉首相の靖国参拝、台湾の陳総統が批判
「過去」見つめ、なすべきこと（声）
近隣の諸国と未来志向望む（声）
ボディ&メロウ 善悪の彼岸 赤坂真理（モードの風）
安倍氏の発言、近隣を逆なで（声）
『敗戦日記』抄 加藤周一（夕陽妄語）
訪日の金鍾泌・元韓国首相、小泉首相の靖国参拝などに不快感示す
韓国野党、小泉首相訪韓に反対 靖国参拝への謝罪要求
機上から見た美しいレイテ（声）
「日本政府、説明を」 靖国参拝後の日中関係で唐外相が言及
やはり一方に偏した靖国参拝（ポリティカにつぼん）
「靖国」に米国も厳しい目 三浦俊章（記者は考える）
最近のことばから（天声人語）
田中真紀子・外相（「看板」大臣 改革の秋へ：2）
「首相の靖国参拝前倒し、残念」 自民党、幹事長会議で不満続々
「日韓図書展示会」を中止に 政府間の交流行事で初

中国「靖国」に懸念、呉外相が公式表明 友好維持では一致 外相会談
トウ主任も「靖国」批判 安倍外相会談
首相所信表明の骨格固まる 内需拡大策を急ぐ 1%枠には直接触れず
靖国問題に警戒感緩めぬ中国、日本側の姿勢に警鐘 外相会談（解説）
「中国側首脳との一連の会談、関係発展で一致」 安倍外相
自民、姿勢評価と判断 野党は不支持増に注目 内閣支持率・本社調査
共闘と連合と（思惑交錯 8 5 秋・迫る臨時国会：下）
蒋介石顕彰の会、自民幹事長ら発起人に 中国側が懸念伝達
臨時国会、5つの争点を点検
臨時国会、「総決算」論戦が軸 波乱含み、あす召集
週間報告（10月5日～11日）
社党委員長、自民と対決の決意を強調
臨時国会始まる 会期は62日間
中国と台湾にらみ悩み深し（ベリスコープ）
予想上回る反靖国 中国観見直し必要 訪中の安倍外相が帰国
きょう召集の臨時国会、冒頭から攻防
宮本議長「中国の反靖国デモは内政干渉に当たらない」
「靖国に夫はいない」と母（声）
真先に違憲定数を正せ（社説）
閣僚の参拝も見送りを希望 靖国神社参拝問題で官房長官が示唆
21世紀委で靖国参拝に言及 中国首相、「歴史の総括を」
首相所信演説、社公共など強く反発 「1%枠突破・靖国なぜ逃げる」
創価学会青年部、靖国神社公式参拝で抗議集会
自民の3協議会、靖国神社秋季例大祭の公式参拝を再要望
金丸氏、「蒋介石顕彰会」の発起人退く 安倍外相の要請で
懸案処理に実務色 中曽根首相の所信表明演説＜解説＞
首相は国会で本心を語れ（社説）
日航機墜落、朝日新聞の24時 追った、見た、書いた、激動のドラマ
靖国批判 問題なのは戦犯の合祀と中国公使が指摘
代表質問まず衆院 社党書記長、1%枠厳守や靖国参拝中止など要求
1%枠の堅持必要 新自ク・社民連代表が一致
臨時国会、きょうから代表質問 「靖国」「1%」焦点に
石橋氏、首相の高支持率に“ヒトラー時代”の危機を感じる
首相、1%突破の可能性認める 防衛大綱を優先 衆院で答弁
「対話進め相互理解」、中国の靖国反発で首相 参院代表質問
8月15日靖国日参拝継続 官房長官示唆

靖国参拝問題 心情の虜になる政治家ら 間宮陽介（論壇時評）
温かく優しい韓国の人たち（声）
中朝の特殊関係を訴え 存在感、印象づけ 中国外相会見
復活へ磨く外交カード 加藤紘一元幹事長、台湾訪問から帰国
小泉首相靖国参拝「2つの大罪」 民主党の鳩山代表
日韓関係とサッカーW杯 首相靖国参拝など「共催の意義」に傷残す
教科書問題をめぐって（15年目の報告 朝日新聞襲撃事件）
靖国の夏（窓・論説委員室から）
講座・講演 マリオン
南北対話再開に弾みを 中朝首脳会談（社説）
公に語られる人種観の深刻 石原都知事「DNA」発言（単眼複眼）
「靖国はぶれても改革はぶれない」 小泉首相、官邸で力説
講和50年「唐牛」を思い出す（ポリティカにつぼん）
「靖国参拝は理解できぬ」 中国の江沢民主席が反発
報復ではなく平和へ助言を（声）
歴史のトラウマを越えて（飛耳長目）
靖国参拝を克服する視点（朝日新聞アジアネットワーク）
「ナショナリズム」再訪 加藤周一（夕陽妄語）
新しい戦争、古い戦争（経済気象台）
考える材料、多様に 朝日新聞紙面審議会・第12期第6回
構造改革、大胆かつ柔軟に 痛み緩和策を列挙 小泉首相が所信表明
「孤立したら平和ありえぬ」 小泉首相、対米支援の重要性説く
焦点採録 代表質問・衆参両院2日
小泉首相が8日訪中、15日訪韓へ 靖国問題などの関係修復に道筋
チグハグな日本の「国際連帯」 若宮啓文（記者は考える）
小泉首相、日中戦争の「おわび」の意表明へ 8日に訪中、首脳会談
テロ転機に修復へ一歩 小泉首相、訪中・訪韓へ（時時刻刻）
焦点採録 予算委員会・衆院4日
近隣外交の確かな一歩に 首相中韓訪問（社説）
来年の靖国神社参拝、言及避ける方針 小泉首相中韓訪問
江主席、来年の靖国参拝に懸念 小泉首相との首脳会談
小泉首相「日中会談で真意を説明」 靖国参拝問題
小泉首相の訪中、米のアフガン空爆で追い風 「靖国」しこり残る
江主席の「靖国」懸念発言、外務省が一時伏せる 日中首脳会談
おわび語って「靖国」語らず 小泉首相訪中
「おわび」「哀悼」「反省」中国が事前要望 日中首脳会談

外相の定期協議、中国の十分な理解得られず 靖国問題	焦点採録 予算委員会・参院9日
歴史の教訓生かそう 日中友好進展などで一致 21世紀委	経産省、輸入タオルのセーフガードの発動見送りへ 調査期間を延長
衆院代表質問と政府答弁<16日> 小淵恵三氏・自民	韓国人遺族、原告に 小泉首相の靖国参拝巡り5地裁で提訴へ
衆院代表質問と政府答弁<16日> 田辺誠氏・社会	「歴史」の溝、修復手探り 展望開けぬまま、小泉首相あす訪韓
中曽根外交に改めて注文する(社説)	週間報告(2001年10月6日~10月12日)
「公式参拝は検討中」 記者会見で官房長官	不信の代償は高い 近隣外交(社説)
靖国の例大祭に143議員が参拝	日韓修復、苦い一歩 小泉首相の訪韓、自費も難題は先送り
総額明示、歯止めに 国会代表質問、防衛費で首相答弁	日韓首脳会談、主なやりとり
建設国債増発に難色 首相、内需拡大で答弁 参院代表質問	官邸・与党対立鮮明に 補正予算案「30兆円」守った
留学生の交流拡大を提言へ 日中21世紀委が閉幕	小泉外交、やっと始動 APEC終え首相帰国
靖国例大祭の公式参拝、政府は「検討中」と逃げの一手	日韓、本物の信頼を 「コリア・スーパー・エキスポ2001」
衆院代表質問と政府答弁<17日> 林百郎氏・共産	改革足踏み、焦る小泉首相 塩川財務相も運営を批判 経済諮問会議
参院代表質問と政府答弁<17日> 久保亘氏・社会	官房長官就任1年(福田康夫研究 小泉政権の舞台裏:上)
衆院代表質問と政府答弁<17日> 浅井美幸氏・公明	熟慮見えぬ首相の歴史認識 石橋英昭(記者は考える)
千鳥ヶ淵墓苑の戦没者慰霊に集う	靖国参拝は違憲、国と首相神社側を提訴 韓国人遺族含む700人
首相、公式参拝は見送り 靖国神社の秋の例大祭	小泉包囲網じわり 主導権回復狙う橋本派・ポストYKK・森前首相
日米欧で包括経済協議 首相、米に提案の方針 参院で答弁	韓国の遺族らも「抗議」 小泉首相の靖国参拝違憲と提訴
「首相、靖国秋大祭の公式参拝せず」 官房長官が正式表明	鳩山氏ら発言批判、対中・韓関係に影響も 靖国提訴に小泉首相反発
国会代表質問を聞いて 記者座談会	「靖国」提訴で首相発言、原告ら強く反発 「反省の弁、口先だけ」
胡総書記、日中友好21世紀委員と会見 「4つの意見」発表	週間報告(2001年10月27日~11月2日)
中国で開く日本映画祭の前夜祭取りやめ 中国側が暗に要請	「おかしい人」(窓・論説委員室から)
参院代表質問と政府答弁<18日> 田淵哲也氏・民社	熟慮何のため、首相発言疑う(声)
参院代表質問と政府答弁<18日> 藤原房雄氏・公明	原告団、「人権侵害」と小泉首相に抗議 靖国参拝提訴への発言
国会に弁論を生き返らせよ(社説)	2次補正、合唱一気 小泉首相も軟化、論議解禁(時時刻刻)
「1%枠の厳守重要」 知識人や政治家ら、危機感強めシンボ	『戦争論2』 小林よしのり著 吉田司(ベストセラー快読)
秋の靖国参拝見送り、「時間切れ」という名のあいまい決着	「靖国参拝違憲」東京でも提訴 戦没者遺族ら
1%枠・軍縮緊急シンボ、平和運動再生へ熱気	文学 過去と現代をつなげる試み(回顧2001)
週間報告(10月12日~18日)	小泉首相の靖国参拝、千葉でも提訴 全国で5例目
今だからこそ問われる靖国(声)	小泉首相の靖国参拝「私的」 政府見解、官房長官が明言
公明党活動方針案、「反中曽根」を明示 連合、執行部に一任	平和記念碑懇談会座長に今井敏・経団連会長が就任
高支持率の中曽根内閣、高くない政策信頼度 本社世論調査	“複”耳首相、最後に何聞く?(記者席)
国際反戦デー、社共の亀裂拡大 社党は27日に独自	首相の靖国参拝「きちんと整理」 平和祈念懇が初会合
地方行革に強く反発 自治研全国集会始まる	信頼関係作り、協力実行の時 国分良成教授 4カ国世論調査から
中曽根内閣支持率 朝日新聞世論調査の結果を見て<解説>	「心に傷」在韓遺族ら45人提訴 小泉首相「おかしい人」発言で
中曽根政治こう評価 朝日新聞社世論調査	小泉純一郎 首相の「改革」次は何(2002年 主役わき役)
秋の靖国公式参拝見送り 3協議会の橋本氏が首相批判	自民、小泉色を前面に 今年の運動方針案で郵政の国営堅持削除

靖国参拜で外相、中国への配慮強調

核戦争に巻き込まれる、学生の7割が不安感 創価学会意識調査

軍縮に国民世論の再結集を(社説)

首相、国連演説で核兵器追放を提唱 「米ソの責任重い」

「靖国」は継続的に努力 官房長官、日中首脳会談後に会見

中国側、今後の対応見守る態度 中曽根会談での趙発言(解説)

「日中関係は主流において揺るぎない」 趙首相・中曽根会談

首相の国連演説を野党が採点 「偽りの内容」「総論どまり」

「靖国参拜問題まだ落着せず」 趙発言で外務省首脳表明

靖国例大祭の公式参拜見送りの舞台裏 中国側の猛反発に激論

新産別大会で委員長、中曽根路線を批判

首相は「靖国」で大局判断示せ(社説)

「防衛・靖国」中心に論議 28日から衆院予算委

学生の「経済侵略」論に反論 貿易拡大で中国共産党

速記の日(ジス・ウィーク)

中期防衛力計画撤回を 衆院予算委で大出氏、1%枠尊重迫る

中曽根政権、任期切れまであと1年 道遠い「改革」完成

韓国が初の「靖国」批判 李外相「慎重に対処を」

気になる?靖国摩擦(政界オムニバス)

「A級戦犯合祀には抵抗感」 靖国問題で金丸自民幹事長

1%堅持いわず「趣旨尊重」 衆院予算委で首相、なし崩し姿勢

靖国問題でアジアへ配慮不足 韓国外相発言で露呈

靖国問題、中国は円満解決方針 首相が最高顧問に強調

中国大使が靖国参拜で遺憾を表明 二階堂氏と会談

靖国公式参拜 国家秘密法案(焦点採録 衆院予算委・29日)

靖国例大祭時の公式参拜、追悼目的なら合憲 官房長官が見解

「1%枠、61年度は守る」 首相、衆院予算委で約束

北京の日本大使館で自衛隊35周年記念祝賀会

防衛力、大綱達成後に規模拡大も 衆院予算委で首相が認識示す

靖国公式参拜(焦点採録 衆院予算委・30日)

軍縮指向の防衛政策で提言(声・10月の投書から)

8月15日の参拜前向き 靖国で首相答弁

靖国神社公式参拜、法制局の“変身”やり玉(断面・国会審議)

靖国公式参拜 衆院予算委焦点採録<31日>

離任の韓国大使が首相訪問

東京都(64)現代に挑みながら(新人国記85:1088)

小泉内閣の今年 五百旗頭真(思潮21)

靖国参拜の件で小泉首相に電話要求 NHK京都放送局にろう城男

「親善大使」扱い、戸惑う遺族ら 新大久保駅転落事故から1年

出せるか「川口色」 外務省改革・外交力の立て直し、新外相に課題

小泉政治 ポーリン・ケント(私の視点 ウィークエンド)

児童養護施設名誉園長 田内緑さん 韓国(女たちの地球物語:5)

一からわかる小泉改革:上 その中身は

小泉首相の施政方針演説、見えぬ具体像 識者に聞く

有事立法・テロ・教科書…「国のあり方」を議論 建国記念の日

二つの退場 吉田秀和(音楽展望)

首相の靖国参拜、日付こだわらず 日本遺族会新会長の古賀誠氏

請求棄却求め国側が答弁書 千葉の小泉首相靖国参拜訴訟

田中前外相、中国要人と会談 招待受け訪中 首相周辺は警戒感

北朝鮮の日本人拉致問題「日本の立場伝える」 訪韓で小泉首相

田中前外相、再登場狙う旅路 訪中終え帰国 外務省はカヤの外

イギリス人は「理想」がお好き 緑ゆうこ著(書評)

安保論議、軸足「右」に 次世代台頭、変わる自民党

中国、小泉首相の8月参拜を牽制 靖国問題、野中広務氏らに要請

8月15日は回避が適当 靖国参拜で小泉首相周辺

新たな追悼施設「早期に設置を」 靖国参拜巡り駐日韓国大使

例大祭中に小泉首相、突然の靖国参拜 8月見送り明言

なぜ首相はこだわりののか 靖国参拜(社説)

駐韓大使を呼び韓国政府が抗議 小泉首相の靖国参拜

「中途半端だ」「感情逆なで」野党、一斉に批判 小泉首相靖国参拜

韓国、W杯控え協調必要…しこりを残す 小泉首相の靖国神社参拜

8月参拜避けた妥協策 小泉首相の靖国参拜

平和を未来へつなぐ試み、東本願寺で 自爆テロ巡り討論

「公約守って」「憲法違反」 推進・反対双方に不満 首相靖国参拜

8月15日の靖国参拜、小泉首相に求めず みんなで参拜する会

韓国の国会議長ら、批判強める「奇襲攻撃だ」 小泉首相の靖国参拜

中国主要各紙は抑えた報道 政府姿勢を反映 小泉首相の靖国参拜

中韓反発、難しい見極め アジア外交に懸念も 小泉首相の靖国参拜

小泉首相の靖国参拜に抗議声明

中国が中谷防衛庁長官の受け入れを延期 小泉首相の靖国参拜に反発

「限定革命」狙う党実力者(民意 小泉 自民党:下)

小泉首相の靖国参拜、北朝鮮も非難

名文句なき文化考 編集委員・轡田隆史（座標）

週間報告（10月26日～11月1日）

護憲国民大会に2千人集う 福島県郡山市で開会

靖国公式参拝、制度化していない 政府が答弁書

A級戦犯合祀下の公式参拝、見解分かれた靖国懇談会

「靖国」にみる西独との違い（声）

靖国神社の合祀事務を国費負担で協力 「違憲」と社党迫及へ

日本遺族会の新会長に長谷川峻氏

局長名の通知、用語が不適切 靖国合祀で厚相答弁

日米安保条約が主、非核三原則は従 参院予算委で首相が答弁

靖国 焦点採録参院予算委・6日

「A級戦犯合祀は遺族間で議論か」 自民の橋本氏が見通し

「靖国神社問題」政府答弁書の人民日報報道関連部分

中国紙、靖国参拝での政府答弁書に好感示す

靖国公式参拝、国内批判の声も聴け（声）

靖国神社での戦犯合祀、英霊は喜ぶまい（声）

戦争犯罪者と戦没者を区別 安倍外相が答弁で示唆

中曽根首相、不戦の大義堅持 訪日の中国青年に強調

週間報告（11月2日～8日）

靖国問題への提唱（天声人語）

路線（自民党30年・長期政権の構造：4）

丸の内へ帰ろう（TOKYO膨脹 人・カネ・情報）

会社やめ、青年活動 国際交流の裏方に自分を見いだす

自民党、長期政権の構造 石川真澄・国正武重編集委員対談

保守とも連合の可能性 社党が運動方針案

社会党の運動方針案（要旨）

社党の堀副委員長、“策略”も政権遠く迫力不足（ベリスコープ

遺族、靖国公式参拝で違憲提訴へ 首相と国に賠償求める

異端と正当 日米同盟に肩入れ（変質する戦後政治：1）

首相、手放し海軍礼賛（政界オムニバス）

生き残り戦略 多数重視か抵抗か（変質する戦後政治：2）

私的諮問機関の運営を靖国懇にみる 事務局が巧みな結論誘導

信なければ立たず（社説）

「感情損ねぬよう対処」 首相、靖国問題で中国側へ伝言

靖国公式参拝で感謝料を請求 兵庫の住民が提訴

国家の復権 規範づくりに腐心（変質する戦後政治：6）

中国、政党間交流は継続 修復余地残す 首相靖国参拝への対抗措置

靖国参拝（かたえくぼ）

襲撃の日から：11（「みる・きく・はなす」はいま 第26部）

首相の靖国参拝で韓国、世論動向懸念 サッカーW杯日程は予定通り

不審船、引き揚げ遅れも 事前調整に中国側沈黙、靖国参拝に反発か

t o k y o 小泉単辺主義への危惧 船橋洋一（日本@世界）

「訪日に厳しい意見」 靖国参拝で中国・曾慶紅氏 野中氏らと会談

小泉首相就任1周年、「ライオン」元気に見えるけど… 番記者の目

中国・曾慶紅部長が靖国参拝を批判 民間交流は維持示唆

小泉首相の靖国参拝「好ましくない」 訪中の公明・神崎氏

週間報告（2002年4月20日～4月26日）

スイスに見る過去清算の形（声）

気兼ねのない慰霊の場ぜひ（声）

「靖国参拝許せぬ」 中国の江主席、小泉首相を批判 神崎代表会談

中国、硬化せず安堵 政府、靖国参拝「影響ない」 不審船調査

公明・神崎代表「小泉首相に対処求める」 中国が靖国参拝を批判

中国の江主席の批判「国民を代弁」 小泉首相の靖国参拝で官房長官

江沢民中国主席・神崎公明党代表会談の要旨

中国主席の批判、日本政府は静観 小泉首相の靖国参拝

小泉首相の靖国参拝に重ねて不満 中国外務省

連立優先、批判の矢面 公明党訪中団、首相の「靖国問題」で腐心

小泉政権1年：上 私が支持をやめた理由（e-デモクラシー）

金大中・韓国大統領の会見＜要旨＞

小泉首相の発言内容＜要旨＞

小泉政権1年：下 私が評価を変えない理由（e-デモクラシー）

追悼施設必要論強まる 懇談会メンバー、小泉首相の靖国参拝に困惑

「話したい」通じぬ声 中国・瀋陽総領事館事件（時時刻刻）

北朝鮮への関与が必要（朝日新聞アジアネットワーク）

メディア 神野直彦（私の視点 ウィークエンド）

日韓サッカーW杯外交、得点は（時時刻刻）

歴史の克服、共有財産に 日韓W杯開幕 論説副主幹・若宮啓文

福田氏の発言、罷免に値する（声）

政権支える気負い裏目？ 福田長官「核容認」発言

核発言 アジアの安定に危うい一石 ロビン・リム（私の視点）

一日一書 石川九揚著（書評）

戦争、若い世代が語り継ぐ きょうは「沖繩慰霊の日」

厳しい校則・いじめに反響（声・11月の投書から）
総決算の底流 防衛力増強へ勢い（変質する戦後政治：8）
中国各紙に久びさ毛沢東登場 12・9運動の演説全文を掲載
「連合、大胆に対応 暴走の歯止めも」 公明党大会で書記長
靖国戦犯合祀、「疑問」の見解 訪中の桜内氏
「大戦の歴史改ざん」怒る 台湾の対日意識、有力紙・誌に世論調査
山崎豊子さんの中国取材、胡総書記が再び激励
圧力の中、権威かけ出番探る（ベリスコープ）
「靖国」で曇る日中関係 「反日」に庶民感情も
尺一顕正さん 「靖国公式参拝は違憲」と国を相手に訴訟（ひと）
少数精鋭主義ではダメ 社党大会での石橋委員長あいさつ要旨
野党4党、新自公説得を強化 国家秘密法案廃案へ共闘確認
「内閣制度100年史」近く刊行 田中元首相逮捕も記述
日韓基本条約発効から20年、成熟の時代へ 韓国側にゆとり
60年の10大ニュース 在京社会部長が選べば…
藤岡義昭さん 浄土真宗本願寺派（西本願寺）48代総長（ひと）
対聯（今日の問題）
東京都（102）知日外国人の日本観（新人国記85：1126）
日米中のジャーナリストが「太平洋共同体とメディア」シンポ
連載を終えて 記者座談会（現代社会）
今年締めくくりの「ピース・ポート」 若者ら洋上大討論
ボン 国歌と国旗（特派員メモ）
藤波孝生官房長官 牛みたい黙々反すう（人きのうきょう）
中国 生活の不満がくすぶっている（世界・明日への胎動：10）
「靖国」は戦争評価とアジアの感情に関係 中国大使が2点を指摘
どうなる国際情勢 大変動への“うねり”（討論のひろば）
85年の貝（天声人語）
中曽根政権最後の年への布陣（社説）
中曽根首相の影薄い61年度予算 地味な難題、回避姿勢も
なんじ自らを知れ 論説委員・日比野和幸（座標）
田中支配の終幕実証 改造内閣と党役員人事を見て
何を問う、中国の若者デモ 知識青年は語る
A級戦犯も合祀の意向 靖国神社司官が示唆
ゲリラ再び高揚期 61年も成田など軸に攻撃 警察庁分析

小泉首相あてに靖国参拝中止を要請 全日本仏教会（永田町霞が関）
国立追悼施設の是非、意見分かれる仏教界 「第二の靖国」警戒
新施設建設提案へ 対象者は意見割れ 戦没者追悼で官房長官私的懇
「靖国」巡る溝深く 小泉首相、秋の訪中延期
侵略めぐる摩擦消えず（日中復交30年 第2部・隣人と：4）
終戦の日、5閣僚が靖国参拝
夏休みは無為に（かたえくぼ）
小泉純一郎首相の春の靖国参拝、「違憲」と提訴 戦没者遺族ら
小泉首相の訪中めど立たず 新追悼施設も先行き不明 靖国参拝
週間報告（2002年8月10日～8月16日）
2年前には変わる兆し（急転 日朝：上）
拉致解決、一步へ祈り なぜ今、真意どこに 日朝首脳会談へ
日中首相、下旬に会談 デンマークでASEMの際 日朝会談を説明
日中関係は冷えてない 小泉首相「靖国参拝、戦争美化じゃない」
小泉首相訪朝を支持 川口外相会談で中国・江沢民主席
日中30周年外交、「友好」を優先 首相の訪中決まらずジレンマも
新幹線は中国を走るか 加藤千洋（読み・解く アジア）
中国共産党幹部、A級戦犯分祀言及 山崎氏と会談、日朝会談は評価
小泉首相の訪朝、朱鎔基・中国首相も評価 コペンハーゲンで会談
成長中国と低迷日本 朝日新聞社・中国社会科学院共同世論調査
政治のバイブ（日中30年目の実像：上）
摩擦の対処法 「情」の外交脱却手探り（日中30年目の実像：中）
日台の新潮流（日中30年目の実像：下）
「8月15日にこだわらぬ」 靖国参拝巡り古賀誠氏
中国・江主席、靖国参拝中止求める 「人民感情に抵触」日中会談
日中首脳会談 小泉首相・江沢民主席＜要旨＞
中国・江沢民主席、靖国参拝の批判鮮明に 対米協調とは格差
日中間の「意見交換に意味ある」 靖国問題巡り福田官房長官
自民反発、小泉首相は無関心 漂流し始めた戦没者追悼施設構想
自由党党首・小沢一郎氏 危機で世論は動く（野党よ 党首に聞く）
小泉首相の靖国参拝触れず、提言たなざらしも 追悼祈念懇報告書案
小泉首相の「無関心」反映 戦没者追悼施設、構想倒れも 自民反発
中国指導層とのバイブ細る一方 日本通曾氏が頼みの綱（時時刻刻）
平和懇「追悼施設必要」と報告 小泉首相は靖国参拝明言
靖国問題、解決速く 建設判断「政治任せ」 戦没者追悼施設提言

米中首脳から新年のメッセージ

首相の「伊勢」参拝、憲法論議ないが靖国問題絡み微妙な側面も

後藤田官房長官 3選、前提は党則だが（関係ざっくりぼらん）

60年度朝日賞の人びと 政治思想史・丸山真男氏 衰えぬ情熱と洞察

不忘民族恨 中国（ニッポン外から見れば：5）

周恩来氏没後10周年 業績たたえ首相が書簡

靖国合祀反対へ「真宗遺族会」結成

なぜか、突然、日の丸が（幻想ゲーム：8）

中曽根首相、靖国年頭参拝せず

週間報告（1月4日～10日）

靖国神社、本殿を建て替えへ

空気は北京より東京がよい（視角）

マンションの朝火事で焼死 東京・新宿

「集団参拝は配慮欠く」 政府首脳、「靖国」で反省の弁

再開国会、予算論戦まず焦点 解散絡み「定数」に思惑

国際国家への礎石 「総決算」の意義強調 首相施政方針演説

首相施政方針演説、総仕上げ印象づけ 理念に力点＜解説＞

言葉の軽さと大きな波（社説）

サムライの神秘 東欧（ニッポン外から見れば：24）

減税答弁、首相は「62年度大幅に」 蔵相は「ひずみを是正」

衆院の代表質問と首相答弁要旨（29日） 石橋政嗣氏・社会

参院代表質問と首相らの答弁要旨（30日） 小野明氏・社会

参院の代表質問と政府答弁要旨（31日） 高木健太郎氏・公明

国会中継（天声人語）

日中が外務事務レベル協議

中断…でも攻防に甘さ 衆院予算委（断面・国会86）

靖国公式参拝はしない方がよい 事務協議で中国側表明

春の例大祭は見送る見通し 首相の靖国参拝

宮沢氏、ひめゆりの塔に何思う… 10年ぶりの沖縄（時々刻々）

気を配るハムレット議長（乱気流）

ロサンゼルス 健忘症への良薬（特派員メモ）

「靖国訴訟」で初口頭弁論 神戸地裁支部

市川市公金接待、住民訴訟は妥当 最高裁、東京高裁に差し戻す

日中外相協議、4月10日ごろ 「靖国」など焦点

周氏除名、「靖国訪問」も理由 中国

フェイル・アウトの1年（社説）

政治（'85主なできごと）

日本政府の姿勢問う中国 「反日」鎮めも狙い 天皇訪中＜解説＞

サクラ前線 見ごろは平年並み

郷愁と不安の中、機関誌復刻（記者）

火炎弾ゲリラ、一斉検問で都心は大渋滞

当世アルバイト事情 ほとんど本業、末はフリーかオーナーか

桜前線、千葉・館山に上陸 昨年より3日早い花便り

花だより、やっと都心に

昭和60年間の世相語 人それぞれの自分史・世間史

石橋社党委員長、野党党首会談を提唱 反中曽根で包囲網

靖国問題など焦点 あすから日中外相会議

日中協議で呉外相、「靖国」改めて注意喚起 「顕彰」問題も

首相、靖国参拝で慎重な対処表明 中国外相との会談で

週間報告（4月5日～11日）

戦争犠牲者追悼、靖国以外の場を検討 自民幹事長が中国外相に

急ぎすぎる、といわれて（社説）

靖国以外の場、簡単ではない 公式参拝で政府首脳が見解

靖国公式参拝自粛を期待 中国外相が表明

ワルトハイム疑惑－過去に目を閉ざす者 浅井泰範（世界・日本）

岩手靖国公式参拝と玉ぐし料の住民訴訟結審 61年秋にも判決

週間報告（4月12日～18日）

千鳥ヶ淵戦没者墓苑（天声人語）

東伊豆峰温泉の旅館、全焼し3人死亡 未明、客ら54人がけが

国会議員が靖国参拝 自民党と新自由クラブ

最古の水道管、最後？の反乱 歌舞伎町で水噴き出し、通行止め

「天皇」と「昭和」その意味は… 沢地・大江・村上3氏に聞く

天皇在位60年記念式典に総評などが反対集会

憲法39回目の誕生日 政府の行事はゼロ 野党は護憲集会

憲法記念日で野党が声明・談話

新自由クラブと連合の意味 (社説)	「憲法めぐる状況を考える」 阿部照哉・京大教授に聞く
国家の復権 (東京サミット 「国際国家・日本」の虚実：1)	日本はアジアの繁栄に力尽くせ 岡崎嘉平太氏 (わたしの言い分)
九段の国鉄用地、坪3600万円で「買った！」	酔えない勝利 野党、選挙など不安 (失速・中曽根政権：下)
公明党、訪米で“防衛変身”見せるか (乱気流)	傷跡 (我是日本人・中国に生きて 第2部：15)
呉中国外相、4月11日に来日	「日本を守る国民会議」作成の日本史教科書・原稿本内容の一部
対中取引、主要企業の9割が関心 法制未整備も指摘 輸銀調査	祖国の8日間…晴れ晴れ 在韓邦人妻きょう離日
“復古調日本史”合格に 異例の激論3時間半も	中国、自民圧勝で「政権強化望むが…」
黒いネクタイ 姿変えつつ思いは今も (検証・中曽根流：4)	全国連絡会が旗揚げ 平和遺族会
異色の指導者 (同日選・「中曽根政治」を問う：1)	慎重な言葉の先は (衆院300-これからの中曽根流：上)
同日選に事実上突入 野党、強引と批判 首相は安定基盤狙う	謙虚さの裏側 待つて熟柿の心境 (幕明け自民300時代：上)
外と内の落差 (同日選・中曽根政治を問う：5)	アジアの戦争犠牲者を追悼 8月15日、タイと大阪で集会
防衛急ぎ足 不安抱く近隣国 (同日選・中曽根政治を問う：6)	出番を待つものは (衆院300-これからの中曽根流：下)
連立の是非を問われる新自ク (社説)	新自由クラブはどこへ (社説)
首相と民意 頻繁にマル秘世論調査 (同日選・底流を探る：2)	終戦記念日の靖国公式参拝、1カ月後に控え首相に難問
復古調教科書、推移見守る外務省 「検定中」を理由に沈黙	「靖国」反対はヘソ曲がりか (声)
円高経済どうカジ取り 自民ニューリーダー3氏に聞く	第3次中曽根内閣、「財政」「内需」調整まず課題
過去の戦争をどう考えるか (社説)	首相訪ソに含み持たず 倉成新外相会見
参院選あす公示、同日選挙スタート 「総決算」「増税」争点に	藤尾文相ら5閣僚、靖国公式参拝を表明
中曽根首相の1週間 遊説行脚を追う (時時刻刻・同日選)	法制局長官に味村治村氏を起用
86同日選・各党の政策と主張ー公明党	橋本竜太郎・運輸大臣=48 (第3次中曽根内閣・閣僚の横顔)
86同日選・各党の政策と主張ー社会党	第3次中曽根内閣・全閣僚の横顔
86同日選・各党の政策と主張ー社民連	実務型4閣僚、強気の抱負 第3次中曽根内閣
86同日選・各党の政策と主張ー新自由クラブ	首相「本格続投」に意欲、国民の支持を強調 秘密法案再提出へ
総選挙で何を審判するか (社説)	記者会見での中曽根首相発言要旨
衆院選、あす公示 野党協力出さそう	「関係閣僚と早急に相談」 靖国問題で外相
郷土は票 「政治志向」続かず (当節公約研究：中)	靖国問題は慎重な対応期待 李・駐日韓国大使にインタビュー
公約“口約”、激しい舌戦 各党首熱弁 86衆院選公示	週間報告 (7月19日～25日)
「日の丸・君が代」で揺れる沖縄 (時時刻刻・同日選)	靖国公式参拝、見送りの可能性 「近隣配慮を優先」と政府首脳
党首公開討論を 争点明確化で石橋氏提唱 首相、条件つけ受諾	「靖国」公式参拝を求める宣言を採択 日本遺族会
党首公開討論に思惑の火花 86同日選	憲法擁護国民連合、靖国公式参拝反対を申し入れ
中曽根首相、党首討論でリーグ戦に固執	日本遺族会、靖国公式参拝を首相に要請 首相は「検討中」
中学社会科教科書検定、神話・防衛で踏み込む 出版労連調べ	「靖国」で政府首脳、政府見解の発表を検討
真の東南ア外交のために (社説)	「靖国参拝、非公式でも」の要請に首相、困難との意向
86参院選・比例区候補アンケートー社会党	教科書などの対日批判、「内政干渉」と反発 自民若手が会結成
同日選・候補者の主張、目立つ「防衛か福祉か」	閣議後に靖国公式参拝で議論 官房長官は慎重に 運輸相ら反発
大事なことを隠していないか (社説)	靖国公式参拝見送り、なお波風 一部閣僚だけ実施も

首相演説、微妙に変化（時時刻刻・同日選）	国際国家と靖国問題の処理（社説）
身近にも争点（中曽根流・あなたはどうか：番外編）	首相の靖国参拝を要請 自民総務会で奥野氏ら
同日選、政治学者の座談会 「304」の重み、どう生かす	「靖国」などでアジアの感情傷つけないで 二階堂氏に胡総書記
民意をどう生かすか（社説）	戦場にいなかったが（閣僚たちの「戦争と平和」：3）
斎藤厚相 福祉目的税、仕掛けぬ（懸案・新閣僚に聞く：10）	首相の靖国公式参拝見送り、A級戦犯合祀が障害 官房長官談話
靖国公式参拝、見送り 首相、最終方針固める	41回目の終戦記念日 16閣僚が靖国参拝、首相は見送り
共産党、靖国参拝の中止を申し入れ	「A級戦犯合祀に改善策を検討」 首相が言明
自民の靖国関係協、首相の参拝を働きかけ要請	文相、A級戦犯合祀問題の官房長官談話に不満表明
3協議会、首相の参拝要請決議 「公式」は求めず	41回目の終戦記念日、野党など独自に集会
官房長官、靖国問題で「公式参拝せず」伝える 3協議会は反発	終戦記念日、閣僚「靖国」に多様な対応 「公式参拝」明言組も
自民3協議会の靖国決議、首相が「気持ちはわかる」	権五キ [^] さん 東亜日報主筆=53（日本・自民300時代：4）
「公式参拝は首相判断で」 政府が答弁書	靖国問題に関する官房長官の談話、中韓に伝達
8閣僚が靖国参拝を検討 公・私人、“玉虫色”の形	終戦記念日、民間団体の主な催し
靖国公式参拝の見送り、自民若手に伝える 官房長官	靖国問題に関して 後藤田官房長官の談話
米価にも自民圧勝304議席の影 次の選挙へ生き残り必死	小川武満さん 平和遺族会全国連絡会の代表世話人（ひと）
ソ連書記長訪日実現に意欲 靖国公式参拝は見送る 首相表明	国際社会の中の8月15日（社説）
「靖国参拝」賛否両派が東京で集会	41回目の終戦記念日、各閣僚の靖国参拝後の「ひと言」
本質変わらぬ… 「靖国」の政府対応で林修三氏ら3氏に聞く	41回目の終戦記念日、閣僚の靖国参拝に遺族の思いは…
靖国参拝どうする 「行く、検討中…」閣僚の一声	「靖国」との距離（閣僚たちの「戦争と平和」：4）
生産者米価据え置きに迷惑 自民4実力者の損得決算（時時刻刻）	靖国参拝、5閣僚が「公式」明言
週間報告（8月2日～8日）	「首相の責任追及」 日本遺族会、靖国参拝中止で声明文
靖国は戦争賛美の施設 上杉聡氏（わたしの言い分）	「首相に猛省促す」 自民有志が靖国参拝中止で声明発表
首相続投へ着々と布石 「竹下流」根回し、本領発揮	「中曽根首相の靖国参拝中止は賢明」 胡総書記が評価
黛敏郎さん 作曲家=57（ニッポン・自民300時代：1）	同日選圧勝で踏ん切り 首相の靖国参拝中止の背景（時時刻刻）
爆音もなく声もなく（閣僚たちの「戦争と平和」：1）	靖国参拝の厚相に“直訴”した横浜市議ら捕まる
靖国参拝、首相の見送り決まる 他の閣僚は自主判断	午後も9閣僚、靖国参拝後の「ひと言」
動静（12日）	日本教育会館に右翼5人が乱入
首相の遠くを見る心境いつまで…（記者席）	火種抱える中曽根外交 靖国問題、アジアでの足固めにお課題
閣僚靖国参拝は遺憾 日弁連会長が談話	週間報告（8月9日～15日）
藤尾文相、首相の靖国参拝見送り批判	真の戦没者追悼のために（社説）
活動強める平和遺族会 “靖国国営化”に反発	それぞれの公約（閣僚たちの「戦争と平和」：6）
それでも私は靖国参拝する（声）	常夏…帰ればまた“暑い”秋（乱気流）
靖国や教科書、内政無視では（声）	憲法はどこへ 公報では態度不明（閣僚たちの「戦争と平和」：7）
敗北の予感ひしひし（閣僚たちの「戦争と平和」：2）	後藤田官房長官、A級戦犯合祀の中止期待を示唆
斎藤厚相あす靖国公式参拝 首相の断念で遺族からの反発配慮	台湾紙、「靖国参拝」を批判
遺族政治連盟、自民から離党の動き 首相の靖国見送りに不満	官房長官、文相の批判に論評を避ける A級戦犯合祀問題

<p>「神主として参拝」 靖国問題で綿貫長官会見</p> <p>プロテニス日本第1号は半世紀前にいた 米プロ来日きっかけ</p> <p>皇太子ご訪韓延期を考える (社説)</p> <p>首相、テニスでひと汗 秋へ着々充電</p> <p>ゴルバチョフ書記長来日、87年1月までに 首相、要請の意向</p> <p>靖国問題、遺族会の方の本心知りたい (声)</p> <p>A級戦犯合祀やめれば靖国問題は自然消滅 中国外務次官語る</p> <p>四元義隆さん=78 (ニッポン・自民300時代:15)</p> <p>8月のことば抄録 外国人の目に映る日本 (天声人語)</p> <p>新たな保守本流作りに意欲 軽井沢での中曽根首相講演<解説></p> <p>鎮魂と平和への思い一段と (声・8月の投書から)</p> <p>中曽根家の墓に右翼がいたずら 群馬・高崎市</p> <p>「日韓併合、韓国も責任」 文相、「日本侵略論」に疑問の発言</p> <p>藤尾文相の「文春」10月号発言<要旨></p> <p>藤尾発言で政府、打開策に苦慮 韓国に釈明の特使も</p> <p>藤尾発言、中国の反発も必至</p> <p>「日韓」揺する藤尾発言 (時時刻刻)</p> <p>週間報告 (8月30日~9月5日)</p> <p>藤尾発言は見過ごせない (社説)</p> <p>藤尾文相の「日韓併合」発言、首相の「国際的配慮」に反発</p> <p>藤尾発言、圧勝背に右派突き上げ 「統投政権」に影<解説></p> <p>藤尾氏罷免に自民タカ派が反発</p> <p>藤尾文相発言、矛盾さらした親韓派 “民族主義”が対立招く</p> <p>突っ張り文相、党内困惑 藤尾氏「罷免」の舞台裏 (時時刻刻)</p> <p>歴史に学ぶ姿勢こそ (社説)</p> <p>藤尾文相罷免、私たちはこう思う</p> <p>藤尾文相罷免などで自民タカ派が首相突き上げ</p> <p>「中曽根政治」完成目指す 臨時国会での所信表明演説<解説></p> <p>右翼の日教組大会妨害で都心大渋滞、13人逮捕 大会延期だが</p>	<p>首相の訪韓、具体的日程を調整へ きしみ続き、修復狙う</p> <p>衆院の代表質問と政府答弁要旨 (17日) 塚本三郎氏・民社</p> <p>民主政治支える歴史の認識 (社説)</p> <p>元気が出ない野党 自民は数におごり 国会代表質問で記者対談</p> <p>参院代表質問と政府答弁要旨 (18日) 吉岡古典氏・共産</p> <p>「柳条湖」55周年 千鳥ヶ淵で法要</p> <p>翼広げる自民タカ派の国家基本問題同志会 外圧への反発バネに</p> <p>首相の「靖国」答弁、基本は変わらず (断面・86臨時国会)</p> <p>中曽根訪韓、韓国では厳しい目消えず</p> <p>国民感情に配慮必要 日中友好21世紀委開幕式で首相あいさつ</p> <p>伊東政調会長、靖国公式参拝見送りを支持</p> <p>「藤尾発言には憤り」 中国外相、倉成外相に表明</p> <p>首相、11月にも訪中 藤尾発言・靖国問題など訪韓に続き釈明</p> <p>シンポジウム・日中経済を考える (東京) 基調報告と質疑応答</p> <p>中曽根首相、知識水準発言の取り消し拒む 参院予算委で答弁</p> <p>国家秘密法案・靖国問題 (焦点再録 参院予算委・6日)</p> <p>日中関係成熟化の条件は… (記者席)</p> <p>11月の首相訪中、関係修復が最大の狙い</p> <p>倒産 (新自ク・決算書 挑戦と挫折と:1)</p> <p>日本遺族会の自民集団離党問題、大詰めに (記者席)</p> <p>自民党の172議員が靖国神社参拝 中曽根首相は見送り</p> <p>「靖国への資料提供、政府の一般業務の一環」 中曽根首相答弁</p> <p>A級戦犯合祀撤回働きかけに反対 総務庁長官</p> <p>「友人なき日本」 (今日の問題)</p> <p>自民代議士が韓国大使に“暴言” 「干渉続けば戦争」</p> <p>亀井発言に自民内は冷ややか 「微妙な時期に不用意」</p> <p>ある神職の死 (今日の問題)</p> <p>社党委員長、護憲大会でSDI・国家秘密法を批判</p> <p>「軍拡に歯止め、情報公開を」 福岡で“憲法改悪反対大会”</p>
<p>ジレンマ 自民の肥大が足かせにも (統投1年・中曽根政権:5)</p>	<p>靖国参拝・教科書・藤尾発言… ぎくしゃく続く中、首相訪中</p>
<p>「円高不況」や「国鉄」追及 衆院代表質問、まず土井氏</p> <p>首相、SDI参加強調 国鉄新会社に意欲 衆院代表質問に答弁</p> <p>韓国・中国と党内タカ派の板ばさみ 首相答弁大揺れ</p> <p>衆院の代表質問と首相答弁要旨 (16日) 土井たか子氏・社会</p> <p>首相、国家秘密法案に前向き 国会答弁で「国益守るため必要」</p> <p>中曽根首相訪中、中国側の期待と思惑 近代化建設への協力図る</p>	<p>中曽根首相の「仕事」 (社説)</p> <p>胸の奥では敏感な反応 教科書問題と中国の人たち (時時刻刻)</p> <p>衆院予算委で首相が答弁 貿易など対日要求で民主党に自制期待</p> <p>動静 (6日)</p> <p>靖国神社公式参拝を改めて首相に要望 日本遺族会代表ら</p>

中曽根首相、あす訪中 関係再構築目指す

「国民感情尊重、友好深めたい」 首相、訪中結団式で表明

中曽根・胡会談、日中4原則を再確認 胡氏「両国関係に満足」

筋書き通り「成功」、底に厳しい原則順守 日中首脳会談<解説>

首相訪中と今後 威信回復に足がかり 日ソ打開、なお不透明

「きしみ」一応の修復 記者座談会・首相訪中と日中関係

息の長い日中交流を(社説)

国家機密法、増える反対議会 促進議決に目立つ議論不足

草の根方式を促進派も使う 国家秘密法・地方の動き実態調査

中曽根内閣の中間決算

「靖国や教科書問題、再発防止へ努力を」 事務協議で中国表明

銀座・日本橋・目黒に朝日電光ニュース

「暴挙」「内閣退陣も」 1%枠突破で野党側、厳しい非難声明

1%超えた防衛費 自民党の責任で…首相は沈黙(時時刻刻)

声・61年の投書から

´86その他のできごと

付録3: 朝鮮日報コーディング対象表題一覧

<p>1985-1986年</p> <p>일본 문부상등 각료 9명. 15일에 신사 참배키로</p> <p>일본수상 전후 첫 신사참배. 각료대동... 야당 중국·소련 「군국주의 부활」 비난</p> <p>각료 신사참배 촉구. 일본 자민당의원 3백여명</p> <p>정국신사 참배않기로 나카소네, 「반일」 갑안</p> <p><지금 이곳에선> 일본에 각료 신사참배 공식화 논쟁."군국주의 지주"... 신도부활 우려</p> <p>"교과서.신사참배 간섭말라". 일본 자민 소장의원들 이대사에 폭언</p> <p>나카소네 발언 또 말썬."야스쿠니신사 불안자는 동양평화위해 전사"</p> <p>고이즈미, 야스쿠니 신사 전격 참배 "8·15 때 참배 할수도 안할수도 없고..." 국내외 반발</p> <p>고려한 '깎깎쇼'</p> <p>2000-2002年</p> <p>고이즈미 또 신사참배 총리 자격... 한국정부 '깊은 유감' 표시</p> <p>"일 총리 신사참배 규탄" '교과서 부분' 정부대응 촉구</p> <p>'고이즈미 신사참배' 항의 정부, 데라다 일대사에</p> <p>대만정부 "신사참배 이해할 수 있어" 현지 언론들은 비난</p> <p>[기자수첩] "일본이 중국을 알봐?"</p>	<p>일본을 강하게 만든 문화코드 16 윤상인 의</p> <p>15인 지음 나무와 숲 9500원 일본문화속</p> <p>진짜 일본을 찾아라</p> <p>익살연기 스타 박 철 민 씨 그가 있기에...</p> <p>지금 대학로는 '폭소잔치'</p> <p>주기철 목사 추모예배 '증산도</p> <p>사상'장간기념회 대중교 교리 교육강좌</p> <p>'신사참배·조선침략 옹호' 일 그리스도교의</p> <p>참회록 '역사에서 무엇을...'등 2권 출간</p> <p>Writer "살아있는한 쓴다" 100세 최태영 용</p> <p>R(일본철도)로 가는 일본의 고향 바다 건너</p> <p>강원도 같은 인심과 정취...</p> <p>◇ 신사참배하는 일극우파</p> <p>"신사참배 각료 안돼"중, 일운수상 방중거부</p> <p>민족과 영육 함께 한 호남 신교육 산실</p> <p>전주 신흥중·고 개교 100돌 9일 기념행사</p> <p>열어</p>
--	---

<p>중, 일방위청장관 방중 거부 고이즈미 신사참배 항의</p> <p>“일총리 신사참배 위험” 한국인, 일법정서 밝힌다</p> <p>일각료 5명 ‘8·15 신사참배’ 국회의원 54명도 단체 참배 고이즈미는 지난 4월 다녀가</p> <p>‘복음과 함께 한 50년’ 개신교 고신 교단 기념대회 24일 고려신학대학원서 열려</p> <p>신사참배 ‘우이독경’ 장쩌민 “다시는 참배하지 마시오” 고이즈미 “과거반성으로 알아달라”</p> <p>‘야스쿠니’ 대체 새 추도시설 논란 속보이는 일 과거청산</p> <p>키워드 본 2001년 지구촌 (6) 일본 우경화 왜곡 교과서·신사참배·파병... 고이즈미 집권후 단숨에 ‘뚝딱’</p> <p>천안 ‘송악과’ 41명 구속 유흥업소 무대로 13년 활동 손가락 잘라 충성서약도</p> <p>아시아 첫 월드컵 한·일 이젠 터놓고 말하자 (2) 양국 개최도시 ‘자전거 투어’ 대학생 난상토론</p> <p>“과거 없애이지않는 우리가 새 이웃관계 만들것”</p> <p>아시아 첫 월드컵 한·일 이젠 터놓고 말하자 (5)한·일 친밀감 차이 왜 벌어지나</p> <p>아시아 첫 월드컵 한·일 이젠 터놓고 말하자 (5)본지·마이니치신문 공동 여론조사</p> <p>부시, 17일 방일... 21일 방중 일, 미에 줄 ‘선물’ 고심</p> <p>제 1회 ‘유관순상’ 받는 사회복지사업가 조수옥씨 “유관순 열사는 내 평생의 표상”</p> <p>한일정상회담 될 논의했나 월드컵 성공 ‘협력의 악수’</p> <p>[사설] 핵심 피해간 DJ·고이즈미</p> <p>[시론] 한·일관계, 시민사회가 풀자</p> <p>조수옥씨 유관순상 받아</p> <p>[시론] 결자해지 해주기를...</p> <p>정부 여론악화 당혹</p> <p>일총리 오늘 방한 국회방문은 불투명</p> <p>“고이즈미 반성하라” 전국 잇단 시위... “일총리 성명은 기만적 정치쇼”</p> <p>고이즈미 ‘초읽기 방한’ 7시간 30분간 공식일정 8개</p> <p>‘특보다 실’ 고이즈미 체류 7시간 무성의한 ‘빈 보따리’ 방한</p> <p>“일총리 신사참배로 정신적 피해입어” 한인정병자 등 640명 손배소</p> <p>‘신사참배 위험소’낸 한국인 지칭 일총리 “이상한 사람들” 발언</p> <p>한국인 사형 ‘망신외교’ 문책 범위와 강도는 장관·대사등도 책임 못면해</p> <p>역사교과서 왜곡문제등 논의 한·일 의원연맹</p> <p>신사참배 거부 조수옥씨 일대기 일서 단행본 출간</p> <p>[기자수첩] 콩치어장 ‘무능외교’</p> <p>중·일 베이징 정상회담 고이즈미 “침략전쟁 사과합니다” 장쩌민 “내년 신사참배 마시오”</p> <p>야, 고이즈미 방한 반대</p>	<p>문순태 교수 집필 오방 최홍중선생 일대기</p> <p>‘성자의 지팡이’ 출간</p> <p>■한국의 지성 100년 강만길 등 지음</p> <p>민음사 지식인들이 걸어온 ‘격랑의 100년’</p> <p>일 교과서수정본 내용 “한·일합방 잘못없다” 여전히 강변</p> <p>가메이 후보, 어제 신사참배 고이즈미 “나도 총리되면 할것”</p> <p>사설 ‘고이즈미호’ 심상치 않다</p> <p>일 첫 여성외상 다나카 전총리 만말</p> <p>개헌·신사참배 반대입장</p> <p>이즈미 ‘신사참배’ 연정내에서도 논란</p> <p>일신임각료 대부분 “공식적 신사참배 안해” 총무상 등 3명만 개인자격 참배 밝혀</p> <p>신사참배 의사 밝힌 고이즈미총리 “주변국서 반발하더라도 강행”</p> <p>“일총리 신사참배 우려” 정부입장 공식 전달</p> <p>중, 일총리 ‘신사참배’ 공식항의 일대사 불러 신증처리 요구 고이즈미는 “강행” 재확인</p> <p>김대중 칼럼 DJ 정권의 우선순위</p> <p>마이니치 여론조사 일국민 90% “총리 신사참배 찬성”</p> <p>“한·중은 신사참배 간섭말라” 일 고이즈미 총리</p> <p>“일총리 신사참배엔 증방문 허용 안할것”</p> <p>중, 일에 비공식 표명 양국갈등 점점 깊어져</p> <p>“총리 신사참배 재고를” 다나카 일외상</p> <p>기자수첩 강대국 내셔널리즘</p> <p>고이즈미 “국립묘지 신설 검토” 야스쿠니 참배 입장은 고수</p> <p>김정남 송환 잘못... 신사참배 몇몇이 하자”</p> <p>일중학교 시험문제 물의 왜곡교과서</p> <p>집필교사 출제</p> <p>“일 총리 신사참배 헌법위반” 아사히신문</p> <p>“국가기관은 종교적 활동 안돼”</p>
--	--

<p>[미니칼럼] 아직도 '일제바람'인가</p> <p>신사참배 해의 반응 “일의 적과 동지 모두 화나게 해” 가디언 “망명들을 위한 전쟁이 시작됐다”</p> <p>르몽드</p> <p>조선일보를 읽고</p> <p>시론 일은 패전의 교훈 잊었는가</p> <p>의견</p> <p>8.15 56 돌 해방동이 작가 최인호·일경지학자 호사가 유우지 대담 “교과서 왜곡…신사참배…일</p> <p>아직 ‘종전’안해”</p> <p>확성기</p> <p>일 규탄 곳곳 집회</p> <p>◇신사참배 규탄</p> <p>아각국, 신사참배 일‘규탄합성’</p> <p>일 ‘8·15 패전기념일’ 야스쿠니 신사 표정 참배객들, 옛 군복입고 ‘제국’찬양</p> <p>의견</p> <p>“고이즈미 ‘일 과거 가해책임 발언’ 부적절했다” 일극우파 반발</p> <p>고이즈미 일총리 내달 동남아 순방</p> <p>고이즈미 일총리 10월 한·중방문 추진 의무성에 준비 지시</p> <p>여론조사 허딩크감독 지지도</p> <p>일 NGO 피스보트 회원 500여명 한국 찾아 교과서 왜곡 항의시위</p> <p>독자와의 대화 / 일교과서 항의… ‘1인시위’로 뉴스위크지 표지 소개된 신혜씨 “정치권력 비판했다고 ‘음란물 유포’가 되나요”</p> <p>방송가</p> <p>“사과없이 방한없다” 큰소리치더니… 정부 대일외교 다시 ‘U’턴</p> <p>야 “국민정서 무시” 이만섭의장도 비판</p> <p>고이즈미 15일 방한</p> <p>‘일 역사왜곡 실제’전 사진으로 고발한 일계 만행</p> <p>“일총리 신사참배는 위헌” 한일단체 일법원에 제소</p> <p>고이즈미, 신사참배 강행</p> <p>8·15 이틀전 야스쿠니로… 동북아 ‘고이즈미 충격’ 교과서·퐁치 이어 또… 악재만 쌓여</p> <p>색연필 “참배 반대” 단지한 사람들 충남 지역의 무술인 조직</p> <p>‘신사참배’ 항의집회 봇물 “평화 파괴하는 도전행위”… 시위·성명서 쏟아져</p> <p>“야스쿠니 신사 참배는 아시아 평화위협 행동”</p> <p>태평양 전쟁 희생자 유족회 김경석·홍영숙 부부 사재 털어가며 일제만행 고발</p>	<p>시론 ‘선린’은 없다</p> <p>일선 “교과서는 지난일” ‘신사참배’ 새</p> <p>뇌관으로</p> <p>중‘신사참배 철회’요구 고이즈미, 정면 거부</p> <p>ARF 회의 8시간 내내 ‘서막’ 한장관</p> <p>“대화좀 합시다…” 북한 허종대사는 외면</p> <p>“일총리 신사참배 철회하라” 중의무,</p> <p>일본말로 경고</p> <p>근현대 종교사의 현장 (5) 여수 애양원</p> <p>‘사랑의 원자탄’ 손양원목사 나환자들과</p> <p>함께 생활하던 곳</p> <p>“총리 신사참배는 위헌” 일변연, 고이즈미</p> <p>비판</p> <p>“신사참배 숙고해서 판단” 고이즈미 일총리</p> <p>힘받은 고이즈미 한·중에 눈돌리나 신사참배</p> <p>여부가 시험대</p> <p>일 여 “신사참배 자제” 잇단 촉구</p> <p>야 ‘친일’ 반격 계속 “이 정권 친일만 부각,</p> <p>용공은 은폐”</p> <p>“일총리 신사참배뻔 강력대응” 정부당국자</p> <p>밝혀</p> <p>◇일 시민단체 “총리 신사참배 반대”</p> <p>일, 대중 개발원조 발표 연기</p> <p>무역분쟁·신사참배 갈등 영향</p> <p>특과원 메모 우경화바람 막는 일의 ‘풀뿌리</p> <p>양심’</p> <p>고이즈미, 신사참배 고집 안취을듯</p> <p>일각료 9명 “신사참배 않겠다” 의원 42명은</p> <p>“총리 참배 실현” 모임 결성</p> <p>◇일시민단체도 “총리 신사참배 말라”</p> <p>조선 테스크 고이즈미의 ‘논리’</p> <p>시사·교양</p> <p>◇ “고이즈미 신사참배 말라”</p> <p>이동휘 “일총리 신사참배 지지” 망언</p>
---	---

<p>“신사참배엔 아전역서 분노 침략행위 인정하고 자제를”</p> <p>위패 반환운동 야노 히데키씨 “일왕위한 죽음 기리는 곳… 한국인 뒤선 안돼”</p> <p>◇“일총리 신사참배 반대”</p> <p>“참배 일국익에 도움안돼” 나이 전 미국방차관보</p> <p>“신사참배 자제를” 영 이코노미스트지</p> <p>왜 ‘야스쿠니’가 문제인가 <하></p> <p>일 왜곡교과서 채택률 1%선… 거부운동 앞장선 일본인 좌담 “풀뿌리 시민과위가 이겼다”</p>	<p>특과원 메모 ‘원폭 56주년 행사’ 일피해만 강조</p> <p>왜 ‘야스쿠니’가 문제인가 (상) 종교 덧칠한 군국일본 성전</p> <p>저비판 일본 우익의 역사관과 이데올로기</p> <p>‘교과서에 진실과 자유를’연락회 엮음 / 김석근 옮김.바다출판사 / 1만원</p> <p>왜 ‘야스쿠니’가 문제인가 (중) 총리 참배는 ‘사죄’뒤집는 짓 주변국들 무시하는 도발 행위</p>
--	--

付録4: ハンギョレ新聞コーディング対象表題一覧

[서울돋보기] 다른 체제, 같은 기만	중, 대미 군사교류 개선 합의/대일 협력강화엔 난색 표명
논쟁으로 본 한국사회 100년	[아침햇살]아시아의 자존심
일 '종전기념일'표정/당당한 신사참배.우익깃발 뒤덮어	왜냐면토론/일제강점하 강제동원 진상규명 특별법 시급히 제정하자
중, 일 운수상 방증 거부 '신사참배에 반발' 추측	[특과원 리포트]변함없는 '야스쿠니 8·15'
뉴스인물/ 일 내각에 기용된 하시모토 전총리	'북.일정상회담 평가' 전문가 긴급좌담/북.일 경험규모 줄다리기 수교협상 난제
기고/양심적 병역거부와 법	사회사업가 조수옥씨
[논단]일 역사왜곡과 독도	[사설]일본의 위협한 군사력 과시
[한승동의 도쿄비망록] (3)미국 일 우익 전략적 활용	고이즈미 “내년도 신사참배
일 총리후보들 '당선되면 신사참배 당연'	중군위안부 책임규명 혼신 / 일 여성운동가 마쓰이 사망
일 차기총리 후보들 '누가 국수주의노래 잘하나'	[발언대]김 대통령의 역사의식
[한승동의 도쿄비망록](11-끝)과거에 사로잡힌 나라	[사설]일본총리 방한에 앞서 할 일
고이즈미의 일본(상)사실상 총리 당선 의미/불황 파벌정치 준엄한 심판	고이즈미 방한 배경.의미/한-일문제 해결 아닌 시작일뿐
일 고이즈미 내각 내일 출범	일총리 사과 95년 무라야마 담화 수준/정국 당국자 밝혀
고이즈미의 일본(중)외교 전방/대외정책 우경화 강성 예고	김하중 신임 주중대사/중요한 시기 중국 지렛대삼아야'
고이즈미 김정남 추방 적절 / 첫 국회연설 '성역없는 구조개혁' 강조	일 총리 방한반대' 시민단체 서명운동
고이즈미 '개인자격 신사 참배 계획	고이즈미 총리의 방한을 반대한다
고이즈미 신사참배 발원 주변국 규탄 부를것	고이즈미 방한 긴장 / 오늘 야당.시민단체 반대시위 계획
고이즈미 여론따라 갈지자결음	[사설]'결자해지' 않은 한일회담
한뿌리 두 줄기 장신대.총신대 100돌 맞는다	한일 정상 대화록 / '공치 해결책' '고위급서 협의'
8월 15일 야스쿠니 참배 고이즈미 '총리자격으로'	한일 정상회담 의미/기대 못미친 역사인식 설익은 관계회복 시도

고이즈미 '신사 참배' 중 반발등 파문 확산 / 일 외무성도 우려 표명	[특파원리포트]대일외교 악순환
중,미 애플설득 '퇴짜'	[해의논단]화해의 월드컵을 위하여
못말리는 고이즈미 신드롬	한국유족 `신사참배' 제소
일 과거사-신사참배 한,중 공동대응 하나	세계의 사회면/대비되는 두 중국인
힘들때면 '자살 특공대' 떠올린다/일 고이즈미 총리	대입구술 면접요령/지원 계열별 관련시사 정리 . 자기소개 등 영작연습 필수
한 일 외무 오늘 교과서 논의/아셈장관회의 폐막	[특파원 리포트] `서울거리.도쿄거리'
[잠간독서]야스쿠니신사 -오에 시노부/박카스 40 년-신인섭	2001 년 10 대뉴스 한겨레 선정 국제
신사참배 외교문제 아니다 / 고이즈미 일 총리	일본 / 죽순 경제속 일제히 '우향우'
[아침햇살]대한해협의 태풍경보	2001 년 지구촌 뉴스의 사람들/빈 라덴 전 세계가 주목한 이름
신사참배때 고이즈미 방중 거부	[세계 지성과의 대화](3)사카모토 요시카즈 도쿄대 명예교수
[동아시아 여록]애플에 봉사하는 일본우의	[동아시아 여록]동남아의 자유무역 바람
나카타니 방위청장관 8.15 신사참배 계획	야스쿠니의 별도 시설엔 김대통령 참배 용의 밝혀
일 역사왜곡 반대 / 홍콩 시민단체 서명운동	고이즈미 일 총리 또 신사참배
일본 잇단 외교마찰 배경.전망 / `고이즈미 독선'에 동북아 불안	한,중 '깊은 유감' 표시
일 주변국과 마찰 심화	총리 야스쿠니 신사 참배 / 일 정치권.언론 찬-반 갈려
총리 신사참배 위협 우려	일총리 신사참배 엄중 항의/최 외교,주한일대사 불려
일 근현대사는 못 고친다	[사설]신사참배 항의만 할 때 아니다
일 교과서 수정거부 파문 / 한-일 긴장 장기화 불가피	고이즈미 총리 신사참배 항의 / 중, 대일 군사교류 연기
김종필총재, 일에 강경발언	100 회 맞는 제작진 학계소리 청취/명성황후 역사적 진실은 몇점?
[특파원리포트]고이즈미 인근 멸시외교	왜냐면 토론/일본 역사교과서 왜곡 `납 애기' 아니다-교육부에 다시금 묻는다
일본 대응 의도 / `해석차이'이유 시정 발뻠	공동개최 양국관계/월드컵, 한-일 갈등 방파제 구실
8월 신사참배뒤 한,중관계 복원 / 고이즈미	[특파원 리포트]'치밀한 외교'가 이긴다
장쩌민주석 일에 불만 표시 '역사는 인위적으로 못바꿔'	월드컵 D-1' 한-일 지성 이메일 대담/"축구언어로 21 세기 한-일 새역자 쓰자"
일본전범과 함께 추모 용납못해/야스쿠니 신사 위패 둘러달라	[사설]또다시 군국주의를 꿈꾸는가
전몰자 향지급 일 헌법 위반 / 고이즈미 신사참배 공용차 이용도 영향	세계평화위한 한반도 화해.통일 국제회의/브루스 커밍스.최장집 대담
25일 열리는 하노이 아세안지역포럼 미리 보면...	고이즈미 신사참배때 '신도 의식' 받았다
일 총리 야스쿠니 참배말라/최상용 주일대사	[이원섭 칼럼]냉전논리 뿌리찾기
기고/한-일 민간교류 계속되길	일 정부 '고이즈미 참배는 사적 행동'
일 외상 '총리 신사참배 반대	일 해명없인 정상회담 불가 / 정부 당국자 발표

일 자민 참의원 선거 압승	채관기록등 자료검토 일 군국주의에 경고/일 전범 입국금지 의미
기고 / 고이즈미호 향방	일 국민 65% '총리 신사참배 지지
[동아시아 여록]교과서 왜곡.신사참배 내면	고이즈미 10 월안 방한 준비지시
일 총리 8.15 신사참배 논란	한.중 고이즈미 방문 거부
고이즈미 인기 거품이었나? / '아사히' 조사.취임때보다 지지율 15%p 하락	고이즈미 방한반대 한국어론 / 일 '당혹스럽네
일 신사참배 폭탄 째깍째깍	사카구치 일 후생상 방한때 고이즈미 친서 전달 가능성
[특파원리포트]교과서와 민간교류	한승수 장관 아리랑 TV 출연 . 한반도 외교.신사참배 거론
일 총리 A 급전범 참배 반대'	월드컵 성공개최 위한 한.일 직능인대회주최 문상주
야스쿠니신사 참배때 공인자격 오해 없게하라' 일 정부, 주의사항 지시	직능단체총연합회장
고이즈미 신사참배 왜 매달리나	[해의 논란] 한-일 시민교류의 힘
이인제-박상천 `교과서 대응' 논쟁 / '유연한 대처'-'강경대응을' 맞서	일 신사참배 규탄 `뜨거운 광복절
국민기자석/건강보험료 불만 많은데 공단 상당창구 너무 부실	[데스크칼럼]에밀레종과 일본도
우익단체 교과서 채택 반대/일 학자들, 본사에 성명전달	여야 총재회담 이르면 내주에
[취재파일]전 대만 총통의 친일 망언	김대통령 8.15 경축사 의미/여야 대화복원 사회갈등 풀기
고이즈미 어제 신사참배 경부 '심한 배신감' 규탄	
고이즈미 신사참배 일 안팎 반응 / 야스쿠니 참배 담화요지	
정부 `외교부 성명' 대응수위 높여	
화성 제암리 극일 선언식	
역사왜곡.신사참배 항의 구국결사대 `단지 시위'	
일본 총리 신사참배 위협 한.일 민간단체 소송 추진	
위안부할머니 '한' 다시 새긴다. 광복절 맞아 다양한 행사	
일총리 신사참배 규탄 곳곳 시위	
김대통령 오늘 `강한 유감' 표시	
고이즈미가 신사참배때 내 담화 도용/ 무라야마 전 일 총리 분노	
정부 대응 가시화/일대사 불려 공식항의	
고이즈미 참배 후유증/일 진보-보수 모두 불만 외국인론 '외교위기 초래'	
[사설]참회 없이는 우호도 없다	
[취재파일]집권당의 대일 일회성 처방	
무토 이치요 공동대표 / 고이즈미 대중정서 편승 과거회귀	
[동아시아 여록]야스쿠니에서의 고이즈미 맹세	
고이즈미 내각 17 명중 10 명 참배/일 폐전기념일 신사참배 이모저모	
고이즈미 '한-일 정상회담 희망'/우리나라가 고통줬다 가해주체 처음 언급	

付録 5 : 国会議員ブログ全文

議員	日付	ブログの内容
古屋圭司	2008年8月 16日	今年も残暑きびしい 8月15日、終戦記念日を迎えた。私は初当選以来、毎年、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の多くのメンバー有志と靖国神社を参拝し、そのあと天皇・皇后両陛下がご臨席のもと開催される全国戦没者追悼式に参列するのが恒例の日程となっている。靖国参拝は先の対戦で犠牲になった英霊に哀悼の誠を捧げるとともに、尊い犠牲のもとに平和と繁栄があることを改めて認識するものだ。戦後63年にわたり平和主義に徹し、他の国で一発の銃弾も発射していないのは我が国が戦後歩んできた歴史である。であるからこそ、総理大臣にはぜひ参拝をしてほしいと多くの国民が望んでいるのでは。その後、参列した戦没者追悼式における衆議院議長の前での追悼の辞では、太平洋戦争を侵略戦争と決めつけた言葉や、竹島を念頭に領土問題、無宗教の追悼施設建設に言及したことなど?と疑問符をつけたいくなる発言が昨年に引き続き飛び出したのは残念だ。果たして追悼式典につかわしいものなのだろうか。参列した多くの人達は同じ思いを抱いたのではないだろうか。我が岐阜県からも多くの遺族の皆様が参列されており、式典開始前に丁寧に挨拶をさせていただいた。今年もあの広い日本武道館一杯の参列者が心をひとつにして、犠牲者の霊に哀悼の誠を捧げた。戦後生まれの政治家である私にとっても、この日は特別な一日でもある。決して風化させることなく、国の健全な発展と郷土のため全力を尽くしたいと改めて思う一日だ。私の8月15日は無事終わり、トンボ帰りで地元に戻り国会開会までの間、引き続き精力的に地元廻りをして、有権者の生の声を真摯に聞きながら、今後の政治活動に活かして生きたいと念じている。
	2011年7月 19日	先週の13日から16日まで、靖国神社で「みたままつり」が開催された。お盆にあわせ昭和22年に自然発生的に始まった「みたままつり」は、東京の夏の風物詩として親しまれ毎年30万人もの人が訪れている。「みたままつり」では、都内で一番早い盆踊りや多くの夜店、みこしや、様々な奉納行事が繰り広げられ、本殿では毎夜、英霊をお慰めする祭儀が行われる。期間中には、境内に3万を超える提灯や、その中には各界著名人の献灯が掲げられ大変見応えがある。私は、今年も提灯を出した。私は例年、春と秋の例大祭、そして8月15日には靖国参拝を必ず行っている。また、地元から毎年参拝される遺族会の皆様へのご挨拶も欠かしていない。やはり、今の日本があるのは、英霊の尊い犠牲があってからこそ今があるということをつつまでも忘れてはならない。そして、我々はこの日本をこれからも守っていかなくてはならない。
	2017年4月 21日	靖国神社春季例大祭にあわせ「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」自民党代表として、日本の平和と安寧を祈りつつ、国のために犠牲になった尊い英霊に対して、玉串を奉典させていただきました。 私は、初当選以来、毎年春・秋の例大祭と8月15日には必ず参拝しています。 戦後生まれの世代、特に20代、30代の若者は、今の日本の繁栄と平和は英霊の尊い犠牲があったからこそと心に刻むため、ぜひ参拝をしていただきたいと思います。
	2017年8月 15日	本年は、72回目の終戦記念日。 日本の平和と安寧を祈りつつ、国のために犠牲になった尊い英霊に対して、哀悼の誠を捧げさせていただきます。

		<p>平成2年の衆議院議員初当選以来、春と秋の例大祭、八月十五日には必ず参拝をしております。今後とも「積極的平和主義」のもとアジア太平洋地域をはじめとした世界の平和と安定のために、政治家として、一人の日本人として、全力を尽くして参ります。</p> <p>私が靖国を参拝する理由について、添付いたします。</p>
	2019年3月18日	<p>春の参拝季節を迎えて、地元からも各地から遺族会の皆さんが靖国神社に参拝に来られます。私は日程が許す限りできるだけ、皆さんにご挨拶に行ってます。今日は、多治見市から50名ほどの皆さんが参拝に訪れました。私自身も春と秋の例大祭、夏の御霊まつり、8月15日には毎年参拝しています。戦後生まれの政治家として一人の日本人として、戦後の繁栄と平和は尊い英霊の犠牲の上に成り立っていることを心に刻み参拝しています。</p>
	2019年4月23日	<p>毎年恒例の春の例大祭に合わせ「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」にて今朝参拝。私も初当選以来基本的に毎年春・秋の例大祭、8月15日、御霊まつりの際に参拝を欠かしたことがない。私が何故参拝するかはいつものことながら添付コメントをご覧ください</p>
	2019年8月15日	<p>74回目の終戦記念日である本日8月15日、靖国神社を参拝しました。平成2年の衆議院議員初当選以来、春と秋の例大祭、八月十五日には必ず参拝をしております。日本の平和と安寧を祈りつつ、国のために犠牲になった尊い英霊に対して、哀悼の誠を捧げさせて頂きました。</p>
	2020年8月15日	<p>戦後75年を迎えた終戦記念日の今朝に靖国神社を参拝。私は初当選以来、春秋の例大祭そして8月15日の靖国参拝は公務海外出張以外は欠かしたことがない。何故参拝するかは、いつものことながら添付画像をご一読下さい。なお台湾から帰国後は活動を控えていますが、一人で参拝するなど感染症対策の徹底をしています。</p>
	2022年8月15日	<p>今日九時過ぎに靖国神社を参拝致しました。私は32年前に初当選以来、海外出張等やむない時以外は、毎年春・秋例大祭と8月15日は閣僚の時も含め参拝しています。何故私が参拝するかは、いつものことながら、私の考え方を記します。</p>
井上信治	2008年8月15日	<p>終戦後63年目を迎える今日、毎年恒例の靖国神社への参拝に行ってきました。午前8時から自民党東京都連青年部・青年局の仲間98名と、午前11時からは「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の53名と共に、英霊に哀悼の御霊を捧げて参りました。また、正午からは日本武道館における全国戦没者追悼式にも出席して参りました。</p> <p>大変な猛暑の中でしたが、やはり終戦記念日には、日本の国民として戦没者の皆さまに思いを致すとともに、世界の平和を考え、不戦の誓いを念ずることが大切です。</p>
	2014年4月22日	<p>今朝、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会（会長：尾辻秀久元厚生労働大臣）」の同志と共に、靖国神社に参拝しました。靖国神社では、昨日21日～23日の間、春季例大祭が行われています。今朝、昨日までの天気予報によると雨ということで心配していましたが、</p>

		すっきりとした晴天に恵まれ、嬉しく思います。 国民の代表である国会議員として、国のために尊い犠牲となられた英霊に、心から哀悼の誠を捧げます。
木原誠二	2009年11月 20日	先ほど、地元遺族会の皆様とともに靖国神社に昇殿参拝してきました 遺族の一人として、レイテで戦死した翁叔父をはじめ、栄霊の御霊の安らかならんことをお祈りさせていただきました
	2010年8月 10日	One out はまだ三振ではありませんよ、頑張れ、というコメントをいただきました。 ありがたいことです。もちろん、一回ダメだったぐらいで、ダラダラするつもりは毛頭ありません。勇気づけられます。 さてさて、8月15日が近づいてきました・・・。大叔父二人を含め、英霊の御霊と靖国でお会いする日でもあります。 この時期が近づいてくると、いつも胸がキリキリと痛くなります。 祖国のため、家族のため、郷里のため、一身を捧げて散った数々の命。にもかかわらず、祖国のリーダーたる首相は、靖国に参拝しない。 もし外国に気兼ねしているのだとすれば、それは変な話です。 戦争に本来、善も悪もなく、あるのは勝ち負け。負けたからといって、勝った側に気がねして英霊を放置していいわけがない。 百歩譲って戦争に勝ち負け以外で判断される善悪があるとしても、その善悪は、命を捧げた個々の英霊に帰すべきものではないはず。 更に百歩譲って、個々の英霊ではなく、戦争に突き進んだ、あるいは戦争を早めに終結できなかった当時のリーダーに善悪が帰すとすれば、そのことについて、国内でもっと議論、総括がなされるべきです。少なくとも、その他大勢、無数の英霊の御霊を放置する理由にはならない。 何の議論もなく、就任当初から「靖国には参拝しない」と明言した菅総理に、是非ご存念を伺いたいと思います。
	2010年8月 14日	今年は、先ほど1日早く靖国参拝をさせていただきました。あらためて、愛する人、家族、地域、祖国を守るために散った多くの英霊の御霊にお礼を申し上げます。 何故、一日早くかということ、今日から19日まで中国へ出かけるからです。今回は、内チベットの砂漠のど真ん中での植林作業に参加します。主催者から配布された持ち物チェックリストの中にトイレトペーパー2巻とペットボトルの水とあったときには、大丈夫かなと思いましたが、一度は砂漠を経験するのによいことだと思ひ、また、日中友好にとって何よりも環境面での貢献が大切だと思ひ、今日から参加です。 さてさて、ブログへのコメントで、靖国神社に対する日本人と外国人の認識がかけはなれているというご意見をいただきました。全くおっしゃるとおりで、私はいつも思うのですが、小学校でも中学校でも、ガキ大将みたいな子がいて、その子になると昔友達をちょっとイジメたということは忘れてしまっている、イジメラレタと思っている側は、20年後の同窓会なんかでも、「昔お前に随分イジメラレタよ」と話題になることがよくあります。 そう、やった側は忘れても、やられた側は末代まで覚えているものです。その上、中国、韓国では、徹底した反日教育で靖国神社は悪の権化のように教えられているわけですから・・・。 そのことを我々は肝に銘じたいので、それでも、我々は、尊い命を賭したお一人お一人には何の罪もないし、その献身的な行動に対して、最大限の敬意と感謝を示すべきだと、私は思っています。何しろ、英霊の御霊は、「靖国で会おう」そうおっしゃって散っていったのですから・・・。 その日本人の想いをいつか中国、韓国にも説明できる時がくると思います。 少なくとも、ただただ謝罪を繰り返すだけではない未来は切り開けません。

付録6：古屋圭司氏「靖国参拝」に関するブログ添付コメント

靖国神社参拝についてのコメント

自由民主党 選挙対策委員長
衆議院議員 古屋圭司

日本は大戦後自由と民主主義に復帰しただけでなく、法の支配、人権、人道主義の下で、平和主義に徹した国家運営を進めてきた。日本は七十一年間、他国で一発の発砲も行っていないが、これは先の大戦に対する日本政府と国民の深い反省に基づくものである。安倍内閣が「積極的平和主義」を掲げているのも、このような考えに沿ったものである。

私は、国会議員に当選以来、春の例大祭、八月十五日、秋の例大祭での靖国参拝を欠かしたことがない。靖国神社とは一部メディアで喧伝されるような戦争を美化するための施設などではなく、明治維新以来、国のために命を捧げた肉親や友人の魂を癒す場所として、過去一〇〇年以上にわたり、多くの国民が維持・参拝してきた施設である。

国会議員が、自らの国のために命を捧げた人たちに哀悼の誠を捧げ、平和への誓いを改めて表すことは、国民の代表である我々国会議員の責務であると考えている。

また、私は衆議院議員であると同時に日本人でもあり、一人の日本人として靖国神社に参拝することは当然のことと考えている。

以上が、本日八月十五日に私が靖国神社を参拝する理由である。そもそも、近隣諸国を刺激しようなどという意図は全くない。その上で、一国が、その国のために命を捧げた英霊に對しどのような形で追悼の誠を示すかは、専らその国民が考えるべき国内問題である。

靖国参拝について、日本国内外の一部メディアで過剰な報道がなされている現状は、結果として国益を損ねていると言わざるを得ない。